

# 令和5年 教育委員会第3回臨時会 会議録

1 日 時 令和5年8月10日(木)  
開会 16時00分  
閉会 19時55分

2 会 場 金沢市役所 第二本庁舎 2階 2201会議室

3 出席委員(7名)

教育委員長	野 口 弘
教育委員	田 邊 俊 治
〃	大 島 淳 光
〃	木 村 陽 子
〃	丸 山 章 子
〃	長 澤 裕 子
〃	櫻 吉 啓 介

4 欠席委員(なし)

事務局	教育次長	上 寺 武 志
	担当次長(兼)学校指導課長	貞 廣 賢 了
	学校指導課担当課長(兼)課長補佐	小 川 隆 庸
	学校指導課主席指導主事	古 川 雄 次

金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会	
委員長	松 原 道 男
副委員長	伊 藤 伸 也

教科用図書調査委員

5 案 件

非 臨時議案第4号 令和6年度使用小学校教科用図書の採択について (学校指導課)

6 議事の経過等 以下のとおり

臨時議案第4号について非公開で審議に入り、小学校教科用図書のうち、国語、書写、音楽、英語、家庭について採択を行った。

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

○ 臨時議案第4号 令和6年度使用小学校教科用図書の採択について(学校指導課)

(説明の概要) 本日は令和5年度金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員長の松原道男様、副委員長の伊藤伸也様が出席されている。なお、種目ごとの調査委員長も控えている。

本日の委員会に至る経緯について報告する。6月1日の第1回選定委員会を受け、6月6日に第1回調査委員会を開催した。その折に調査委員会の皆さまには教科書を持ち帰って調査研究を進めていただいた。約4週間の調査研究期間を経て、7月4日に第2回調査委員会を開催し、調査研究の結果を資料Aの調査研究報告書としてまとめたいただいた。また、金沢市立小学校54校1分校にもそれぞれ研究委員会を立ち上げ、調査していただいた。その調査研究の結果をまとめたものが資料Bの調査研究報告書である。

さらに、各小学校の調査研究や、市民、保護者の方々に教科書を見ていただくために教科書展示会を開催した。金沢市教育プラザ富樫において6月12～29日の18日間、常設展示を行うとともに、金沢市立小学校の32校において6月8～29日の期間、各校4日間ずつ移動展示を行った。これら

の展示会においては、広く市民や保護者の方々にも閲覧していただくとともに、意見箱を設置し、意見を寄せていただいた。なお、石川県では6月14～27日を教科書展示期間とし、金沢市内では金沢市教育プラザ富樫のほか、石川県教員総合研修センター、石川県立図書館に教科書を展示した。

期間中、教育プラザ富樫では一般の方が50名、教職員等を合わせると138名が教科書をご覧になった。各学校での移動展示では、一般の方が45名、教職員等を合わせると600名が教科書をご覧になった。両展示会場を合わせると、一般の方が95名、教職員等を合わせると738名が教科書をご覧になった。なお、教科書展示会において、プラザで42枚、移動展示場では31枚の市民からのご意見が寄せられた。それらの調査研究報告ならびに資料等に基づき、7月25日と26日に第2回、第3回の選定委員会を開催し、教科書採択に係る答申内容について審議を行い、本日ここに答申書をお渡しする運びとなった。

金沢市立義務教諸学校教科用図書選定委員会の松原委員長より金沢市教育委員会の野口教育長に、令和6年度使用小学校教科用図書の採択に係る答申書を提出していただく。

松原選定委員長

諮問を受け、公平かつ慎重に審議を行い、小学校教科用図書の採択に係る意見の結果をまとめたので、答申いたします。

野口教育長

松原選定委員長をはじめ、副委員長、そして委員の皆さまには、長い間、時間をかけて丁寧にご審議いただきました。心から感謝申し上げます。今ほど頂戴した答申書を基にして、教育委員の皆さまと教科書の採択に向けての審議をさせていただきたいと思っています。ありがとうございました。

(説明の概要) この答申書は、全ての発行者について金沢市の採択方針に基づき調査研究をした調査研究委員会、各学校の研究委員会の報告、教科書展示会に寄せられた意見等を基に、児童にとって分かりやすいものか、学びやすいものかなど、全体としてのバランスを重視しながら、選定委員それぞれの立場から幅広い審議を行い、発行者の優れている点を中心にまとめたものである。採択に当たり、審議の参考にさせていただければと思う。

資料A「教科用図書調査委員会 調査研究報告書」は、各教科の実践に優れた教員を中心とした調査委員会において、約4週間、綿密に調査研究を実施し、作成した報告書である。縦の欄は、金沢市の採択方針に基づき設定した調査研究項目である。「特別の教科 道徳」では7項目、英語では10項目になっているが、それ以外の種目については9項目で調査研究した報告書になる。発行者は左から発行者番号順に略称で掲載してある。

資料B「各小学校における教科用図書研究委員会 調査研究報告書」は、市内の全小学校54校1分校全てで調査研究をし、各発行者の優れた点を中心に挙げていただき、それを事務局で取りまとめたものである。括弧に示されている数字は、類似した意見を取りまとめた意見の合計数である。ご覧いただく際には、合計数とともに、各学校の先生がそれぞれの教科書についてどのような点が優れていると感じているか、それぞれの教科書の特徴をどのように捉えているかという視点でも参考にさせていただければと思う。資料Bの14ページからは、資料Bの別紙として、優れている点以外についてご意見のあったものをまとめたものである。

資料Cは、教科書展示会に寄せられた市民の意見をまとめたものである。

資料Dは、各団体等から教育委員会に提出されている教科書採択に係る要望書である。

最後に、石川県教科用図書選定資料は、参考資料として石川県教育委員会が作成し、教科書採択の指導・助言・援助として金沢市に送付されたものである。発行者ごとに特徴・特記すべき事項が書かれている。

これらの報告書や資料を基に、全13種目の発行者について答申書を取りまとめた。

野口教育長

この後は選定委員会からの答申を基に、各教育委員の皆さまからのご意見を頂きながら、この教育委員会議で採択をしていきたいと思っているので、会議の進行にご協力を賜りたいと思います。

これからの進め方について確認します。まず、選定委員長に1種目ずつご説明いただいた後、その種目についての質疑応答を行います。終わったら、選定委員長、選定副委員長、調査委員長には一度ご退席いただき、その種目について審議し、採択を行います。なお、審議の中で再度確認したいこと、またはそ

の前に確認できなかったので確認したいことがあれば、再び選定委員長、選定副委員長、調査委員長に質問や説明などを求めることができます。

今日は、国語、書写、音楽、英語、家庭の順に5種目の採択を行いたいと思います。このような進め方でよろしいでしょうか。ありがとうございます。

なお、本日の会議の終了時刻は19時を予定していますが、終了予定時刻になっても審議が終了しない場合には、休憩を挟みながら再度慎重に審議を行っていきたいと思います。よろしくお願いします。

## ○種目「国語」

〔国語：説明の概要（選定委員長）〕

これから、どの種目の報告についても、まず答申書ごとに各発行者の優れている点について、調査委員長から報告のあった点を中心に報告する。次に、選定委員会において、調査委員長に対して質問のあった内容を報告する。その後、調査委員会の報告書、研究委員会の報告書、市民の意見を基に、私ども選定委員会で審議した内容について報告する。

国語は3者について報告する。

東京書籍は、項目5に関して、現代的な諸課題について積極的に取り上げており、例えば6年生では、プラスチックごみの問題について複数の情報を関連付けながら文章を読み、解決法を考えることができる。項目1に関しては、単元の初めと終わりの「言葉の力」で、単元を通して身に付けたい力、付いた力が明確に示されている。

教育出版は、項目3に関して、吹き出しのある写真で児童が場面を想像したり、気持ちを想像したりするなど、児童の興味・関心が高まるような学習が多く設定されている。項目4に関しては、イラストを用いて故事成語の成り立ちを示すなど、伝統的な言語文化を児童が身近に感じられるよう工夫されている。

光村図書は、項目2に関して、課題を解決する過程を重視した単元の流れが示されており、金沢型学習スタイルの流れに合っている。例えば「問いをもとう」は児童が課題意識を持って学習に取り組むことができるようにしており、他者にはない視点である。項目6に関しては、巻末に『『たいせつ』のまとめ』という見出しがあり、1年間を振り返り、また次の学年での学びにつなげていく構成になっており、学びの系統性が大切にされている。

以上の特徴を基に、選定委員会で質問があった。項目1に関しては、光村図書と教育出版の巻末の違いについて質問があり、調査委員長からは「両者付けたい力は載っているが、光村図書はこんな力が付いたよというメモ欄まである。教育出版は振り返りの観点が2観点だけだが、光村図書は『知る』『読む』『つなぐ』の3観点になっている」という回答があった。

項目5の現代的な諸課題に関してはSDGsが取り上げられているが、例えば生成AIを使ったときに文章をしっかりと読み解く力など、それ以外の議論はなかったのかという質問があった。それに対して、これからインターネットに関する職業に就く子どもが多くなるが、教育出版ではそういうものを使った教材が読み物の中に入っているし、東京書籍では多様な人物が載っているという回答があった。

次に、項目8の関連図書に関する記載の違いについて質問があった。回答としては、東京書籍は、著名人の読書体験が載っているページが各学年で設けられている。教育出版では、「ひろがる読書の世界」のコーナーが読んでみたくなるページ作りの工夫がされている。光村図書は、教材と同一作者の作品を取り上げていることが特徴的である。

次に、現代的な諸課題として、特にインターネット関連の内容について、先に説明があった東京書籍以外に取り上げているものは何かという質問があった。回答としては、光村図書の6年生の「デジタル機器と私たち」は、自分たちの使い方などに対してモデルが出て、使うときにどういうことが大切なのかを考えながら国語の勉強をしていく教材であるということだった。

次に、項目4は東京書籍については紹介があったが、光村図書についてはどうかという質問があった。例えば、6年生の「季節の言葉」では、二十四節気など四季に関わる言葉を多数取り上げ、四季を感じて、自分で想像しながら言語文化を学ぶことが挙げられるという回答であった。

次に、国語の見方・考え方で言語の意味、言語の観点が考慮されているものはどれかという質問があった。光村図書の「言葉の宝箱」で、人物を表す言葉、物の様子を表す言葉、気持ちを表す言葉と

のように語句を増やしていく一つの手助けになるものがあるという回答があった。

その後、選定委員会で議論し、項目1の教育出版と光村図書については、調査委員長の報告から、教育出版と同様、光村図書でも巻末で具体的な観点から学びの確かめが行われており、その内容や評価の高さが伝わるよう、文言を修正した。また、読書の観点から、同じ作者ということもそうだが、光村図書は同じテーマや書きぶりも関連させながら学習を進めていく形態を取っており、そこも大きく評価できるのではないかというご意見があった。

項目2について、光村図書の3観点で振り返るところは、学習内容がきちんと定着できたかどうかという点で大事な要素であり、適切であるという意見があった。

項目5に関して、情報リテラシーは現代的な諸課題についての対応という点で大切であることを強調したいという意見があり、特に東京書籍の現代的な諸課題については、情報リテラシーの部分が詳しく取り上げられているという意見であった。

以上の議論を経て、最終的に3者のうち特に評価が高かったのは東京書籍と光村図書であった。

[国語：質疑応答]

櫻吉委員

教科書の内容量についてお聞きします。5年生、6年生の教科書を見ると、教育出版は上下に分かれています。東京書籍、光村図書は1冊です。ページ数の合計を見ると、分冊になっている方が10%ほどページ数が多いように思えます。内容量としてはほぼ同じになっているのでしょうか。それとも、少し量が多い状態になっているのでしょうか。

松原選定委員長

他の種目についても、分冊になっていることが選定委員会でも議論になっています。また、そのときに幾つか違う視点からのご説明をさせていただきますが、国語の量については、調査委員長、何か分かりますか。

国語調査委員

調査委員会では、特にその点については話題には上がりませんでした。最初にどのように学ぶかということが各者で説明されており、分冊の教育出版については、もう一度、上でも下でも同じように説明しているのが多くなっているのではないかと思います。どちらが良いかという点については、私見も入りますが、今まで習ったこと、学習してきたことを使って、また次の学習で生かすということが、国語では繰り返し行われるので、分冊ではそれがちょっとやりにくいのではないかと思います。ですから、教育出版以外の合冊の方が見やすいのではないかとはいえますが、内容量としては同程度だと思います。

櫻吉委員

例えば、総文字数などは公表されていないのですか。

国語調査委員

すみません。それについては分かりません。

櫻吉委員

調査研究の項目7に、ユニバーサルデザインフォントのことが出ています。国語科は文字の見やすさは非常に重要かと思うのですが、他者も趣意書を見ると一部に採用されていることが記載されていました。文字の見やすさという観点では何か検討されていますか。

松原選定委員長

選定委員会ではそこは議論がなかったのですが、調査委員会では見やすさなどについて議論はありましたか。

国語調査委員

各者それぞれ、書き文字に近い文字を、独自の書体を使って書いているということが調査で分かったのですが、特に光村図書は、大切に見てほしい点はUD書体になっており、障害のある子どもたちや特別支援の子どもたちにとっても見やすい文字を使っているという話し合いが調査委員の間ではありました。

櫻吉委員

私がフォントを見ても分からないのですが、学習障害に関連するような子は5%ぐらい、クラスに1人ぐらいいるのではないかと思います。そのような子どもたちも学習しやすい教科書が選べたらいいと思います。

野口教育長

他にご質問はありませんか。

櫻吉委員

三つを比べたときにどこが違うのか、なかなか分かりにくい部分があります。例えば、同一の題材を選んでいるものがありますよね。学年によって、例えば「モチモチの木」や「ごんぎつね」「大造じいさんとガン」は3者に共通していると思います。調査研究項目2に関わることだと思うのですが、巻末にある「こういうふう学習しなさい」というものをもう少し分かりやすく具体的に教えていただけると選定しやすいと思います。どれかを例に教えていただけませんか。3年、4年、5年で同じ題材が選ばれています。

国語調査委員

例えば、光村図書の5年生の246～247ページに学習の流れが書いてあります。光村図書の特徴として、見開きで学習の流れが見えます。まず他の2者と大きく違うところが、最初に書いてある「問いをもとめ」というところで、課題意識を持ちながら学んでいくということです。あとは、下段の2番と3番が大変特徴的です。他の2者でもどのように考えていけばいいかという考えの視点を示しているのですが、光村図書では、選んで読み深めようということで、自分で読み深めたい視点を選ぶ点が他の2者と大きく違うところです。また、「伝え合いの例」ということで、考えたことをどのように伝えるかという伝え方も書いてあります。伝え合うときに、自分はどんな相手に伝えたいのかも選べるという点で、光村図書が金沢で行っている授業の流れと非常にマッチしていると考えています。

櫻吉委員

他の2者については、その部分が金沢型学習スタイルとは少し外れているということなのでしょうか。

国語調査委員

そうですね。東京書籍は、一人一人の考えを持つ視点や話し合いの仕方は示されていますが、「選んで」という視点がありません。そこが光村図書と違うと思います。

田邊委員

今の点と関わるかもしれません。まとめたいただいた項目1の「基礎的・基本的な知識や・・・」は、土台になることの一つかと思いますが、東京書籍は「主体的に学習の見通しがもてる」ことが優れているという表記があります。今、光村図書でご説明があった点、選択しながら選び取って考えていくというのもある意味で主体的な学習を推進していく促し方かと思いますが、東京書籍の「主体的に学習の見通しがもてるよう配慮されている」のは、具体的にどういう点なのでしょうか。

国語調査委員

東京書籍の優れている点は、単元の最初に見開きで大きな図や写真を出しており、これから何が始まるのだろうと子どもたちが興味や驚きを持ちながら単元をスタートできるという点です。また、右端に「言葉の力」という付けたいが示されており、単元の初めと終わりに出てきます。また、単元の初めの下段に、どのように学習を進めるのかということが示されていますし、単元の終わりにも示されているので、仮に子どもが欠席したとしても、自分で学習を進めることができるということが、この「主体的」という言葉に込められています。

田邊委員

授業を進めていくうえでも、また後で振り返るときにも、このような指示があることが非常に役立つということですね。

国語調査委員

はい。

田邊委員

分かりました。

国語調査委員

また、キャラクターがところどころで、「こんなふうに考えたらどう？」と考えるポイントも示してくれているので、子どもたちが自分で「こんなふうに学ばばいいのだな」ということが分かると思います。

田邊委員

今のような配慮が他の2者にはそれほど見られないということにもなるのですか。

国語調査委員

そうですね。裏を返せば、東京書籍は少し丁寧過ぎる面もあると思っています。東京書籍は非常に丁寧に、付けたい力や学習の流れや考えるポイントを示しているので、教える先生たちが画一的な授業になりはしないかというところがあります。また、子どもたちの思考もある程度、制限されてしまうのではないかという思いがあります。その点、光村図書は、先ほどお伝えしたとおり、自分で選ぶ、子どもたちが自分で考える工夫がなされていると思います。

田邊委員

展示会での意見や教員の意見の中に、光村図書の国語の教科書に関して、ベテランの先生と若い先生に差が出やすいのではないかという指摘があります。親切過ぎる東京書籍と、柔軟に考える余地を残した光村図書ということに関するような指摘だと思うのですが、この点についてはいかがでしょうか。

国語調査委員

それは学校内の研究や学習の進め方が、どれだけ共通理解されているかということにもよると思います。学校はベテランと若手が交ざり合う職場ですので、互いに授業を見に行ったり、研究主任を中心として共通実践、共通理解の時間を取ったりすれば、そのような差は生まれないと考えています。

大島委員

調査委員会の資料の項目5「現代的な諸課題への対応」について、冒頭の説明の中でSDGsや情報リテラシー等の話題が出ていたと思います。この点については、教職員の方々の裁量によって子どもたちに話しやすいという点で、特に東京書籍と光村図書が優れているのではないかという感じがします。そのあたりについて何かご意見等がありますか。

国語調査委員

調査委員会では、取り上げやすさに関しては特に話し合いはなかったのですが、3者ともSDGsについて、それぞれ特徴的な示し方がなされていました。東京書籍は単元の中に組み込まれていますし、教育出版は目次の中にマークが入っています。光村図書についても、SDGsに関する本の紹介などが必ず付いているので、3者とも非常に現代的な課題を意識したつくりになっていると思います。

野口教育長

ここで質問を一度終わり、審議に入ってよろしいでしょうか。もし再度質問があるようでしたら、またお入りいただく形でよろしいでしょうか。それではそのようにさせていただきます。選定委員長、選定副委員長、調査委員長にはご退席を願います。

(選定委員、調査委員 退室)

[国語：審議]

野口教育長

これから、教育委員としての審議に入ります。それぞれ約4週間にわたって教科書を調査していただいておりますので、ご自身の調査結果を踏まえながら、ご意見を頂戴したいと思います。

初めに、選定委員会では東京書籍と光村図書の評価が高かったのですが、教育出版についても教育委員の方々から、何かご意見等がありましたら頂戴できればと思うのですが、いかがでしょうか。教育出版についても評価が高ければ、2者ではなく3者で協議しなければいけないに思っております。特段そ

うでもないということでしたら、先ほど選定委員会で評価の高かった2者で話をしていけばいいのではないかと考えています。

田邊委員

どうい素材を取り上げるのかについて、各者とも工夫があり、それぞれに読み応えがあるという印象を持ちました。例えば3者ともに掲載されている「スイミー」という教材では、扱い方には三者三様のところがあります。先ほどもご説明があったとおり、順を踏んでその教材を分析していくような進め方に関しては、東京書籍や光村図書と比べると、教育出版は分析の点でやや弱いのではないかと印象を持ちました。しかし、面白い教材が扱われていて、例えば6年生に津田梅子さんの伝記がありました。今度紙幣にも登場する方ですので、身近なモデルとして小学生が考えるのはすごく良い機会かと思えます。ただ、教材の工夫はされていますが、それをどう扱っていくのかという点に関してはちょっと弱いのかなという印象を持ちました。

櫻吉委員

どれも読み応えがあって、子どもたちにこそ読み比べてもらいたいなという教材が非常にたくさんあるように思いました。ただ、読書習慣のない子にとって教科書が唯一の読み物という可能性もあると思ったときに、より身近なものを多く取り上げている教科書がいいのではないかと思います。5年生の伝記を見ると、光村図書ではやなせたかしさん、東京書籍では手塚治虫さん、教育出版では金子みすゞさんです。どれも本当は読んでいただきたいのですが、どれが一番身近に感じる偉人かと考えたときに、光村図書が一番身近に感じる題材なのではないかと思いました。それがまず1点です。

あとは、巻末の付録に点字と手話の部分がありました。光村図書の5年生、東京書籍の3年生に、実際に点字を触って体験できる付録が付いています。光村図書は、他の学年でもユニバーサルデザインなどを扱った障害に関する題材がかなりあって、障害に興味関心を持てる配慮がされていると感じました。

丸山委員

学習の流れを比較したときに、東京書籍は「見通す・取り組む・振り返る」という流れになっています。これに対して、教育出版は「確かめよう・詳しく読もう・まとめよう・伝え合おう」という展開になっています。光村図書は、「問いをもと」「目標」を書いた上で、「とらえよう・ふかめよう・まとめよう・ひろげよう」と展開されています。しかも、先ほどご説明があったように、下の方にノート例や伝え合いの例を示していて、流れとしては光村図書が一番、学習が展開しやすいのではないかと思います。まさに金沢型学習スタイルの「自分で・みんなで考える」というところにも反映できるので、一番適しているのではないかと思います。

木村委員

学習の進め方は、丸山委員がおっしゃったことと重なるので省きますが、まず東京書籍を見ると、「言葉の力」で学習したいことと何を学ぶのかということをはっきり書いてあります。また、6年生で「伝えたい言の葉 古典芸能への招待状」というところがあって、時代による言葉の変化という点を取り上げているのは東京書籍だなという思いです。また、東京書籍が取り上げている教材であるプラごみについて、宇宙への思いというものは、非常に現代的で面白く、子どもたちが関心を持つのではないかと思いました。

教育出版に関しては、1年生の下で、子どもたちの想像力を養うような工夫があるとは思いましたが、やはり3者を読んでみると、光村図書の学習の見通しがすごく分かりやすいです。子どもたちが自分で学んでいくという点で、学びやすいのではないかという思いがありました。また、問題を自分たちで作りに出して考えるという場面もありました。2年生の『どうぶつ園のじゅうい』で、自分たちで問題を考えて、そして作り出して考えるということがあったり、3年生でも物語のその先を考えましようというのは、学びが深まるのではないかという思いで拝見しました。

野口教育長

ここまでのご意見の中では、いろいろ比べてみると光村図書の方がいいのではないかというご意見が多かったと思いました。

長澤委員

金沢型学習スタイルを考えたときには、光村図書の書籍がとても充実していると考えています。「学習」というページで、見開きで見通しを持ちながら、「とらえよう・ふかめよう・まとめよう・ひろげよう」という形で、個々の子どもたちが課題を捉え、どのように進めていったらいいのか道筋を示しています。一方で、「選んで読み深めよう」という形で、読み進めていく中で、自分たちが深めたい点については、個々の子どもたちが気になったところを選べるようになっていきます。そうすると、自分たちが選んだ課題に関して考え、それを自分でまとめ、他者に伝えるということが自然にできるような仕組みになっていると感じています。先ほどの教員の力によって差が出るのではないかという点に関しては、光村図書の仕組みは、うまくフィットしていくのではないかと感じました。

野口教育長

私もいろいろと見比べてみましたが、たくさんあるので、まずは入り口と出口を全部見ました。1年生はいわゆる助走的なものなので、2年生から本格的な学びかなということで、2年生のスタートと6年生の終わりなどを比べて見ました。やはりどちらかという点、金沢型学習スタイルを意識したときには、光村図書は優れているなという感じは受けました。光村図書の良さは、系統性を大事にしていることだと思っています。例えば、6年生の教科書の14ページを見ると一番分かりやすいのですが、課題の方に、「5年生で学んだこと」とあるのです。そしてその上に、今度は6年生で何をどう学んでいくのかということがきちんと示されていて、5年生を基に6年生を勉強していくという流れがしっかりつくられていることが大変素晴らしいなという感じは受けました。出口の方は、今度は中学校に進んでいくのですが、そうしたところの意識の仕方、言葉の最後のまとめのところも大変充実しているなと思います。

また、最近学校訪問をしていて一番気になるのが、子どもたちのノートです。なかなかノートがきれいにまとめられていません。子どもたちがどんなふうにノートを書いたらいいのか、あまり分かっていないのではないかと思ったときに、東京書籍の10、11ページに見開きで出ている「ノート」というところが非常にまとまっていると思います。これを参考にしていけば良い学びができるのかなと思っているのですが、全体を見比べると、金沢型学習スタイルを意識したときにはやはり光村図書の方が良いのではないかとというのが私の考えでした。

初めは順番に行くつもりだったのですが、皆さんそれぞれ総合的な話を頂きましたので、今のお話をお伺いしている限り、大体一致しているのではないかと思います。いかがでしょうか。

そうしましたら、皆さんの今のご意見を総合的に判断すると、3者ありますが、光村図書でいかがですかという話だと思うのですが、いかがでしょうか。皆さん全員うなずいていただいたので、全員一致ということで、国語については光村図書でよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

野口教育長

ありがとうございました。国語は光村図書ということで決定します。

#### ○種目「書写」

[書写：説明の概要（選定委員長）]

書写は3者である。

東京書籍は、項目2の思考力・判断力・表現力等を育むための工夫で、例えば虫眼鏡マークで良い例と悪い例を示し、児童が自分事として捉えやすくなっている。また、キャラクターの吹き出しで示



された視点について考えることで、明確に学習のポイントをつかみ、課題解決に向けて学習を進めることができる、また、その近くに二次元コードがあり動画で分かりやすく説明され、自分で課題解決に取り組んでいけるという特徴がある。

教育出版は、項目5の各教科との関連についての工夫として、例えば工場見学のメモの仕方について取り上げ、目的に合った書く速さについて考え、具体的なメモの仕方を提示している。算数や理科のノート、原稿用紙、図工の作品カード、はがき、野外学習のリーフレットなど、各教科の普段の生活との関連の充実が図られ、活用したいという思いが促される。

光村図書は、項目1の基礎的・基本的な知識や技能の習得について、「たいせつ」という欄があり、大切な技能のポイントが明確に示されている。また、図で分かりやすく学習のポイントを捉えることができるようになってきている。朱墨で筆遣いの穂先の位置や、運筆が分かりやすく、巻末に1年間の学習が一目で分かるようにまとめられ、二次元コードで前の学年までの「たいせつ」を見ることができる。

調査委員長に対して、選定委員会から質問があった。他教科との関連について、教育出版の他の発行者についてはどうであるかという質問に対しては、回答として、どの発行者も工夫され、教育出版は他教科との関連が一番多く示されており、光村図書は6年生で手紙、4年生ではSDGsが取り上げられている。

項目5の「現代的な諸課題」についてSDGsの側面から調査したのかという質問があり、SDGsは光村図書が一番分かりやすくまとめてあった。

項目1に関して、光村図書と教育出版との違いについては、光村図書は短い言葉で分かりやすくまとめられており、教育出版は言葉と朱墨が大きなスペースを取って図案があるのが特徴的である。

書字障害の子どもに対する配慮があるのかという質問があった。それについては、書字障害はその障害に応じた形になるが、二次元コードの動画が分かりやすく、例えば黒板を見ながら写すのが苦手な子は手元の1人1台学習用端末を見ながら、なぞることができる。

項目9の金沢型学習スタイルの視点からの各発行者の違いについては、3者とも自分で学習を進める手順が示されており、特に東京書籍は「考えたことを友だちと話し合ってみよう」というように話し合いながら進めるところが、金沢型学習スタイルに対応している。

その後、選定委員会で議論した意見と感想をご紹介します。光村図書の4年生には「SDGsブック」があり、書写の後、水を流して筆を洗うのではなく、ボトルの中で墨を落とすようなこともきちんと書いてある。また、理科のノートなどがあり、こんなノートを書きたくなる。リーフレットの書き方はリーフレットを作るのに参考になるのでいいのではないかという意見があった。

書写は担任以外が持つことがあるが、週1時間で定着を図るには調査研究項目1、8、9が大切ではないか、その点では光村図書がいいのではないかという意見があった。

端末画面で子どもたちの書く力が落ちるのではないかという保護者からの意見もあり、書く力や使いやすい道具を選ぶ点からも、教育出版の工場見学のメモのコーナーで短い時間で必要な情報を書き留めることを示したり、東京書籍の「相手に気持ちが伝わるためには手書きがいいね」といった手書きと端末の違いを明確にしている点がいいという意見があった。

また、光村図書の6年生には、書写で学んだ余白の使い方や文字の大きさなどを生かすことも紹介しているのが良いという意見があった。

二次元コードについても幾つか質問やご意見があったが、教科書の採択はあくまでも紙の教科書を採択することを選定委員会でも再度確認した。それを前提にして、光村図書は二次元コードが大きく、書いているときの動作が、正面、左斜め、穂先の動かし方などがよく分かって、「ふりかえろう」で確かめることができるという動画の特徴がある。東京書籍は、アニメーションで子どもたちを引き付けやすい動画がある。動画については、書写の準備で待っている時間や書き終わった子がもう一度動画を見て振り返ることができるのでいいのではないかということである。

以上のような議論を経て、最終的には3者のうち特に評価が高かったのは、東京書籍と光村図書であった。

#### [書写：質疑応答]

櫻吉委員

私は大切だと思っているのですが、そもそも毛筆などは実生活ではほとんど使用しませんよね。だから、この学ぶ意味を子どもたちに伝える工夫がされている教科書を採択したいと思います。書写を通して習字や書道など日本の伝統文化を学んだり、文字そのものを学んだりすることで異文化の理解につながると思っています。調査研究項目4がそこに関わってくると思うのですが、各者の

特徴をもう少し教えていただけませんか。

書写調査委員

伝統文化に関わる場所についてご説明します。まず、東京書籍については「文字といっしょに」というコーナーが大変多く設定されています。1年生で二つ、2年生で四つ、3～6年生では五つ設定されていて、その中で文字の由来や歴史などにさまざまに触れて説明されているので、文字というものに大変興味を持つ仕組み・配慮になっていると思います。

教育出版でも「知りたい 文字の世界」というところで、文字の起源などが詳しく設定されています。ただ、東京書籍の方が数多く設定されていると思います。

光村図書では「もっと知りたい」というところで、文字の歴史や書道の道具などが紹介されています。

各者とも和紙やすずりなど道具の使い方を説明しているコーナーがあり、そちらで文化に触れていく配慮がされているのではないかと思います。どの者も大変丁寧に取り上げられていると思います。

櫻吉委員

3者にあまり差がないと考えてよろしいですか。

書写調査委員

数で言うと東京書籍と光村図書が多く設定されているかと思えます。

長澤委員

総合訪問で書写の授業を見たことがないので、書写の授業でどんなことを取り扱っているのかを含めてお聞きしたいです。毛筆で書く練習をするという学習以外に、例えば「分かりやすく伝える書き方」という単元において、書写の授業ではどのような指導をされているのでしょうか。また、「分かりやすく伝える書き方」に関連して、こういった指導はとても大事なことで、ノートを作る力にも関連するようなものだと思うので、そういう指導に関して充実している教科書があれば教えてください。

書写調査委員

書写の時間は週1時間で35時間設定されています。その中で毛筆の時間は30時間取っていますが、残りの5時間の部分や、まとめをした後の時間を活用して、ノートなどのページを扱ったりしています。また、ある先生は国語科の授業をしているときに、「ノートの書き方が書写の教科書に出ているから見てみようね」というふうに取り扱っている場面も見たことがあります。各教科とのつながりに関しては、各者とも意識して書かれていると思います。

木村委員

書写は国語科の中の一つですので、国語の教科書とのつながりという点では、同じ発行者がいいということはあるでしょうか。

書写調査委員

同じ発行者の方が指導者は指導しやすいという状況はあります。なぜかという、教科書会社によって習う漢字の順番が異なったりしますが、それがタイプアップされているので、無理なく教えることができますし、教材文を取り扱っている場面もあるので、国語科で学習した教材文の方が子どもたちはなじみ深く学習を進めることができると思っています。

田邊委員

書写については、正しくきれいに書くことが、出来映えという点で、とても大事だと思うのですが、まとめていただいた資料Aの中に「東京書籍で、良い例と悪い例を提示して良い例を推奨する」という記述があります。いずれの発行者も書く際の留意点などの記述があるような気がするのですが、特に東京書籍で良い例、悪い例が強調されている点について、ご説明をお願いできますか。

書写調査委員

良い例と悪い例を取り上げているのは、東京書籍が多かったと思います。

田邊委員	量的に多いのですか。
書写調査委員	量的にも多いですし、多くの場面においても取り上げられています。それに伴って、動画についてもアニメーションを使いながら分かりやすく説明があり、「こっちはどうかな、書いてみよう」と呼びかけながら進めてくれたりするので、子どもたち自身も考えながら進めることができる展開になっていると思います。もちろん、教育出版や光村図書にも比較する場面がないわけではないのですが、動画とタイアップするという点では、東京書籍が分かりやすくなっていると思います。
野口教育長	<p>他にご質問はよろしいでしょうか。それでは、先ほどと同じようにもし審議の途中で再度お伺いしたいことが生じたら、また入っていただきますので、いったん選定委員長、選定副委員長、調査委員長にはご退席をお願いします。</p> <p>(選定委員、調査委員 退室)</p>
<p>[書写：審議] 櫻吉委員</p>	<p>このような実技を伴うものは動画が非常に有効ではないかと思います。二次元コードを見てみましたが、光村図書は毛筆の際に正面から書くものだけではなく、斜めの視点から見た動画も掲載されていました。教育出版、東京書籍は正面からだけです。東京書籍は先ほど言われたように、解説も付いていましたが、その他に硬筆の左の動画は光村図書が一番分かりやすかったと思います。ですので、動画をトータルで見ると私は光村図書が優れていると思いました。それがまず1点です。</p> <p>もう一つは、教科を通して手紙やポスターを作ることがあります。将来、デジタルの作品になったとしても、例えば段組みやフォント、大きさ、バランスなどは学んでいかなければいけない、将来役に立つことだと思います。光村図書は4年に「SDGsブック」、6年に「書写ブック」が付いている。これは非常に実生活で使いやすいまとめとして利用できるものなので、その点も光村図書は優れていると感じました。</p>
丸山委員	<p>今のご意見と共通するのですが、光村図書の4年生の「SDGsブック」と6年生の「書写ブック」はすごくまとまっていて、このまま保存して、中学生になっても持っているぐらい日常の生活でも活用できるものではないかと思いました。</p> <p>光村図書の6年生では、直接書写とは関係ないかもしれないのですが、メールの書き方にも触れています。実際は社会に出たときに、書くよりもメールを打つ、パソコンを使うことが多いので、現代的な諸問題の対応にも触れていて、そのあたりも優れていると感じました。</p>
田邊委員	<p>整った字を書くということが書写の大きなテーマだと思うのですが、先ほどのご説明で、良い例、悪い例を繰り返し指摘しているという東京書籍は、確かにそれは大事だと思うのですが、週1時間という制約の中でどれぐらいそれが身に付くのだろうかという思いもあります。また、国語との連動も大事な観点であり、国語の教科書でも書く、伝え合うということに関して、手紙の書き方や伝え方についてはかなりページを割いて作られていました。書写の教科書そのもので比較すれば、先ほど二次元コードや連動性についての議論もありましたが、それほど大きな差はないような気もするのですが、国語との連動性、他の教科との配慮や現代的な課題への配慮などを含めて、限られた時間の中でも押さえるポイントが教科書の中に網羅されているので、光村図書の書写が優れていると思います。</p>
長澤委員	文字を学ぶという書写の学習においては、文字の成り立ちにきちんと向き合

っているということが大事かと思っています。そういった意味では、東京書籍の6年生の40ページの平仮名の表には、それぞれの平仮名がどういう文字から成り立っているのかということが、全ての文字について記載されています。他の発行者の平仮名に関する一覧は、単に平仮名だけが付いています。東京書籍については平仮名の成り立ちがきちんと書いてあるということが、とても魅力的に感じています。

一方で、国語の教科書との連動性は、先ほど木村委員がご質問されていたのですけれども大事だと思っています。子どもたちがなじみ深くこの教材に取り組んでいく最初のきっかけという意味で、連動していることはとても重要だと思っています。そういった意味では光村図書はとても魅力的だし、光村図書をしのぐ利点が全体的に他の教科に認められないのであるならば、やはり光村図書は外せないかと思っています。

そして最後に、文字を学ぶということは相手に伝えるという作業なので、伝えることに関して学ぶことは大事だと思っています。6年生の光村図書の16ページでは、「伝えるって、どういうこと？」という表題で、狙いから考えよう・確かめよう・生かそうという学習の進め方の流れでそれを丁寧に扱っています。ノートの作り方、手書きやもしくはパソコンを使ってでも、人に伝えるためにはどういった文字を、どういう大きさで、どういう配置で置いていったらいいのかということや学ぶことについて、とても良い教材が示されていると思いました。結論を言うと、私は光村図書がよろしいのではないかと思います。

木村委員

私も3者見せていただいて、字が見やすいか見やすすくないか、バランスが取れていて整っているかという点では、東京書籍の良い例と悪い例を比較するのはとてもいい点だと思って、東京書籍もいいなと思ったのですが、やはり国語科と同じ発行者の方が教えやすいという点を聞くと、やはり光村図書がいいのではないかと思います。子どもたちにとってもいいと思います。「SDGs×書写」や、道具を大切に使うという点も、書写だけではなく、他の教科にも結び付くのではないかと思います。

大島委員

結論から申し上げますと皆様のご意見と同じで、光村図書が一番優れているのではないかと思います。

野口教育長

光村図書という声が多く上がりました。皆さんそうだと思うのですが、私も見比べてみて、やはり光村図書の配慮がすごいなと感じるところがたくさんありました。当然、教科書の内容が一番大事なだけでも、付録的な二次元コードについても非常に丁寧だと思います。先ほどあったように、正面だけでなく斜めからのものもあり、大変見やすくなっていますし、その二次元コードが何を意味しているのか、「動画ですよ」「左手用ですよ」「右手用ですよ」という表示がきちんとあります。

教育出版の方もたくさん二次元コードが付いているのですが、二次元コードの真中に付いているマークが一体何を意味するかということが、初めの方にしか出ていなくて、途中でこれが出てくると一体何のマークだったか、もう一回戻らないとよく分からないということがあります。

また、光村図書は、肝心要の1年生の入り口ののところでは、5ページの下の方に、タブレットを使うときの姿勢もきちんと表示されています。どの1年生の教科書も最後の方に水板が出てくるのですが、水板がなぜここに付いているのかということの意味合いが、東京書籍にも光村図書にもあるのだけでも、光村図書の方は1カ所だけではなくて、このマークが付いているところではこれを使ったらいいという表示があるなど、非常に配慮が丁寧です。そして、国語の教科書と連動している方がやはりいいのではないかというご意見もあつたりということで、私も読みながら書写については光村図書がいいのではないかと思います。

それでは、そろそろまとめに入ってよろしいでしょうか。恐らく全員の方々が、比べてみて光村図書がいいのではないかというご意見だったと思いますが、光村図書に決定してよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

野口教育長

この教科についても、全員一致ということで光村図書に決定させていただきたいと思います。ありがとうございます。

## ○種目「音楽」

[音楽：説明の概要（選定委員長）]

音楽は2者である。

教育出版は、項目5に関して、全学年の巻末に英語の歌を掲載されており、1年生では親しみやすい3曲、6年生では取り組み甲斐があるミュージカルの曲などが取り上げられている。項目7に関しては、全ての共通教材の曲で見開きの写真や挿絵などが美しく掲載されており、歌や音楽が表す情景が想像しやすく、例えば富士山の全景写真、満開の桜の風景などが挙げられる。項目9に関しては、巻末に音楽を表すいろいろな言葉が発達段階に合わせて掲載され、自由記述欄も設けられており、言語活動に活用できるように構成されている。

教育芸術社は、項目1に関して、学習の目標として題材名が設定され、題材の終わりに振り返りが設定されているため、課題解決が確実に行われる。例えば4年生では「歌声のひびきを感じ取ろう」という題材が設定され、題材の終わりに「歌声のいろいろなよさや特徴を感じ取ることができたかな」という振り返りがある。項目2に関しては、全ての音楽づくりにおける学習活動が見開きの2ページで示され、見通しを持ちながら思考できるつくりとなっている。例えば、3年生の「手拍子でリズム」の教材では、リズム曲を作る過程を段階的に学習できるように学習活動が見開きで示されている。項目9に関しては、「考える」「見つける」というコーナーが複数記載され、金沢型学習スタイルの「自分で考える、伝える、深める」に対応するよう構成されている。

調査委員長に「2者で曲数や子どもの興味を持ちそうな曲などに違いがあるのか」と質問したところ、回答としては「曲数はそれほど差はなく、共通している曲も数曲あり、子どもの興味からはどちらもそれぞれ工夫されている」ということだった。

教育芸術社で「見つける」「考える」という紹介があったが、教育出版でもそのような見方・考え方を働かせている場面はあるかという質問があった。教育出版では、項目2にある「まなびナビ」というものがあり、学習過程を地図のような形で表示してある点が教育芸術社と異なるが、全てではなく一部の教材に見られるということだった。

教育芸術社は2ページ見開きで見通しを持ちながら思考できるということだったが、少しページも多くなると思われ、無理があるのではないかという質問があった。回答としては、大体の教材が1～2ページで構成されており、「音楽づくり」については全て2ページ見開きの構成で学習内容が分かり、どう展開し、学んだらいいかということが分かりやすいということだった。

教育出版に関しては、全学年の巻末の英語の歌をしっかりと歌うということまで実際に現場でできるのかという質問があった。調査委員会においても、これは想像しかできないのだが、実際に使えそうという意見は半数程度という協議結果だった。

教育芸術社の項目3で、「デジタル教材で選択できるよう示されており、試行錯誤を繰り返し行えるよう配慮されている」とはどのようなことかという質問に対しては、「それぞれの発行者の二次元コードから閲覧できるものを比較すると、2者とも優れていて、特に教育芸術社は音楽づくりにデジタル教材を全て使えるように整備されていた」ということだった。

教育出版の項目9で、「音楽を表すいろいろな言葉」について書かれているが、教育芸術社はどうかという質問に対しては、「6年生で音楽の用語や記号をまとめたページがあるが、音楽を表す言葉についてはページを割かれていない」とのことだった。

感想として、「音楽は感性を育成するものであり、言葉では表現しにくい、表現しないと対話では深められないので、教育出版の『音楽を表すいろいろな言葉』は高く評価したい」という意見が多く挙がっていた。

他にも、項目4に関連して「地域とのつながり」に関しては、「例えば獅子舞の笛であったり、地域の盆踊りなどいろいろな踊りが復活して、小学校長としてそうしたものへの参加をお願いされることが多いので、地域愛は大事にして今後進めていきたい」という意見があった。どちらの教科書という

わけではなく、地域の音楽も大切にしていかなければならないという音楽教育に対する意見があった。それに関連して、『『金沢市民の歌』ぐらいいは教えたい』『郷土愛や地元愛の面で、地元のアーティストやミュージシャンが音楽に興味を示すきっかけになれば』といった音楽教育に対する意見が出た。

[音楽：質疑応答]

櫻吉委員

楽譜の見やすさについて、この2者の間で差があるかどうかを教えてください。

音楽調査委員

どちらも2年生の24ページに「かえるのがっしょう」が載っています。教育芸術社では、鍵盤ハーモニカの学習で、これは楽譜と言っていますが、五線ではなくて、使うのが「ドレミファソラ」までしかないので、第一線から第二線までしか書かれていない楽譜で表示しています。これは、見やすさという点では低学年で使う分には実際に必要な線の数は5本も要らないということで、指の使い方に焦点を当てたり、音の上下、旋律の上下に意識を向かわせたいという理由からではないかと思われるのですが、上の方の線を省略した簡単な形の楽譜で記載されています。

一方、教育出版では「かえるのがっしょう」は普通に五線譜で記載されています。五線譜で記載することで早くから五線譜に慣れてもらうという趣旨があるのだと思うのですが、先ほど申し上げたとおり、鍵盤の学習の初期段階でしっかりと指の使い方を学ばせたいのであれば、ちょっと意識がいろいろなところに飛んでしまうのではないかと考えられます。

櫻吉委員

結局、教育芸術社の方が低学年には合っているというご意見ですか。

音楽調査委員

今の例で見れば、最初の段階では簡易な楽譜が掲載されている教育芸術社の方がいいのではないかと思います。曲によって五線を使っている曲もありますし、それぞれの発行者の考え方だろうとは思いますが、このあたりを例に取れば、そのように考えられるという意見です。

櫻吉委員

音楽は歌や楽器や指揮などいろいろあると思うのですが、例えばリコーダーなどを指導しやすい教科書というのは、選定委員会の中では議論はありましたか。

音楽調査委員

3年生のリコーダーのページをご覧ください。両者を見比べてもらうと、教育出版ではリコーダーのアップ写真にいろいろな名前の解説が付いています。それ以外の箇所を見比べると、どちらも導入段階としては丁寧に書かれていると思うのですが、一番大きな違いは指の構え方のところですが、

教育芸術社では指と穴に番号を付けて、どの指でどの穴を押さえるかということをはっきり示しています。リコーダーはどの穴をどの指で押さえるかを守らないと最終的に全部の穴を押さえられないのですが、このページを見ればどう押さえればいいのかというのがはっきりと分かるようになっていて、早い段階から全ての穴を一度押さえてみるということができるよう展開になっています。教育出版にはそういうものはなくて、最初に押さえる指を一つ一つ順番に写真で示すという展開の仕方になっています。

どちらがいいかと言われれば、最初に全ての穴を一度押さえて構えてみるのがリコーダーをきちんと構えて学習していく上では必要ではないかなと私は思っています。

野口教育長

教科書をぱっと見たときに気になったのは人権の問題です。例えば教育芸術社では、全学年の表紙に出てくるキャラクターに鼻がないのです。これは問題ではないのかなと思って見ていたのです。

それから、取り扱っている曲にもちょっとどうかなというものがありました。例えば教育芸術社は「ずいずいずっころばし」や「あんたがたどこさ」を

載せているのです。「あんたがたどこさ」は、人権上問題にならないのだろうかとか気になったのです。その人がどこで生まれたのかということで人権問題につながるのではないかとという部分があって、そうしたところへの配慮が教育芸術社は足りないのではないかとという点が気になったのです。イラストを見ていても、中に指が4本の人間が出てくるのです。そんなことが気になり始めたらつついっいろいろなどころを見てしまいました。そうした点は調査委員会で話をしたことがありますか。

音楽調査委員

イラストに鼻が付いていないという指摘は、調査委員会では出ませんでした。選曲に関しても、そのあたりについて着目した話はありませんでした。

田邊委員

報告書Aの項目2を見ると、特に教育芸術社が児童の興味・関心を引き起こすという観点で、「試行錯誤を繰り返して取り組めるように配慮されている」という記述があります。具体的にはどんなことを指しているのでしょうか。

音楽調査委員

3年生の64ページに「ラ・ド・レの音で旋律づくり」という教材が載っています。この見開き2ページの中で、①にまず「つくる」と書いてあって、②には「見つける」ということで、「友達のつくった旋律がどのような音の動きになっているのかをたしかめましょう」と、友達と発表し合いながらいろいろなことに気づいていきます。そして③では、今度は4人組のグループを作って、新たに少し長めの曲を作っていく、それをどんな順番にすると音楽にまとまりができるかということを考えます。

「考える」「見つける」というコーナーがほぼ全ての教材で提示されているという説明が先ほどあったと思うのですが、特に音楽づくりの展開の中で、ただ作るのではなくて、自分の作ったものと友達が作ったものを比べる、または友達と協働しながら作ることで、音楽的なまとまりを考えながらさらに長い楽曲に仕上げていくという試行錯誤を途中に入れる展開が考えられると思っています。

田邊委員

今おっしゃったような活動というのはよく取り組まれるのでしょうか。

音楽調査委員

金沢市のほとんどの先生方は「音楽づくり」にかなり力を入れて取り組んでいます。先ほどの二次元コードについても、作っていく上では実際に演奏もしないといけません。例えば3年生のラ・ド・レしか使っていない教材であれば演奏はそれほど困難ではないのですが、実際に作ったものを自分で演奏しながら試行錯誤しようと思ったときに、お子さんによっては結構苦労すると思うのです。試行錯誤できるほどに作品をいろいろ作って試すことができないときに、このデジタル教材が非常に役に立つのではないかと思います。今現在、教科書には二次元コードがないので、先生方がいろいろ工夫して自分でそうしたものを作ったり、ICTサポーターに何か作ってもらって活用したりしながら、いろいろ工夫して授業をしているところです。

野口教育長

金沢の小学校ではかつて、音楽専科の先生がかなり多くいらっしゃって、専門的な見地から指導していただいていたのですが、今は学級担任の先生が音楽の授業をしている場面をかなりお見受けします。学級担任の先生の中には音楽が堪能ではない方もいらっしゃると思っているのですが、そうした学級担任の先生が音楽の授業をするのであれば、どちらの方が使いやすいですか。先生は音楽の先生なので、非常に難しい質問をしたかもしれませんが。

音楽調査委員

学級担任や音楽専科にかかわらず、金沢市内では金沢型の学習を組み立てて授業を展開していこうとみんなで頑張っているところなので、金沢型の学習展開が非常にしやすくなっていると考えられるのは、「見つける」「つくる」など先ほど紹介したようなコーナーが付いている教育芸術社の方ではないかと思わ

れます。単に歌って終わり、聞いて終わりではなくて、実際にそれぞれの音楽をしっかりとつかみながら学習していくという面では教育芸術社の方が適しているのではないかと私は考えています。

野口教育長

それでは、これでよろしいでしょうか。いったん選定委員長、調査委員長はご退出ください。

(選定委員、調査委員 退室)

[音楽：審議]  
櫻吉委員

4年生の教材で両方に「さくらさくら」が取り扱われているのですが、前半部分で歌の「さくら」、後半部分で琴の「さくらさくら」があり、教育出版はさらに英語の「さくら」の歌があって、発展的、多角的に取り上げているのはいいところだなと思いました。一方、教育芸術社の一つ一つのいろいろな課題が具体的に挙げられていて、それを解決していくというのは授業が非常にやりやすいと感じました。

本当に甲乙つけ難いのですが、先ほどご説明があったように楽器の習得に関しては教育芸術社の方が少し分かりやすいというお話でした。振り返ると、僕は歌が不得意だったので音楽の授業は本当に苦痛だったのですが、楽器の授業が始まってちょっと救われたところがあります。そういう児童生徒が一定数いるのではないかと思うので、そうした子に分かりやすいものが選ばれるといいと思います。

長澤委員

私も「さくらさくら」に注目していて、4年生の教科書に双方掲載されております。

まず教育出版に関しては、琴についての説明があった後、62ページから「日本の音階の良さを感じ取りながら旋律を作りましょう」という課題に入っていく、まさに金沢型学習スタイルに乗せていくような学習が入っているのがとても魅力的だと思います。

学校訪問をしたときに、琴が音楽室にたくさん置いてあって、みんなで取り組みながら授業を受けていたのがとても印象的だったのですが、金沢の学校ではぜひ日本の楽器により親しんで、先ほどの説明でもあったように、ただ聞いて楽しむ、歌って終わるだけでなく、もっと深いところで旋律を作ってみたり、それを比べ合ってみたり、そういう体験に結び付く教材があったらいいなと思っています。そういった意味では教育芸術社が理想的かなと感じています。

教育芸術社の3年生の60ページ以降では、「地域に伝わる音楽でつながろう」ということで、太鼓や鉦(かね)、篠笛といった日本の楽器に関してフォーカスしているのですが、64ページ以降で「自分たちでお囃子を作ろう」という課題に入っていくので、旋律を感じるのみならず自分たちで作っていくという課題に取り組めるという意味ではとても魅力的な教材になっていると思います。あと、二次元コードが全ての教材に付いていて、音楽は聴いて楽しむものという意味では二次元コードが非常に活用できる場所だと思いますので、そういった意味でも教育芸術社は優れていると感じました。

丸山委員

私もちょっと決め難いところなのですが、教育出版の方は英語の曲が各学年の最後に入っているということでした。実際に現場でやれるかと聞いたら半々だったというご説明もあったように、実際見てみると結構難しい曲だなと思って、まだ英語教育が始まってない世代においてはちょっと難しいかなという感じがしました。ただし、巻末にある「音楽を表すいろいろな言葉」が非常に分かりやすく、まとまりがあって、復習にいいのではないかと思います。

教育芸術社は学習の目標が色別で非常に分かりやすくなっています。例えば4年生の「旋律の特徴を感じ取ろう」では、その関連のページがピンク色にな



っていたり、学習の目標が非常に分かりやすく表示されていて意識しやすいと思いました。ただ、教育長が先ほどおっしゃったように、人権の部分は少し気になるところです。

野口教育長

一長一短がありそうだなということですね。

木村委員

そうなのです。一長一短があるのですよね。教育出版のとても楽しそうな表紙は入っていきやすくて、遊びからすーっと入って行って音楽を学ぶという感じの導入の部分はいいのではないかと思ったのですが、4年生の「日本のお祭りをたずねて」のところで、「どんな音が聞こえてくるかな」という問いはちょっと想像が付くのかどうか分からないと思いました。次のページにあるように「秩父屋台ばやし」につながっていけばいいのかもしれないのですが、私にはほとんど分からないという感じがします。

教育芸術社を見ますと、「見つける」「考える」ということで、普通は一応教科書に書いてある歌詞を歌うのですが、歌詞の意味まで考えようとか、情景はどうだろうかというのは本当に深いと思うのです。われわれも演奏していて、ただ読んでいて歌っているのではないと思うことがあるくらい、情景などは一番の真髓の部分なので、そこを突いているというのはすごいと思いました。教育芸術社では特に6年生の教科書が、学びが深まる工夫がたくさんあっていいと思いました。

田邊委員

いずれも甲乙つけ難いような気はしていますが、歌って楽しむ、演奏して楽しむだけでなく、音楽を通して何を追求するのか、考えていくのか、そしてみんなと音を作っていくということも、音楽の授業の中で取り込まれることだと思いました。

そういう観点から、演奏することのみならず幅広く音楽の中で活動するという要素をいずれも配慮しながら作られている教科書だと思うのですが、とりわけ教育芸術社の場合は、それをどういうふうに展開していくのかということに配慮された組み立てになっている点は、教育出版とは異なる特徴だと思いました。金沢で取り組む学習スタイルにマッチしているという点では教育芸術社が望ましいと思います。

曲の歌詞はどんな意味なのかとか、今になじまないような言葉が使われているところについても非常に丁寧に説明されていて、滝廉太郎の「花」にしても歌詞にある言葉はなかなか使われない今、それぞれの言葉の意味についても補足的な説明がなされておりますので、過去の名曲についてもこういう意味があるのだということを深く考えながら味わうことに配慮したつくりになっていると思っています。甲乙つけ難いところではありますけれども、音楽を展開していく上でのつくりとしては教育芸術社の方が秀でていているという印象を持ちました。

大島委員

総合訪問等で授業を拝見しても、音楽に触れる楽しさを追求する方法には正解がないという点でどちらがいいかというのはなかなか難しいのですが、最終的に何か軸を作らないといけないということになると、金沢型学習スタイルとの関係においても、研究委員会において構成の良さに関する意見が多かったということからも、教職員の使いやすさという点では教育芸術社の方がいいのではないかと思いました。

野口教育長

今までのご意見では、甲乙つけ難いのだけれども、どちらかというとなら教育芸術社の方が優れているのではないかというご意見が多かったように思います。私は先ほど違う視点で話しましたが、人権の問題だけはあってはいけないと思っています。

あと、先ほど「さくらさくら」の話がありましたけれども、教育出版は構成が非常にしっかりとされているなと思います。教育芸術社は写真がせっかくあ

るのに、写真の上に曲の音符や言葉の解説があるのも気になりました。

鍵盤ハーモニカの配置などを見ても、教育出版の方は鍵盤ハーモニカと同じ大きさの写真で表示されているのです。ですから、まさにそこに手を置きながら音楽の授業に臨めるように配慮されていて、自分の中では本当に甲乙つけ難いという思いがあります。でも、選ばないといけないので。

ただ、先ほどから出ているとおり、金沢型学習スタイルをわれわれは大事にしなければなりません。それが肝になりますので、その点で言えば教育芸術社の方なのかなという思いはあります。議事録が残りますから、改善点はちゃんと会社へのメッセージとして残しながら教育芸術社に決めてはどうかと思いますが、そういうことでよろしいでしょうか。

お互いに改善すべきところはたくさんあると思いますが、今の皆さんのご意見の中にそれは出ていたと思います。その点はくんでいただいて、4年後の改訂にそれを生かしていただき、今回は教育芸術社を選ぶという形でよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

野口教育長

ありがとうございます。それでは、音楽は教育芸術社に決定します。

#### ○種目「英語」

[英語：説明の概要]

(選定委員長) 英語は6者である。

東京書籍は項目5、現代的な諸課題への対応や各教科等との関連が図られているという特徴がある。例えば6年生において、世界の子どもたちの大切なものについて動画で紹介する際、ウガンダでは水が大切であるという現状や日本の支援によって病院が建設されたことの紹介など、社会科と関連させる場が設けられている。また、生き物が直面する問題やごみ問題など、4年生の社会科の既習を生かしながら児童自身ができることを考えて話し合うことができる内容になっている。

開隆堂は項目4、伝統と文化を尊重する態度を養う内容が充実している。各単元末に記載されている「Around the World」では、5年生で世界各国の伝統や文化に関する内容や授業の様子などを全ての動画で確認できるよう工夫されており、フードロス削減の取組などSDGsのテーマを関連させながら道徳性を養う工夫が見られる。

三省堂は項目3、児童が自主的・自発的に学習できるような配慮がされており、写真資料を中心に学ぶ内容を表し、単元ではなく学期ごとに学習課題を設定している。「HOP」で既習を使ってこれから学ぶ内容の見通しを持ち、「STEP」では二つのLesson単元を通し、「JUMP」で学んだ内容を活用して学期ごとの学習活動を振り返るという構成となっており、5・6年全て同じ構成で配置されている。

教育出版は項目4、伝統と文化を尊重する態度を養うことができる内容となっている。5年生の「Let's Look at the World」では、日本やアメリカの手話を紹介している。6年生では、外来語や絶滅の恐れのある世界の動物を紹介している。どの単元にも多くの国の子どもたちが登場しており、5年生では障害のある人やお年寄りなどが描かれ、道徳性も養う工夫がされている。

光村図書は項目6、学年相互の関連が図られており、系統的に構成・配列されている。5年生では3・4年生で学習した表現をクイズ形式で確認し、6年生の「Let's Try!」では、これまで学習した表現を活用して中学校での部活や自分の将来について話す構成とするなど、英語の学び方について端的に分かりやすく表記されており、中学校の英語科や学校生活への円滑な接続ができるよう工夫されている。

啓林館は項目4、伝統と文化を尊重する態度と道徳性を養うことができる内容となっている。各単元末に記載されている「Did you know?」では、5年生は世界各国の学校生活や誕生日の祝い方、日本語と英語の違い、6年生はジェスチャーの違いに触れるなど、文化に関する内容が動画でも確認できるよう工夫されている。また、5年生で各国の諸問題、6年生で生活をより良くする工夫についてクイズ形式で取り上げ、道徳性を養う工夫も見られる。

次に、質疑の内容について説明する。「辞書が2冊に分かれていたりするものがあるが、使いやすさに違いがあるのか」という質問があり、「1冊にまとめていれば詳しく調べるときは良く、分冊になっている東京書籍は使いやすい」ということだった。

巻末の付録カードが切り取って使えるようになっているが、その量や違いについての質問については、どの発行者もカードを切って使えるようになっており、差はないということだった。

金沢型学習スタイルではグループ活動を重視しているが、各者の構成はどうなっているかという質問に対しては、東京書籍は「Watch and Think」で考えを持ち、「Your Turn」で伝え合う構成となっており、CAN-DOリストで振り返るところが特徴的であるということだった。三省堂は伝える活動が大変豊富で、「Let's Talk!」「Let's Play!」「Let's Try!」の流れで、伝え合いをして振り返っており、この2者が非常に特徴的であるとのことだった。

項目5に関して、「国語だけでなく科学や環境などに内容として広がりはあるか」という質問に対しては、東京書籍の6年生では「生き物のためにできること」として現代的な諸課題が挙げられており、光村図書の6年生では「We Live Together」で生き物との共生が取り上げられている。啓林館はウミガメや森の問題など世界の問題を取り上げており、どの会社もSDGsのマークは載せてあるということだった。

また、「三省堂は授業づくりの観点である調査項目の1、2、3の評価が高いように思うが、その良さはどこか」という質問に対しては、「各学期でまとめた学習活動としてUnitを置き、そのUnitを一つ一つ解決するためにLessonという単元があり、子どもたちの視点で授業を進めるところが際立っている」とのことだった。

プログラミングを含めて他教科との関連としては、東京書籍の場合は県名、地図記号、世界のつながりなどの社会科との関連があり、啓林館はSDGsを意識した内容をマークで強調している。教育出版は石川県の輪島塗や兼六園を明記しており、金沢ふるさと学習や社会科との関連が見られる。三省堂は都道府県の地図などが挙げられている。

デジタル教科書についての質問もあった。令和6年度から英語の学習においてデジタル教科書を紙の教科書と併せて提供する予定ということで調査項目の一つに入っているのだが、現段階で秀でているのは東京書籍と三省堂であり、再生マークがいろいろなところにあるため、動く教科書のようなイメージが東京書籍と三省堂にはある。

審議での議論は、意見や感想が主なのだが、調査報告書Aでは東京書籍と三省堂が同程度の評価であるのに対し、調査報告書Bでは東京書籍と三省堂で差があることについて、東京書籍は従来使ってきたので慣れていないからではないかという選定委員の感想・発言があった。今までの教え方があまり変わってしまっても教えるに困るという意見があった。また、三省堂が授業づくりの点においては評価が高く、東京書籍は記入欄の多さがかえって使いにくいのではないかという意見があった。三省堂の方が使いやすいかもしれないという意見である。それから、金沢は低学年から英語の授業を行っているので、そういうつながりも教科書選定に関しては考慮すべきだろうという意見もあった。

あとは羅列的になるのだがご意見・感想として、三省堂は「大きなくりで資質・能力を育てる仕組みになっている」「子どもたちの思いや願いを引き出しながら学べる」「見た目もすっきりして分かりやすい」という意見があった。また三省堂は、「すごくグローバルな視点があるという印象を持った」という意見もあった。東京書籍は「動画のプレーヤーを子どもたちが操作しやすいようにちゃんと作り込んである」「話題も含めて多様であり、英米ではない地域の英語話者の人たちがたくさん出てきて、いろいろな国の直接的な話題が出てくるので、楽しみながら授業を受けることができる印象があった」という意見もあった。

また「東京書籍は情報量が多く、書くスペースも多い。こんな力を付けたいという意図があちこちに見られ、知識や技能面を習得させたいという思いが強く表れている印象」という意見や、「三省堂は柔らかい教科書のつくりで、子どもたちが興味・関心を持って1年間学び続けられるような教科書であると感じている」という意見があり、どちらがいいかというのはちょっと難しいという感想を発言された方もいた。

(選定副委員長) 秀でていると考えられる東京書籍と三省堂のそれぞれの特徴については、調査項目の5番や3番で読み取ることができると思うが、東京書籍の方は世界の中の日本や地球環境など世界的な素材を扱っているのに対して、三省堂は国内のごく身近な生活場面の素材で授業を展開している特徴があるということも話題になった。

(選定委員長) 以上の議論を経て、最終的に6者のうち特に評価が高かったのは東京書籍、三省堂、光村図書であった。

[英語：質疑応答]

櫻吉委員	英語は文字学習なので、国語と同様、読みやすさが一つの観点だと思います。文字のフォントについては何か検討されましたか。
英語調査委員	文字については東京書籍、三省堂、光村図書がそれぞれ分かりやすく、考えられていると思うが、どの発行者も必ず四線が引いてあり、「読む」「書く」ことをきちんとバランスを取って分かりやすくしている印象があるということをお話ししました。
木村委員	項目3で東京書籍と三省堂の評価について、東京書籍の「導入に多様な生活場面を示し」と、三省堂の「導入に身近な生活場面を示し」とあるのですが、この違いを教えてくださいませんか。
英語調査委員	まず三省堂については、5年生の「Unit1」をご覧ください。まず自分のことを紹介する活動からスタートし、「Unit2」で憧れの人を紹介したり、家族について説明したりというふうに、自分たちの身近な人たちを中心にした学習で単元が構成されています。 東京書籍は自己紹介で自分の誕生日やドッジボールができるということの伝え方を学習した後は、場面を広げ、いろいろな場面で活用するために理解しなければいけないフレーズを学習していくという単元の構成になっています。 そのため、子どもたちが授業内容を身近に感じることができるのは三省堂ではないかという意見が調査委員会の中で出ました。
田邊委員	今までのことと関連すると思うのですが、金沢では中学年から、文字は使わずに話すことから英語を学習していますよね。それとの連動性というか、教科書を使って文字を使いながら学ぶことと、話すことは既習で、頭の中にあるというイメージを持つのですが、話すことを通して学習してきた既習事項と教科書を使って始まる英語の学習とのつながりを考えた際、いずれかの教科書の方が優れているという点がありますか。
英語調査委員	調査委員会では、東京書籍や光村図書には、金沢型学習スタイルで大事にしている、自分たちの考えを話し合うという単元があります。特に東京書籍は「自分たちが世の中を少しでも良くするためにはどうしたらいいと思う？」という問題提起のある非常に素晴らしい単元があります。
田邊委員	これまでの蓄積の上で、注目に値する単元があるということですね。
大島委員	それぞれ副読本が付いていると思うのですが、使い方で各者の優劣はありますか。
英語調査委員	東京書籍は1冊に全部まとめてあります。開隆堂は各学年に1冊ずつありますが、5年生と6年生はほとんど内容が同じです。 三省堂も東京書籍と同じように1冊になっています。1冊で全てを網羅して分かりやすく、1冊あればできるという形になっています。 光村図書は教科書に入れ込むことができる別冊として各学年に1冊ずつありますが、内容はほぼ同じです。 教育出版と啓林館は別冊としてではなく、教科書の内容として辞書のように使える部分があります。
大島委員	そうすると、東京書籍と三省堂ではあまり優劣が付きにくいという感じですか。
英語調査委員	そうです。

- 長澤委員 今の質問に関連して、子どもたちはこれらの dictionary を授業や自宅でのように使っているのでしょうか。また、先生たちは使い方についてどのような指導をされているのでしょうか。
- 英語調査委員 いろいろなパターンがあると思うのですが、「この単語にはもっといろんな表現があるぞ。もう少し調べたいな」と思ったら、dictionary を持ってきて、いろいろな単語を見るときに使ったりします。  
授業中に活用することもあるのですが、子どもたちが家に持ち帰って調べたり、休み時間に自分の興味のあることを調べたり、復習に使ったりというように、単語帳として使っている場合が多いようです。
- 丸山委員 巻末の付録は実際の授業でどのくらい使用しますか。
- 英語調査委員 アルファベットカードは必ず切り取ります。発行者によっては単元のときに使うものもあれば、シールになっているものもあります。自己紹介をするときにそのカードに書き込んでやりとりしたり、単語帳として使う場合など、いろいろな活動で付録を活用しています。
- 野口教育長 例えば三省堂の5年生の目次をめくると、「Try プログラミング」と出てくるのですが、プログラミングを扱っている教科書は他にありましたか。
- 英語調査委員 三省堂の5年生の106、107ページでは、道案内をプログラミングとして捉えています。
- 野口教育長 三省堂の教科書になったときに、先生方はこの部分の指導は難しそうですか。
- 英語調査委員 金沢ではプログラミング教育が進んでいると思うので、難しくはないと思います。
- 野口教育長 こちらは他にはない三省堂の特徴であるということですね。
- 英語調査委員 はい、そうです。
- 野口教育長 それでは、これから教育委員の皆さんと審議に移らせていただきます。
- (選定委員、調査委員 退室)

[英語：審議]

- 野口教育長 選定委員長からは、評価が高かったのは東京書籍、三省堂、光村図書ということでありました。ただ、質問する中で選定委員長のご発言としては東京書籍と三省堂の2者の評価が高いのかなという感じは受けましたが。  
6者ありますので、まず教育委員の皆さんに伺いたいのですが、残りの3者の中で、採択の審議の中に入れたらいいのではないかという発行者はありますか。もしあれば、その会社を入れた上で審議に移りたいと思いますが、どうでしょう。では、3者で話を進めていってもよろしいでしょうか。
- 委員一同 異議なし。
- 野口教育長 それでは、選定委員長からお話が合った3者で話を進めたいと思います。
- 櫻吉委員 あまり話題にならなかったのですが、二次元コードで動画を一通り見てみると、東京書籍の動画が非常に充実していて、自学もしやすくなっていると思います。

ました。

教科書の内容については本当に甲乙つけ難くて、これが一番いいとはちょっと言えないのですが、内容とは関係ないところで、例えば教育出版の表紙に車椅子の子が出ています。光村図書も裏表紙に車椅子の子が出てきます。東京書籍では登場人物として、例えば6年生の教科書の21ページに車椅子の子が授業に参加しています。36ページを見ると、イラストで車椅子の子が発表している様子が写真で出ています。このようなインクルーシブ教育をかなり意識した挿絵が採用されていると思いました。一方、三省堂にはそうした挿絵が全くありません。もし評価がほぼ同じであるならば、そうした教育的な配慮がある教科書を選ぶのも一つではないかと思いました。

長澤委員

市民の意見をまとめてくださった資料Cでは、一つ目の意見に「英語を習っている子には簡単すぎ、習っていない子は難しいという状況で、先生はどう教えるんですか。5年生の教科書になって、こんなにたくさんの単語は覚えられません」とあります。5年生から急に難しくなると感じるお子さんが一定程度いるのではないかとこのことを危惧したご意見なのかなと拝見しております。特に英語については、なじんでいる子と、全く学校でしか触れることのない子との間でのレベルの差は歴然としてあります。そういった中で、公教育を担う教科書を考えるときには、まずは全ての子がスムーズに抵抗なく楽しんで英語という教科に入っていくことができるものを選ぶべきではないかと考えます。

そうした視点から考えると、先ほどのご説明にもありましたように、三省堂は子どもたちの視点でテーマが設定されているのが魅力的だと感じます。例えば5年生では、自己紹介から「HOP」「STEP」「JUMP」という形でスモールステップで学習が進み、そのテーマは興味を持ちやすいように自分事から入っていく形で設定され、最終的には発表したり意見を言い合ったりする「JUMP」に進む形で構成されています。ですので、全ての子どもたちが抵抗なく英語に興味を持ち、なじんでいく教材としてふさわしいのではないかと感じます。金沢型学習スタイルにある「分かる喜び・できる喜びのある学習」を一人一人の子どもたちに保証するという意味でも、三省堂の教材は優れていると感じています。

また、東京書籍の6年生の60ページ、「Save the Animals」はとても素晴らしい課題であり、捨て難いというご意見もあって、まさにそうだな、こういうものが授業で触れられたらとても素敵だなと思ってはいるのですが、ちょっと難しいかなと思うのです。小学生の段階で全ての子どもたちがこの授業を理解し、自分の考えを持ち、学びを深めていくのはかなりハードルが高いという感想を持っています。中学生でこういった優れた教材に出合えたらいいのではないかと感じました。

丸山委員

私も長澤委員と同じような意見ですが、東京書籍は記入欄の多さだけでなく、見た目にも少し情報量が多いような気がして、英語が苦手な生徒にとっては入り込みにくいように思います。これに対して三省堂は、教科書の構造が分かりやすく、「HOP」「STEP」「JUMP」で段階的に分かりやすく分けられている点もとてもいいと思いました。

動画に関しては、東京書籍の方が音声がとても聞きやすかったと思います。ただ、全体的には三省堂の方が学習展開がとても分かりやすく、子どもたちにとっても入り込みやすい内容になっていると私は思います。

野口教育長

先ほど三つの発行者の評価が高かったということでお話がありましたが、東京書籍と三省堂についてはご意見がありましたけれども、光村図書については何かご意見はありますか。光村図書について特段ご意見がないようでしたら、残りの二者で話を進めていきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

大島委員	<p>まずこの3者を比べたときに、光村図書は英語の学び方という意味での導入については非常に優れていると思うのですが、デジタル教科書を含めて東京書籍、三省堂と比較するとやや劣るので、2者に絞ってもいいのではないかと思います。</p>
野口教育長	<p>光村図書は、実際に授業をする学校の声として研究委員会の評価を見ても6者の中で一番評価が低いので、2者に絞ってもよろしいでしょうか。</p>
委員一同	<p>異議なし。</p>
野口教育長	<p>それでは2者に絞りたいと思います。東京書籍か、三省堂かということで、今ほど何人かのご意見の中では三省堂という声があったと思います。ただ、学校の先生は反対の評価なのですよ。そこの評価の仕方というか、使いやすさをどう見ているかということだとは思っています。</p>
木村委員	<p>東京書籍の記入欄の部分が非常に多いというのは、三省堂との大きな違いではないかと思います。三省堂の場合は自分のノートに書き込む形になるのではないかと思います。空白の欄が非常に多いというのが違いかなと思います。</p> <p>光村図書を見ますと、学校生活で子どもが興味を持つ題材が多いと感じていて、そこから英語に持っていくのは導入としてはいいのかなと思えました。私も6者の中ではこの3者かなとは思って見ていたのですが、東京書籍と三省堂は其中でも優れているかなと思ひまして、そして三省堂よりも東京書籍の方が書き込みの部分が本当に多いので、そこが違いなのかなと思ひました。やはり三省堂の方が、子どもたちがちゃんと自分のノートに書くことで学習内容を残すことができるのではないかと考えています。</p>
田邊委員	<p>金沢の場合には5年生から英語の学習が始まるわけではなく、先行するそれまでの蓄積の上での教科書として学習することになるのですが、絞り込んだ二つの発行者に関しては一長一短があるような気がしていて、どちらでも差し支えないというのが率直な思いです。ただ、文字を扱うようになるのは5年生からだと思うのですが、文字をどう書き表すのかということ丁寧に説明しているのは東京書籍だと思います。</p> <p>5年生の16ページから2ページにわたって、大文字をどういう書き順で書くのかということが書かれていて、各発行者とも文字については提示しているのですが、書き方を丁寧に説明しているのは東京書籍だと思っております。文字を適当に書くのではなく、きちんと書くのだよというメッセージは非常に重要だと思って、そのあたりの丁寧さは東京書籍の方があるのかなと思います。</p> <p>それから、書き込みが非常に多いというのは、自分で学習するのみならず話し合ったり伝え合ったりするときに、自分はこう考えるということをお互いに突き合わせるためにノート代わりに活用されるつくりになっているのだらうと思います。ですので、伝え合い話し合いがしやすいように配慮して作られている気がしていますので、そういう点で秀でているように思います。</p> <p>しかし一方で、たくさん盛り込まれていることが逆に英語に対する抵抗感をもたらす面もあると思います。その点では光村図書の方が量的にも東京書籍と比べてかなり抑えられていますし、丁寧に進められるつくりになっている点が秀でているように思います。どこをターゲットにするのかということによって教科書の使い方も考えなければならないところがあると思いますが、先ほどの意見等を踏まえながら、いずれもそうだなと同感しております。</p>
野口教育長	<p>東京書籍は、身近なところからの広がりをお大切に、自分から日本、日本から世界というのを意識した2年間の構成になっていることが非常に見て取れます。半面、三省堂の展開はどこか統一感がないなと思っていました。</p> <p>先ほどのお話のように、これまでの金沢の英語の積み重ねがあるので、東京</p>

書籍は書き込みの部分がかなり多かったとしてもこれで十分やっていけると思うし、先生方が教材を準備しなくても、これを使っていけば、もちろん準備はしますけれども、これそのものでも授業が成り立っていくと思うのです。ですので、一長一短あるなどと思ってはいます。ただ、ステップの踏み方は、やはり三省堂はいいなと思います。

今の時点でちょっと聞いてみてよろしいでしょうか。どちらがいいと思うか、ちょっと教えていただけますか。2者に絞っていますので、自分だったら東京書籍だと思われる方は挙手をお願いできますか。

大島委員・田邊委員

両方でもいいですか。

野口教育長

はい。

—挙手—

野口教育長

現時点では1人しか差がないということですね。

田邊委員

内容についてはいずれの教科書でも先生方が授業でうまく活用されると思うのですが、特徴的な違いは記入欄が多いか、抑えられているかという点です。記入欄を実際の授業の中でうまく活用できるのであればふんだんに盛り込まれている東京書籍が使いやすいと思いますし、そうでないのであれば三省堂の方がふさわしいと思いますので、実際の授業では、記入欄が多い方が活用しやすいのかどうかという意見を踏まえて選択できればと思っています。

野口教育長

恐らく書き込みが多いという点が大きなポイントなのでしょうね。単に書き込めばいいというものではなくて、思考しながら書き込む箇所が東京書籍には結構あるのですよね。田邊委員がおっしゃったように、文字を練習するだけなら特段問題ないのかもしれませんが、例えば、東京書籍の5年生の56ページで、自分で独自の町をつくろうという活動があります。A、B、C、Dの空欄があり、好きな施設、欲しい施設を記入するのですが、子どもたちにとっては難しいのではないかと考えます。

木村委員

現在使用している教科書はどの発行者なのですか。

貞廣学校指導課長

令和2年度からは東京書籍を使用しています。

木村委員

そうすると、記入欄の多い東京書籍の教科書がどのように授業に反映されているのか、別に多くても全くかまわないのか、先生方に聞いてみたいという気はしています。

貞廣学校指導課長

事務局としましては、学校から上がってきている調査研究報告書を見ると、東京書籍の方が評価が高いということは、やはり使い勝手が良かったのだろうと感じております。ただ、調査委員長からそのあたりについて調査委員会でも話し合ったのかを聞くのも一つかなとは思っています。

野口教育長

どうしましょう。再度調査委員長に来ていただいておりますか。

木村委員

書き込んだ方が子どもたちにとっては分かりやすいのか、そうでないのかが分からないので調査委員長に確認したいです。

長澤委員

4年生まででどれくらいのレベルに到達するのだろうか、どこまで英語の学習が進むのだろうかと思うのです。例えば三省堂のテキストを見たときに、ちょっと易し過ぎると感じる子どもたちがどれくらいいるのかということも先生



方の感覚を聞いてみたいと思います。

野口教育長

では、入ってもらいましょう。

(選定委員、調査委員 入室)

野口教育長

ちょっとご質問したいことが生じたのですが、今の金沢の子どもたちは英語の学習をずっと積み重ねていますが、4年生までの既習内容を考えると、三省堂の教科書になったときにこれが簡単だと感じる子どもさんはどれくらいいるのでしょうか。

英語調査委員

三省堂の内容が、金沢市の4年生のレベルよりも下がってしまうことは決してないと思っています。むしろ取っ付きやすいのかなと先生は捉えています。どちらかという東京書籍は先へ行くというか、いろいろな語彙を書かせていくという印象はあります。なので、そんなに三省堂が簡単過ぎて後戻りしているような印象はあまりなかったです。

野口教育長

長澤委員、それでよろしいですか。

長澤委員

ありがとうございます。

野口教育長

英語の学習はこれからもずっと続いていくわけですね。今、中学校は東京書籍を使っていますが、小と中の流れを考えたときに、これがもし発行者が変わったときに何か支障はないのかなと思ったのですが、その点はどのように。

貞廣学校指導課長

小中の流れということで選ぶならば、今は東京書籍を使っているので中学校も東京書籍を使う方が子どもたちはスムーズに入っていけるのではないかと捉えております。前回も中学校の教科書採択に当たって、小学校の教科書はどこを使っているのかという質問も話し合いの中で出たのではないかと考えているのですが、今回のケースにおいては、事務局としては系統性を考えたときには東京書籍を使って、中学も東京書籍ということも考えられますが、学習指導要領に基づいて検定を通っている教科書ですので、どれを使っても特に問題はないというのも一理あると思います。

長澤委員

もう1点、東京書籍のテキストは先生方にとって授業の中で使いやすいのでしょうか。

英語調査委員

今も東京書籍を使っているのですが、全く抵抗はないと思っております。

長澤委員

教科書に書き込むこととノートを作ることとのすみ分けのようなことは何か学校で指導されているのでしょうか。

英語調査委員

書き込めるようになっている教科書はこの発行者も結構増えていて、むしろノートに書いていたのを教科書に書けばそれは残っていくので、教科書に書く方向へ持っていつているのかなと自分では捉えています。ただ、学校それぞれの現状や、子どもの力もあるので、一概には言えませんが、教科書に書き込むことに対しては私は悪くないと思っています。

長澤委員

情報が一元化されて学習効率が上がっているケースも見られるというふうに言いたいのですかね。

英語調査委員

はい。

- 木村委員 東京書籍と三省堂と比較して何か違いを探そうと思ったら、東京書籍の方が書き込みが非常に多いというのがすごく目に付いたのですが、これは授業には全然関係ないのですか。先生として教える上でどういうふうに感じていらっしゃいますか。
- 英語調査委員 小学校の英語は子どもたちが英語が大好きになって、親しみを持った状態で中学校に上げることが一番の目標なので、三省堂に変わることによって書き込むことが出来なくなったとしても、教職員は、子どもたちの生活に密着している流し方に魅力を感じるだろうと思います。
- 木村委員 そうですか。分かりました。ちょっとまた考え方が変わるかもしれません。
- 野口教育長 それではこれでよろしいですか。ありがとうございました。
- (選定委員、調査委員 退室)
- 野口教育長 そろそろ決める方向で話を進めていこうと思いますが、今のご質問を含めていかがでしょうか。
- 田邊委員 依然決め難いところもないわけではないのですが、この前の学習状況調査でも英語の力をもっと底上げしなければならないという状況もありますし、ある意味で英語をシャワーのように浴びて力を付けていくことが必要なのかなと思います。情報量が多いか少ないかという比較は単純にはできないかもしれませんが、東京書籍の素材を見たら三省堂と比較してかなり幅広く英語の学習を広げていくことができ、しかもグローバルな発想も取り入れられるという点からすると、どちらかを選択するとしたら、デジタル教科書、二次元コードを使つての学習も重ね合わせて考えると東京書籍の方が魅力的だという意見です。
- 長澤委員 取っ付きやすいのは三省堂だと考えているのですが、私は乗り換えようと思います。情報量が多いのは間違いなく東京書籍であり、先生方が教材として使い、子どもたちに教えるという意味ではより優れていると思いますし、動画や情報量、また書き方を学ばせるなどさまざまな視点から教材を提供しているという意味で優れているのは東京書籍だと思います。書き込みについても、情報を一元化して子どもたちが使いやすくなるようにしているという実態の話も聞きましたので、考えを変えようと思います。
- 丸山委員 意見が分かれているところで、それなら現場が一番使いやすいものがないと思ったのですが、今のご意見を聞いたところ、書くことに何も抵抗がないということだったので東京書籍でもいいかなと思います。
- 木村委員 今おっしゃった意見と一緒に、先生方が使いやすい教科書が一番いいと思いますので、私も東京書籍に変えたいと思います。
- 大島委員 やはりこの段階では英語の量が必要なのかなと思っていて、私は意見を変えず東京書籍がいいかなと思っています。
- 櫻吉委員 言語を書くことが非常に大切だといつも思っているのですが、書く量を担保できる東京書籍がいいと思います。
- 野口教育長 実際の授業を考えていくと、東京書籍は書き込むことで、子どもたちが自分で授業に参加することになります。私も甲乙つけ難いところではありますが、自分から日本へ、日本から世界へというのが世界をかなり意識している

ので、東京書籍の方がいいのかなと思っています。

となると、今ほどの皆さんのご意見としては、甲乙つけ難いけれども、学校の先生方のご意見もあるし、教科書のつくりと金沢の実態を考えると東京書籍の方がいいのではないかとということで決めてよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

野口教育長

それでは、英語については東京書籍に決定したいと思います。

## ○種目「家庭」

[家庭：説明の概要（調査委員長）]

家庭科は2者である。

東京書籍は、項目5の現代的な諸課題への対応や各教科等との関連について、SDGsに関する動画等の資料が充実しており、環境教育のみならず持続可能な社会の構築と消費者教育を関連付けて学習できるように配慮されている。

開隆堂は項目7、本文の内容、挿絵、写真および図等の扱いが児童の発達段階に適して、文字の書体の大きさ、図版等の印刷が適切である。例えば玉結びなどのように簡潔な写真で分かりやすく手順が示してあり、別のやり方を示しているところもある。また、野菜の切り方の目安が実物大で示してあるなど、どの子にも分かりやすく知識・技能の定着につながる配慮がなされている。

選定委員会で出た質問について報告する。調理や裁縫などの具体的な内容について2者で大きな差はあるかという質問については、どちらも生活につながる工夫がされており、大きな差はないとのことだった。東京書籍では「もったいない」という言葉が紹介されたり、衣替えなど伝統文化の紹介に加え、昔からの日本人の心や考え方が記されているし、マークで道徳の内容・項目との関連を意識付けるようにも配慮されているとのことだった。開隆堂は衣食住の全てに、伝統に加えて他国の文化などが広く紹介されているということだった。また、「生かす」「深める」活動が設定され、活用場面が想起しやすく、家庭実践につながるように配慮されているということだった。

あと、二次元コードの表示について質問があった。開隆堂は二次元コードの目次があり、一覧がある。東京書籍は外部のリンクとつながっているところが多く、特にSDGsの特色が見られる。どちらも調理実習や製作を実施するときに繰り返し動画などを見ながら学習できるように配慮されているということだった。

項目1の基礎的・基本的な知識の習得に関して、生活・経験へと関連付けたり、既習のことと関連付けたりするのに差があるかどうかという質問に対しては、東京書籍の方は基礎的なことを「いつも確かめよう」という言葉で確認するまとめ方になっている。開隆堂の方は、玉結びや玉どめなどの大切な用語が太字で分かりやすく記述され、それらと図がリンクしながら、基本的学習内容が定着されるように配慮されており、両者には大きな差はないということだった。

あと、動画などの学校での活用状況とその点での評価について質問があった。二次元コードは、授業の中で説明したり、家で振り返ってやってみたいときに有効であるということだった。開隆堂では見開きで順序立てて書いてあり、手順が全て分かるので、二次元コードを読み込んで動画を見るよりも教科書を机に置いてやる方が使いやすいということだった。そういう意味で、開隆堂の方が非常に見やすく、時と場合によって二次元コードを使えばいいのではないかと回答だった。

その他の図の描写の差としては、手順は開隆堂の方が分かりやすいということだった。簡単な言葉で手順を示したり、実物の大きさを示している点で見やすくなっている。東京書籍は、実物大の手や、右利き・左利きによって手を載せてやるということをモデルで練習する工夫があるという回答があった。

その後の審議では、開隆堂は項目9の基本的な言葉の意味が明確で、図などを用いて説明もあり、さらに手順が大きな写真で見やすく説明されているのでかなり評価できるのではないかと、選定委員会でも皆さんからそうした了解を得たので、そこを評価として少し高く表現している。

両者ともSDGsの視点に立った記述がたくさん見られた。開隆堂はキャリアインタビューが豊富に載っていて、子どもの興味・関心を高める点で有効であるというご意見があり、そこも評価として少し説明の方に入れた。

どちらの出版者も地域との関わりをととても大切にしているので、それが現代的な諸課題に対応しているというご意見もあった。

あと、金沢は校区単位での地域文化が息づいている。開隆堂の方が金沢のものに近く、例えば回覧

板の必要性や地域のお祭りなどが書かれているという意見があった。

[家庭：質疑応答]

田邊委員

二つの発行者ともよく似ているという印象を持ちますが、家庭科の趣旨は、生活の中での課題を想像してその課題を解決するためにどんな実践が必要なのかということ幅広く学習することだと思います。そうした観点で見た場合に、特に開隆堂の方が課題解決型の学習を前提にして、どんな活用があり得るのかということが想像しやすく、生活実践に結び付けられた点に工夫があるというふうに評価されています。二つの発行者を見て、この点について開隆堂がより優れているというところがあれば指摘していただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

家庭調査委員

生活に関連するという点では、開隆堂は68ページの「考えよう」「生かそう」のところで、自分たちが自ら考えたいような資料を掲載しています。考えてみることを促すことでさらに家庭実践につながるような配慮のされ方をしている点が大いかなと思っています。

東京書籍でもいろいろな工夫があって、25ページにあるように、こうやってみようというのを促すようなイラストや吹き出しが工夫されています。どちらも家庭での実践につなげていくという点では工夫されていると思っています。

ただ、課題解決を促しているという点では、開隆堂の76ページの囲みにありますが、コミュニケーションの取り方としてのモデルがあり、具体的にこういう形でコミュニケーションを取っていったらいいねということや、イラストでこのような形で話し合いができたらいいいねというような具体的な形が記載されています。このように、調べるだけでなく、イラストなどでイメージを持たせるといって、開隆堂の方が少し子どもたちに寄り添っているのではないかという意見はありました。

田邊委員

今ご指摘いただいた点は、いろいろな教科との関連性も当然あると思います。国語や道徳でもそういう話し合いが強調されている傾向がありますので、教科間のつながりもしっかり踏まえれば、それを家庭科で生かすことにつながると思うのですが、その点をよりしっかりと明記しているのは開隆堂だということなのですね。

家庭調査委員

はい。

長澤委員

項目4の「伝統と文化を尊重する態度、道徳性などを養うための内容や話題・題材の充実」について、それぞれの会社の該当箇所や優れている点を教えてくださいませんか。

家庭調査委員

道徳に関連するところでは、東京書籍の80ページに道徳のリンクマークというものがあります。東京書籍は各教科でこことリンクしているというマークが記載されています。開隆堂では、道徳のリンクのところにはマークされていませんでした。

ただ、伝統や文化に関しては、東京書籍では101ページの衣替えであったり、27ページの輪島塗といったところで、伝統文化の紹介や日本人の心の考え方などが示してありますが、先ほども話がありました開隆堂の方は、125ページに食文化に関してかなり伝統文化を尊重するような、家庭科とリンクしているような文化的な内容が特集として載っています。また、106ページや77ページのような「世界のおやつ」であったり、それから、日本の知恵であるすだれや打ち水など、そういった文化とつながるような場面も配慮されています。

野口教育長

それでは、審議の途中で必要がありましたらまた入室いただいでご対応いただくということで、まずいったんご退室ください。

(選定委員、調査委員 退室)

[家庭：審議]

櫻吉委員

実技を中心とした教科では、実際に二次元コードで動画を見ると理解が深まる部分があると思うのです。左利きの人は10%ぐらいいるので、右利きの先生が左利きの子に実技を教えるというのは意外と難しいところがあるのではないかと思います。図を見ながら、右利きでやる分には私は開隆堂の方が分かりやすかったのですが、開隆堂には玉どめなどの左利きの動画がないのです。実際に教科書を見ながら左手で玉結びをしようと思ってもなかなかできなかったのですが、動画を見てやったらすぐにできました。ですので、左利きの子に右利きの先生が教えるというのはかなり難易度が高いのではないかと思います。その助けとしては、東京書籍の方がやりやすいのではないかと思います。

ただ、それ以外の部分、実技以外の部分の記述を見ると、開隆堂の方がより詳しくというか、学習を深める内容が多いと思いました。甲乙つけ難いのですが、トータルで見ると、左利きの部分をちょっと目をつむるとすれば、開隆堂がいいのではないかと思います。

長澤委員

整理整頓についての項目を比較しました。東京書籍は56、57ページ、開隆堂は30、31ページです。全体的に開隆堂の方が見やすいので、子どもたちが見ていて取付きやすい教科書だなと思いました。整理整頓の手順に関しても一目瞭然で、東京書籍では文章だけなのですが、開隆堂の方は物の写真とともに説明されていて、特に整理整頓が難しい子にとってはすごく効果的なページだなと感じました。

あと、ぜひ学んでほしいなと思っているテーマの一つに、地域との関わりというテーマがあるのですが、東京書籍だと128ページから、開隆堂は126ページからになっています。最初に地域全体の絵を見ながら、どこにどんな問題があるかというところから始まっていくということで、導入はきっと一緒なのですが、やはり開隆堂の方が見開きページで全体にまず絵が示されていて、取付きやすいイメージがあります。

加えて、126ページの下のところ「学習のめあて」という形で、ステップを踏んでより深い学びができるように誘導されています。そういう視点を見てみると、開隆堂の方がより深い学びに結び付くような形で内容が充実していると感じました。

最後に、伝統に関して質問させてもらったのですが、これも開隆堂の方が写真などで分かりやすく、興味を引くような形での掲載が多いと思っています。開隆堂の109ページでは、建築に関して大きくページを割いていますし、先ほどご指摘いただいたように125ページでは食文化を掲載しています。子どもたちが興味を持って文化・伝統に触れるという意味では開隆堂の方が優れていると感じました。

トータルで判断しても開隆堂の方が優れているかなと感じています。

丸山委員

東京書籍の1枚めくったところにある、「家庭科はあなたの生活をよりよく変えていく教科です」という導入がすごくいいなと思いました。まさにそうだなと思いながら、その中で教科書の内容が展開されていく、この導入はとてもいいと思ったのですが、トータルで見たときに、やはり開隆堂のところどころに「話し合おう」「考えよう」というところがたくさん出てきて、そういう意味でもやはり問題解決型学習を開隆堂はしっかり押さえているのかなと思います。

開隆堂ではキャリアインタビューがところどころに出てきて、それが家庭科

とどう関係しているのかとと思っていたのですが、実際に家庭科で学んだことを仕事に生かしているとか、将来的なところにもつながっていることが非常に分かりやすく示されていて、このあたりも将来につながる勉強ということではないかと思えます。ですので、トータルで見て私も開隆堂の方がいいと思えます。

木村委員

大きな差はないように拝見しました。どちらもよく似た内容が載っているのので、どちらを選べばいいのか結構難しいと思って拝見しておりました。東京書籍にはいろいろなマークがあって、そのマークでだんだん学びを深められる配慮があるということと、SDGsに関する動画資料が結構充実しており、必要なときに確認できるように配慮されていると思えました。

それと、日本の伝統コーナーということで、昔ながらの良い風習として、例えば101ページの「衣替え」なども今の子どもたちはほとんど知らないと思うので、ところどころにそういうものが入っているのは東京書籍の特徴なのかなと思えました。

また開隆堂は、先ほど長澤委員がおっしゃいましたが、比べると非常に見やすく、振り返るページがあり、キャリアインタビューも取り入れているので、非常に配慮されていると思えます。それから、一番大事な安全に関する内容をとにかく前面に出しています。主に調理のことですけれども、そうした点で健康な生活を送るために必要なことが載っているなどと思えました。

どちらかを選ぶのは非常に難しいのですが、よく似た内容なのでどうしたらいいでしょうか。特に大きな差を探すのも難しいなという思いしております。もう少し考えます。

大島委員

私もほとんど皆さんのご意見と同じように感じております。最終的に図解というか、写真をうまく用いて分かりやすくしているのは開隆堂だと思えましたので、開隆堂の方が優れているのではないかとというのが私の意見です。

田邊委員

これまでに出了ご意見と一緒に、実技を伴う活動が家庭科にはたくさんありますので、写真などを使ってよりクリアに伝えられるような教科書が望ましいとすれば、開隆堂の方がいいと思っております。

併せて言えば、家庭科の各単元がどういう視点で考えなければならないのかということを開隆堂は明記しています。冒頭の3ページに生活を考える見方・考え方として四つの視点があり、各単元でどこが強調されていくことになるのかということ全体に大切な視点としてまず据えて、各単元でこれとこれとか、全部というふうに明示しながら進めてあります。生活と密着している内容なのですが、その先に何が想定されているのかという視点を踏まえて取り組むということが伝わるように設計されているので、身近なことでありながらそれが何につながっているのかということ意識して取り組むつくりになっているという点で、開隆堂が使いやすいというか、望ましいのではないかと思えます。

野口委員長

私はどちらかという開隆堂の方が使いやすいと思って見ていました。まず見通しが持ちやすいというか、表紙を見ただけでもこれから2年間何をするのかというイメージが湧くように思いますし、1ページめくると、誕生してから中学生までの様々なことが、見通しを持って学ぶような形で表示されていると思えます。

やはり開隆堂のいいところは、見開き2ページ分をうまく使っているという点です。特に調理手順に関しては、14、15ページの見開きでハウレンソウの湯がき方やそれを切った食べるときの処理の仕方、次のページをめくると、例えば加熱時間によるイモの変化とか、もちろん東京書籍にもありますけれども、隣のページの卵のゆで方に関しては非常に時間を切りながら見やすくまとまっていると思えました。

後ろの方にも様々な資料が載っているのですが、中学校との関連については、「2年間の学習を中学校につなげよう」というところでは136ページからの資料が非常に丁寧にまとまっていますし、これから中学校で何をするかというイメージがしやすくなっていると思います。

その後の「生活の中のプログラム」は、東京書籍にもありますが、写真が非常に分かりやすいと思いますし、「安全と衛生に気を付けて実習しよう」のコーナーは将来にわたって使いやすいと思っていまして、このまま自分の生活に残しておいても随分長い間使えると思いながら見ておりました。

最後の見開きを開くと、切り方と大きさの目安が実物大できちんと明示されていて、これぐらいに切ったらいい調理ができるという形の表示もあったり、微に入り細に入りしっかりとまとまっているということで、私は開隆堂がいいかなと思って見ていました。

ほとんど皆さん開隆堂ということですが、木村委員、どうでしょうか。

木村委員

はい、それで結構です。

野口教育長

よろしいでしょうか。そうしましたら、今ほどのご意見を集約しますと、家庭については開隆堂ということによろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

野口教育長

それでは、家庭科については開隆堂ということで決定します。

随分時間が長くなり、申し訳ございません。最後になりますが、確認させていただきます。本日予定しておりました5種目については、まず国語と書写は光村図書、音楽は教育芸術社、そして英語は東京書籍、家庭科は開隆堂ということによろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

野口教育長

ありがとうございました。それでは、今日の審議につきましては、1時間程度延びて大変申し訳ございませんでしたが、これで終わりにしたいと思えます。次回は8月17日(木)16時から、この会場で図画工作、社会、地図、理科、生活について審議を行いたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。以上をもちまして本日の審議を終了します。ありがとうございました。

以 上

## 令和5年 教育委員会第3回臨時会 会議録

1 日 時 令和5年8月17日(木)  
開会 15時55分  
閉会 19時10分

2 会 場 金沢市役所 第二本庁舎 2階 2201会議室

3 出席委員(7名)

教育委員長	野 口 弘
教育委員	田 邊 俊 治
〃	大 島 淳 光
〃	木 村 陽 子
〃	丸 山 章 子
〃	長 澤 裕 子
〃	櫻 吉 啓 介

4 欠席委員(なし)

事務局	教育次長	上 寺 武 志
	担当次長(兼)学校指導課長	貞 廣 賢 了
	学校指導課担当課長(兼)課長補佐	小 川 隆 庸
	学校指導課主席指導主事	古 川 雄 次

金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会	
委員長	松 原 道 男

教科用図書調査委員

5 案 件

非 臨時議案第4号 令和6年度使用小学校教科用図書の採択について (学校指導課)

6 議事の経過等 以下のとおり

臨時議案第4号について非公開で審議に入り、小学校教科用図書のうち、図画工作、社会、地図、理科、生活について採択を行った。

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

○ 教育委員への文書について(学校指導課)

(説明の概要)今週月曜日に委員の皆さまに宛てて文書が提出された。教科書採択の会議を非公開とする決定に対する抗議と、教育委員の方々との面会を求める内容となっている。受領時は個々の封筒に封がされていたが、親展の表記がなかったので事務局で開封した。事務局としては、委員の皆さまが教科書採択に関し個別の意見表明の場に立ち会うことは静ひつな採択環境の保持の観点から控えるべきと考えており、事務局からお断りの連絡を明日以降行おうと考えている。よって以後の対応は事務局において行うこととしたい。

委員一同 異議なし

○ 臨時議案第4号 令和6年度使用小学校教科用図書の採択について(学校指導課)

○ 種目「図画工作」



## 〔図画工作：説明の概要（選定委員長）〕

図画工作は2者である。

開隆堂は、項目3に関して、教科書の見方や使い方を「図画工作を学ぶ皆さんへ」として紹介している。3人のキャラクターを使って図画工作で育つ三つの力を示し、自発的・自主的な学習を促している。三つの力と題材を示した目次が配置され、年間を通して活動の写真と題材が紹介されている。また、「つながる造形」で日常的に造形的な見方・考え方を働かせ、学びを生活や社会で活用できるようになっている。項目5に関しては、現代的な諸課題や教科との関連について、3・4年生では身の回りの不要になった材料から発想を広げ、その組み合わせを工夫する造形活動がある。社会科との関連やSDGsの取り組みのコラムで、例えば「タイヤかいじゅうあらわる」と題して紹介され、他教科との関連や教科横断的な学びが配慮されている。

日本文教出版は、項目1に関して、基礎的・基本的な知識や技能について「材料と用具のひきだし」で、水彩絵の具を使った制作の楽しさの期待が膨らむ。また、用具の基本的な使い方を8ページにわたって記載している。「木の加工」では「穴をあける」「きる」「はる」「つける」など行為ごとに整理・焦点化して記載している。説明では擬音語を示し、イメージしやすいように工夫されている。項目8に関しては、金沢市の児童の実態に即して、造形遊びでつなぎ方や組み合わせ方を工夫しており、活動の仕方が考えられる。教科書ではさまざまな材料、表し方を示し、児童の実態や学校の状況に合わせて授業展開が工夫できる。項目9に関しては、どの題材も「めあて」が示されており、発想や構想と鑑賞を関連させて思考力、判断力、表現力を育成するために必要な配慮がされている。

その後、活動の自由度のある日本文教出版と、ある程度活動を制御している開隆堂とでは、現場ではどちらが良いかという質問があった。造形遊びで比較すると、日本文教出版の場合は「自然を感じるすてきな場所で」ということで、多くのページを割いて雪や砂といった材料や場所を紹介している。金沢は冬に雪が降り、海に近い所もあり、学校や地域、子どもの実態から広く深く学ぶことができるという回答だった。

日本文教出版では、マスクをしている写真が多いが、開隆堂のはマスクをしていないことについて質問があった。時期もあり、マスクをしている写真があるが、日本文教出版の子どもたちの写真は生き生きしているということだった。

二次元コードのサイズについては日本文教出版の方が少し小さめだが、大きくしたものを子どもたちに印刷して渡すことができるので特に問題はないという回答だった。

項目4についての質問で、両者ともに良いけれども、それぞれの良さについて質問があった。開隆堂は「みんなのギャラリー」で、地域の特性を生かした造形活動や地域の作家との関わりを通して子どもが制作している様子を取り上げており、人や地域とのつながりの良さを感じられるということだった。日本文教出版は「教科書美術館」で、各地に伝わる伝統工芸や和菓子において受け継がれてきた形や色、イメージに着目させており、このページをイントロダクションとして新たに気付きを促し、表現につなげる活動を取り上げているということ、両者ともそれぞれの良さがある、その良さが違うということだった。

次に、図工専門の教員と学級担任が指導を行うことがあるが、その点での2者の評価について質問があった。教師の経験値もあるけれども、子どもたちがやりたいということからスタートするのが図画工作なので、やりたいことを支える教科書としては日本文教出版の教科書は良いという回答だった。

1人1台学習用端末を使ってクレイアニメを制作するのは時間がかかりそうだけれども、そういう活動はあるのかという質問があった。「アニメーションを制作するという実践は多く見られ、端末を使う場合、写真を撮る、自分の発表をビデオに撮って見直すなど、クレイアニメについては時間がかかるが、これを基にしてどんな表し方ができるかを考えることができる。発行者によってアプリを提供しており、そういうものを活用しながら学びを考えたカリキュラムをつくっていく必要がある」ということだった。

その後審議を行った。今のクレイアニメについては、夏休みの作品作りのヒントになって非常に楽しそうだという感想があった。審議においてはほとんど感想・意見になるのだが、あえて選ぶならば日本文教出版が良くて、「3・4年生の水彩の使い方が分かりやすく、かなづちや小刀などの使い方について明確に書いてある」という意見があった。それから、下の学年の子が上の学年の子の作品を見ることが育てる力になると感じており、現在と同じ教科書であれば、同じ作品を自分だったらこう作るという視点で下の学年の子が作ることはできるのではないかという感想があった。また、前年度までに付けた力とその年の作品作りに生きるという点で、日本文教出版は「ひきだし」という形で見やすいまとめ方をしているということだった。また、先ほどの質疑応答でもあったように、雪など実態に合った作品や写真で意欲を持たせるはいいことではないかという、意見を踏まえた感想があった。

[図画工作：質疑応答]

木村委員

マスクに関しては、私が2者を拝見したところでは、日本文教出版の方は半分以上の子どもたちの写真がマスクをしています。他の教科書を見ていてもあまり気にならなかったのですが、内容は別にして、半分以上の子どもたちがマスクをしているように思ったのですが。

図画工作調査委員

われわれの方で教科書の子どもの表情を見たときに、マスクの有無は除いて、子どもたちの生き生きした表情、子ども同士が対話している表情は日本文教出版の方が良いのではないかと考えております。

田邊委員

ご説明にもあったように、開隆堂は三つの力を養うことを提示していますが、日本文教出版は図工を通してどんな力を養うかというメッセージはあるのでしょうか。

図画工作調査委員

開隆堂は三つのキャラクターを示しながら、「知識及び技能」「思考力、表現力、判断力等」「学びに向かう力、人間性等」を示しています。日本文教出版も同じように三つに分けておりますけれども、日本文教出版はもっと細分化したためあてを示しています。例えば、「ふしぎなたまご」という2年生の題材、1～2年下の16ページになりますが、まず手のマークが「知識及び技能」で、そこには知識と技能を分けて明確に示しています。それから電気マークは「思考力、判断力、表現力等」となっているのですが、思考力、判断力、表現力等は図画工作科において、発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力の二つがあります。この二つを明確に示しています。そして、「学びに向かう力、人間性等」として一つあります。

開隆堂も三つを示しているのですが、どちらかというところ「知識及び技能」の中の技能に寄ったもの、それから「思考力、判断力、表現力等」については表現に関して示す形になっていきますので、重点化されているといえそうなのですけれども、若い教師や学ぶ子どもたちにとっては、こんな力を付けるのだということが日本文教出版の方が明確に示されているのではないかと考えています。

長澤委員

子どもたちの活動の自由度について、日本文教出版の方が高く、開隆堂の方が制限されている部分があるというお話がありました。具体的にどういうところからそのような評価がされているのか教えてください。

図画工作調査委員

造形遊びのところで、日本文教出版の3～4年下、20～21ページの「組んで立ててつなぐんぐん」が一ついい例としてあると思います。棒状の材料を生かしてできる形や組み合わせを楽しむ活動なのですけれども、日本文教出版では新聞紙を棒状に作ったもの、木の枝や竹ひご、割り箸といったさまざまな材料の表し方を示しているところが、子どもたちの実態と学校の学習環境等を勘案しながら教師が選ぶことができるし、子どもたちも選ぶことができるという意味で、広がりのある主体的な学習を促す教科書のつくりになっていると感じています。

田邊委員

興味を引いたことの一つに、日本文教出版は必ず「ずこうたいそう」というものが巻末や冒頭に書いてあります。この「ずこうたいそう」というのは、あれば行うようになるものなのでしょうか。

図画工作調査委員

実際の授業の中ではどうかと思うのですが、子どもたちが端末を自由に使う中で、物を見ることや心をすっきりさせることが学びにとって大事なのだということを促すものにはなるのではないかと考えています。実際の授業ではなかなか難しいという気はしています。

大島委員

図画工作においては子どもたちの自発的な活動をどう促すかというのが非常に重要な観点だと私は思っています。総合訪問などでは、タブレット端末を結構利用しながら、子どもたちが自発的にいろいろなものに興味を示す場面を授業でよく見るのですが、先ほど調査委員長から二次元コードのサイズの話や、1人1台学習用端末、アニメーションに関する感想等が出ていました。この2者を比べたときに、ICT活用、タブレット端末を使う部分において、どちらかが優劣があるという意見はあるのでしょうか。

図画工作調査委員

まずICTの活用についてですけれども、開隆堂では各学年にタブレット端末を使おうというページが設定されています。各巻の後ろの方だったと思います。発達段階に応じてタブレット端末を使って、集める、調べる、表す、見る、保存するといった活用例を示したものになっています。こういう分け方については、子どもたちがタブレット端末を使う意義を示すもので、いいものだなと思っています。

日本文教出版で特徴的なのは、鑑賞する活動に力を入れていることだと思います。「みんなの図工ギャラリー」という二次元コードから呼び出すものなのですが、教科書にある以上のさまざまな子どもの作品を見ることができるとか、ICTを活用して美術作品を鑑賞するページの中で創造的な学びを促す面があります。

どちらも方向性が違うのですけれども、表現と鑑賞を関連させた学習をしつかりとしていくことで、思考力、判断力、表現力等の育成を目指すという観点から言うと、日本文教出版の鑑賞に力を入れたICTの活用が良いのではないかと考えています。

野口教育長

他はいかがでしょうか。それではご質問がないようなので、一度ご退室いただき、もし何かありましたらまた入室していただきますのでお願いします。

(選定委員、調査委員 退室)

[図画工作：審議]

野口教育長

前回と同じく2者しかありませんし、比べながらご意見を頂戴し、まとめたいと思っておりますのでお願いします。

櫻吉委員

どちらを選択しても非常にいい教科書だなと思うのですが、両者の5・6年下を比べたときに、開隆堂の23ページの上に「外国の友達の色」というのがあります。他学年の教科書にも出ていたのですが、こういうものを通して、世界では同じように絵を描いている子がいるのだなという気づき子どもたちに生まれるのではないかと思います。

開隆堂の36ページ、日本文教出版の18ページに、墨絵が取り上げられています。墨絵は必ず描くと思うのですけれども、墨絵の描き方について、開隆堂は描くことだけではなく、次のページを開くとそれが水墨画につながっていくという発展的な学習ができる内容になっていると思いました。

高学年になると鑑賞の部分のレベルがかなり高くなっていくのではないかと思います。開隆堂の52ページ、日本文教出版の48ページを見ると、両方とも「平和を願う」という題材で絵が選ばれています。日本文教出版は「ゲルニカ」です。子どもたちが本物を見られればいいのですが、こういう絵を見て一番驚くのは絵の大きさだと思うのです。それがこれで伝わるのかなと思います。一方、開隆堂の岡本太郎の絵は、人が一緒に出ていて、ものすごく大きい絵を描いているのだなという驚きがあると思うのです。実際、池田学さんの絵もものすごく大きい絵で、ものすごく細密に描かれていて、本物を見ると本当にびっくりします。これをよく採用したなと僕は思ったの

ですが、そういう絵の選定や見せ方が開隆堂は優れているなと思いました。

ただ全体を通して、自由度の話も出ましたけれども、教室を飛び出して作品を作るという点では日本文教出版の方が優れているように感じます。現在使っているものも日本文教出版で、連続性があるということからすると、トータルで見ると日本文教出版の教科書がいいかなと思います。

野口教育長

非常にわかりやすく比べていただきまして、ありがとうございます。

長澤委員

図画に関しては、子どもたちの自由度をできるだけ確保してもらいたいと思います。子どもたちが本当に自由な発想で、楽しみながら手を動かしていく姿を総合訪問でも拝見しておりますし、そういったところから感じることを大事にしていただきたいと思います。なので、これをしましょう、あれをしましょうというよりは、抽象的なものからそれぞれが考えるものを自由に表現してもらって授業が望ましいと思っています。

一方で、日本文教出版はそうした自由度を確保しながらも、めあてのところでもかなり細かく目的を示しているのでも、そういった意味では自由度を確保しながらも授業として成り立つということ、また気付いてほしいことについての気付きを確保しているという点で優れているかなと思います。

個人的には、3～4年上の25ページにある「土をかんじて」という素材がとても魅力的に感じました。最近土に触れる機会が減っていると思います。そういった中で、同じ土でもいろいろなものがあるということを見て、触って、感じられる体験は大人になっても大切なものになっていくと感じています。結論としては日本文教出版がよろしいのではないかなと思っています。

丸山委員

私も長澤委員と考えが近いのですが、まずめあてのところは日本文教出版は非常に明確で、分かりやすいめあてが設定されていると思います。

それから、図画工作にとって用具の基本的な使い方は結構重要な部分になると思います。けがをさせないということで、基本的な扱い方を個別に焦点化して記載しているところもとてもいいと思っています。

両者とも本当に鮮やかな写真で、ちょっとびっくりするというか、自分たちが子どもときの教科書に比べて本当に鮮やかな色・写真を使っているなという印象なのですが、学習という面でトータル的には日本文教出版が優れていると私も思います。

野口教育長

ここまでは日本文教出版がいいのではないかなという意見が多いと思うのですが、いかがでしょうか。

木村委員

私も両方の教科書を拝見して、それぞれ学習のめあてを設定し、きちんと段階を経て学習を深めるという点では、それぞれのやり方でなかなか優れているなと思っていますが、最後に「材料と用具のひきだし」というのがまとめてあって、使い方を丁寧に広範囲にわたって学べる工夫は、日本文教出版の方が優れているのではないかなと思います。

日本文教出版の教科書で気になるのはマスクだけで、内容は日本文教出版の方が全体的に見て優れていると思います。マスクをしている人がすごく多くないですか。他の教科書を見てもここまでマスクが気になったことはないのですが。来年度はどうなっているか分からないのですが、そこだけです。

野口教育長

恐らく編集する段階が少し早かったのでも、こういう写真が多くなったのではないかなと思います。

木村委員

授業には関係ないですよ。

野口教育長	関係ありません。
大島委員	私も結論から申し上げると日本文教出版の方が良いと思います。金沢型学習スタイルである「自分でみんなで考える」に沿って授業をしやすいと思いますので、日本文教出版の方が良いと思います。
田邊委員	教科書を最初に拝見したときは、つくりもよく似ているし、大差ないという印象を持ちましたが、詳細にお話を伺うと、めあてが明確であるとか、広がりがあるという説明を踏まえると、皆さんが推奨されている日本文教出版がいいのかと感じます。 特に子どもたちの気付きをフレーズと吹き出しで入れているのが日本文教出版であり、そういう点で非常に小まめに子どもたちの発言や鑑賞のコメントが載せられています。自由に作品を作る観点、それから作品を鑑賞する観点が、子どもの発言としてかなりきめ細かく掲載されており、その点でも日本文教出版の方が丁寧だと思いますので、日本文教出版が望ましいのではないかと思います。
野口教育長	ここまで6名の教育委員の皆さん全員が日本文教出版でいいのではないかという意見でした。私も同感であります。まず、金沢型学習スタイルを意識しているのはどちらかという日本文教出版だと思っています。5・6年下の3～4ページは見開きになっていますけれども、これを見ますとページの上に教科書の使い方、下に学習の進め方があり、これと連動させながら金沢型学習スタイルのようなものを示していると思いますし、先ほど調査委員長から話がありましたけれども、その中でも三つの視点を大事にしていることが明確になっていると思います。また、どの学年の教科書も、下の方に材料やいろいろな視点が詳細に書かれていて、学ぶための非常に良い工夫がされていると思います。 先ほど自由度という言葉が出ていましたけれども、私は、毎年ふるさと偉人館で自画像の作品の審査をしています。当初の自分の感覚では、上手に描かれていないと合格させてはいけないのかなと思っていたのですが、あるとき美大の学長さんから「伸び伸びが一番いいのだよ」「僕ならこれを選ぶなあ」と言われたのが自分が一番評価していなかった作品だったのです。 日本文教出版の教科書を見ていると、様々な作品がありますが、どの作品でも、ちゃんと教科書で評価されていると感じられました。子どもたちがこの教科書を見ると、自分もやってみたいなという感覚になるのではないかということを感じていました。 従って私も、日本文教出版の方が子どもにとっては想像力をこれから育てていくときに良い教科書ではないかと思っております。 それでは全員一致ということになりましたので、図画工作については日本文教出版でよろしいでしょうか。
委員一同	異議なし。
野口教育長	ありがとうございました。それでは、図工は日本文教出版の教科書を採択することに決定します。

#### ○種目「社会」

〔社会：説明の概要（選定委員長）〕

社会科は3者である。

東京書籍は項目8に関して、どの学年でも最初に社会科の見方・考え方を表すイラストがあり、学習の進め方についても同じ記載があり、社会科の見方・考え方を活用して深い学びができる。右上に着目点があり、「つかむ」場面で深い学びができる。例えば、「サトウキビやパイナップルづくりは沖縄の気候とどのような関係があるのかな」と記され、「調べる」場面で産業と気候の関わりに着目して

深い学びができる。また、「まとめる」場面で、暖かい土地の暮らしや産業の特色を総合的に考えることができる。見方についてはどの発行者も記されているが、考え方も記されているのは東京書籍だけで、深い学びの授業づくりができる。

教育出版は項目7に関して、本文の内容、挿絵、写真および図等の扱いが児童の発達段階に適しており、書体や文字の大きさ、図版等が適切であることが優れている。6年生の「戦争と人々の暮らし」の学習の問題をつかむ時間では、白黒だった写真をカラー化し、当時の空襲被害の様子や人々の様子について関心を高めることができる。

日本文教出版は項目5に関して、現代的な諸課題への対応や各教科等の関連に配慮が見られる。4年生では、教科書を活用してSDGsについて考えることができるように教科書の使い方が明示されている。また、単元の最後に「未来につなげる～私たちのSDGs～」が記されており、その単元で学んだことを生かしてSDGsについて調べたり考えたりすることができる。SDGsの目標シールを貼るコーナーも設けられており、巻末のシールを貼ることで子どもたちがSDGsへの興味を持つことができるように工夫されている。

その後、質問があった。5年生以上で東京書籍は上下に分かれているが、良い点や不都合な点はあるかという質問があった。良い点としては荷物の軽量化、気になる点としては6年生は「政治」と「国際理解」と「歴史」の巻に分かれており、歴史で学んだことを国際理解で活用するときに少し使いづらい。そういうときには2冊持ってくるという手だてが必要ということだった。

それに対して、そういう場面は他にあるかという質問もあった。例えば5年生の産業学習では、上巻の農業で学んだ見方・考え方を下巻の工業で活用することなどが考えられる。

次に、社会への関わり方を選択・判断する力を育むという観点から3者の違いはどこにあるかという質問に対しては、特に項目2の「まとめる」ことに着目すると、東京書籍は6年生の政治で、ダイヤモンドランキングなど思考ツールを使っているところに特徴がある。教育出版は6年生でフローチャートのような関係図でまとめ、4年生ではすごろくでまとめているということだった。また日本文教出版は話し合い活動を重視してまとめており、ノートの例が示してある。さらに、考えたい問題などが例示されて、意見を交流することができる。3者とも事例が違うが、多様に準備されているということだった。

次に、教育出版はアメリカ・中国・ブラジル・サウジアラビアなどを比較しているが、東京書籍はサウジアラビアがフランスになっている。サウジアラビアの方が比較しやすいと思うという質問があった。その回答として、国際理解は各者おおむね4カ国を取り上げており、東京書籍はアメリカ・中国・ブラジル・フランス、教育出版はアメリカ・中国・ブラジル・サウジアラビア、日本文教出版はアメリカ・中国・ブラジル・韓国で、日本と貿易・産業面で歴史的・文化的に関わりが深い国が選択されているとのことだった。金沢市の姉妹都市については、東京書籍は四つとも姉妹都市がある国が挙げられ、教育出版は三つの国、日本文教出版は四つの国ということだった。

次に、インターネットを使つての調べ活動で各者に差があるかという質問があった。二次元コードを用いた調べ活動では東京書籍が使いやすいということだった。それぞれの学習場面に応じた最適なコンテンツが用意されており、二次元コードの位置がおおむね固定され、どのような内容が見られるのかが明記されているということだった。歴史民俗資料館の方のインタビュー動画もあった。教育出版については、ワークシートや動画、資料などの読み取りやすいさまざまなコンテンツがあり、個に応じた学びができるということだった。目次では二次元コードを使つてどのようなことを読むことができるかが示されていた。日本文教出版はワークシートや動画、スライドショーといったさまざまな種類のコンテンツが用意されているということだった。

その後、選定委員会で意見交流があった。主に意見・感想になるが、社会科の教科書はいろいろな政治や主義・趣向の意見が入ってくるのでなかなか難しいと思うが、各者の工夫もあり、最終的には学校現場において使いやすい教科書が一番だと思うという意見があった。プラスアルファの情報に関しては今はいろいろな部分で、先ほどあったようにインターネットを通じてということになろうかと思うけれども、学ぶことができるという意見があった。

一般の方の意見が特定の分野に集中しがちな教科書なので、全般的なバランスを見ながら判断する必要があり、教えやすい教科書が大事であるという意見があった。

若い教員が非常に多く、学習の進め方に関しては東京書籍は初めのところに前の学年で学んだこと、そして今の学年で学ぶことが詳しく書かれ、見通しが持てるという点では子どもにとっても授業者にとっても良いのではないかという意見があった。

東京書籍は多くの学年で金沢市や石川県が紹介され、興味・関心を持って学ぶことができるという意見もあった。

教科書が重くなっているの、上下に分かれている東京書籍は薄くて軽くて使いやすいのではないかという意見があった。

あとは保護者の方の視点から、今の社会情勢だと領土・領海問題など親世代がもっといろいろな問題を理解しておかないとなかなか難しいので、勉強していく必要があるという感想を頂いた。

以上のような議論を経て、最終的には3者のうち特に評価が高かったのは東京書籍と教育出版ということになった。

[社会：質疑応答]

櫻吉委員

小学校で学んだことが中学校につながっていくことを考えると、ちょっと考え方が古いのかもしれないのですが、社会科は知識を身に付ける教科なのかなというふうに思っています。

3者を読み比べると、文中にある語句の使い方が各者で結構違って、選ぶ言葉も違うなと思いました。正確な言葉を教えるのは結構大変かなと思うのですが、どれを選ばばいいかというのは判断に迷う点が私も幾つかあって、例えば東京書籍の24ページに「聖徳太子」が出ていますけれども、これは聖徳太子だけです。日本文教出版は84ページの欄外に「聖徳太子（厩戸皇子）」と書かれています。教育出版は96ページに「聖徳太子（厩戸王）」と書かれていて、しかも「厩」の「うま」という字も2者で漢字が違うのです。これをどういうふうに考えたらいいのでしょうか。

こういうものは幾つかあって、例えば東京書籍では絵踏みと踏み絵が記載されていましたけれども、日本文教出版は踏み絵、教育出版は絵踏みになっていました。何点かそういうところがあったのが気になりました。

もう一つは太字の部分です。昔は太字の部分をしっかり覚えろと言われた記憶があるのですが、その語句の採用が各者で非常に差があります。例えば東京書籍には「一所懸命」が太字で掲載されていますが、他の二つは出ていませんでした。そういう語句が幾つもありました。

3点目は、東京書籍の68ページ、日本文教出版の130ページ、教育出版の134ページです。フランシスコ・ザビエルが書かれていますのですが、教育出版はザビエルとしか書かれていません。名前の省略が許されるのかどうかというのに疑問を持ちました。語句の選択は別にあまり気にする必要はないのでしょうか。こういう省略もあまり気にすることはないということであれば語句については3者を同じように評価することになると思うのですが、その点を教えてください。

社会調査委員

特に歴史学習においては用語や人名などがたくさん出てきます。子どもたちが歴史を苦手になる一つの要因として多様な語句がたくさん出てくることがあるのですが、小学校では例えば聖徳太子は、正確には厩戸皇子という表記だと思うのですが、学習指導要領には聖徳太子という言葉が示されています。絵踏みと踏み絵という言葉は、行為や物などの表し方でいろいろな使われ方をしているものがあります。

小学校では一つ一つの語句を正確に覚えることも大事なのですが、それらを調べて当時はどんな時代だったのかを考えることを私たちは非常に大切にしてきましたし、調べて考えることが小学校の社会科では大事だと思っています。

ということで、教科書の表記に戻りますと、正確な表記や語句の軽重は発行者によってそれぞればらつきが少しあるかもしれないのですが、指導要領に載せてある当時の時代の特色・特徴を、どの教科書も基本的には調べて考えることができるようになっていないかと思っています。

櫻吉委員

では、大きくこだわる必要はないということですね。

社会調査委員

小学校の段階ではまだ大丈夫ではないかと考えています。

田邊委員

3者を見比べた場合、東京書籍は分冊になっているところが特徴だと思うの

ですが、ページ数が3・4年生も非常に少ないのです。少ないということは中身も精選されている印象を持ちますけれども、少ないことの良さもあるでしょうし、逆にハンディもあると思うのです。そのあたりはいかがでしょうか。

社会調査委員

ページ数は調査委員会の方で特に議論にはなっていなかったのですが、要因の一つとしては選択事例の取り上げ方もあると思っています。例えば4年生で、自然災害から人々を守る活動が選択事例としてありますが、目次を見ていただくと分かるのですが、選択の事例によって、「自然災害に備えるまちづくり」というところでは日本文教出版は三つの事例が載っていますし、教育出版も同じく三つになっていますが、東京書籍は事例が一つになっています。ということで、幾つかの選択事例の数が少し違うのかなと思います。ただし、メインで扱う教材については大きな差はないと調査委員会では考えていました。

田邊委員

選択事例は取り上げる時間もあるでしょうし、そうでない場合もあるということで、選択教材を手厚く取り扱っているからページ数が幾分割増であるということですね。分かりました。

大島委員

今の田邊委員の質問に関連するのですが、この3者を比べたときに形状が全く違っていて、東京書籍の5年生が上下になっていたり、6年生が政治・歴史等に分かれています。まず現行の教科書と全く同じような形になっているのかということと、もう一つはそれを使うことによるメリットとデメリットとして現状出ている意見などについて聞かせていただければと思います。

社会調査委員

東京書籍の5・6年生は上下分冊になっていると思うのですが、現行もそのような形になっています。メリットとしましては、先ほど選定委員長がおっしゃられたように軽量化が挙げられます。特にタブレットも入ってきているので、軽量化していくことは一つメリットかなと思います。デメリットとしては、特に見方・考え方を扱う場合、全単元または幾つかの単元で培った見方・考え方が次の単元でどう使われるかということも大事なのではないかとこのことを調査委員会で話していました。

ただ、選定委員長が先ほど示された5年生の産業学習などは、上に第一次産業の農業と水産業があります。人々の工夫や自然状況等の関わりについての見方・考え方は、次の第二次産業である工業にも当然活用されることではあるのですが、分冊になるとちょっと意識が弱くなるのではないかとこのことは調査委員会でも話し合われました。

ただ、6年生は今は政治学習を先にしますので、政治学習で学んだことが歴史で生かされたり、歴史学習で生かしたものを政治学習でもう一回振り返ったりというふうに、知識の往復をすることで定着にもつながるのではないかとこの見方もあるのですが、そこは少し弱くなるかもしれないということは意見としてありました。

松原選定委員長

繰り返しになりますけれども、選定委員会では重さが非常に議論になりました。他の種目の場合もそうですが、先生方が見ている子どもが最近かなり重い物を持っていて、教科書や1人1台学習用端末もあるので重さをだいたい気にされている選定委員の方もおり、軽い方がいいのではないかとこの意見がありました。

丸山委員

教科書の見やすさという点ではどういう話になったのかということをお話してください。特に日本文教出版は、4年生以上になると文章中にピンク色で薄く色掛けしてあるところがあり、これは違和感を感じたのですが、このあたりはどうなのかという見やすさの点と、日本文教出版はSDGsのシールが入っていますが、実際に授業で使用する可能性はあるのかということをお話してください。



社会調査委員

見やすさについては幾つか視点があると思います。一つは、資料の見やすさという点ですが、どの教科書も見開きや写真資料などが工夫されていて見やすいと思いました。フォントについては、教育出版がやや太字になっていますが、大きさとしてはあまり変わらないと思いました。フォントは教育出版が見やすいのかなと思います。

また、今ほどご指摘があった色が掛かっているところは多分、本文とは違うこととして色が変わっているのかなと思っているので、それも子どもたちにとっては見やすさの一つの工夫なのかなと思います。例えば、日本文教出版がオレンジ色の表記になっているのは、調べて分かったことがそこに書いてあるのです。そうした形で本文とは少し違う形で載せていることを強調しているのではないかと考えています。

シールに関してはあくまでも興味付けとして使うものであると思うので、使う先生は使うだろうと思います。頻度となると、授業時間にもよりますが、子どもたちがこれを使ってみたいというふうにして継続的に使わせるということであれば、子どもたちが自分で貼っていくという使い方もできるのではないかと考えています。授業者がどんなふうにして使っていくかということに大きく関わる部分ではあると思いますし、授業者が選択・判断して使っていく形になるのではないかと考えています。

野口教育長

私から1点だけよろしいですか。これまでの小学校と中学校の教科書採択のときも、この段階、つまり採択の段階ですから教科書に間違いがあったら採用してはいけないのではないかとすることを基準にして進めてきました。

自分の中で納得いかないのが、日本文教出版の6年生の歴史です。私と指導課長でも調べてみたのですが、はっきり分からないのでお伺いしたいのですが、6年生の85ページの上の方に「法隆寺を造っている様子（想像図）」とあります。この想像図なのですが、造ってはいるのですけれども、上の方から組み上がっています。下の方はまだ出来上がっていません。今の建築物でもこういう工法はあるのでしょうか。普通は下から組み上げていくのが通常ではないかと思っているのですが、調査委員長、いかがですか。

社会調査委員

私も勉強不足で、上から造っていったのか、下から造っていったのかというのは自分でも分からないところはあるのですが、奈良の大仏は、想像図が東京書籍の方に載っていると思います。木造建築ではないのでまた違うのですが、あくまでも想像図として作られていますので、ぜひ自分も調べてみたいと思います。

野口教育長

歴史的に調べてみたら積み上げ構造という言葉が確か書いてあったので、恐らく法隆寺も下から積み上げていったのではないかと考えております。想像図であっても誤解を招くような記載がある場合は留意しなければいけないと思っていたものですから、お伺いしてみました。一つのヒントになりました。ありがとうございます。

田邊委員

確認のためにも教えていただきたいのですが、説明の中で、東京書籍の場合は児童の思考に沿って主体的に学習できるように導入が工夫されているということでした。他の発行者にはない特徴だと思うのですが、具体的にどこがそうなのかということをお教えください。

社会調査委員

まず学年で見たときに、調べ方や学習の進め方はどの教科書でも最初のページに示されています。その中で見方・考え方が示されていますが、1点目としてはここに考え方が書かれていて、「比べる」「分類する」「想像する」「関連付ける」といったような考え方を明示してあるのは東京書籍だけでした。その他の「位置」や「広がり」「時間」「かかわり」などの見方に関することはどの教

科書にも載っていますが、考え方に触れているのは東京書籍だけだと思っています。

単元の方に入って、まとめのところになります。これは教育出版もそうなのですが、本文の中に出てくる言葉を使ってまとめていけるように例示がまとめられています。このように手掛かりをしっかりと示し、学習した大事な言葉を手掛かりに考えることができるようにされている点も一つの特徴だと考えています。

野口教育長

これで質問の時間を終わりたいと思いますので、一度ご退席いただけますでしょうか。委員の皆さまからご質問がありましたら再度入っていただきますので、お願いしたいと思います。

(選定委員、調査委員 退室)

[社会：審議]

野口教育長

先ほどと同じように、3者です。ご自由にご発言いただければと思います。ちなみに選定委員会からは東京書籍と教育出版ということでした。

櫻吉委員

東京書籍の教科書を見ると、4年生で金沢市の水道について取り上げられています。非常に身近なものからイメージして興味を持って学習に取り組まれる点で、東京書籍の題材は中学年では非常にいいかなと思いました。

高学年を見ると、例えば5年生で、災害の部分を見たときに、日本文教出版の242ページを見ると自然災害について写真が出ています。他の所にも少しずつ出ているのですが、やはりこうした学習を通して災害に対する意識というか、危険を身に染みて思っているとそこから命を守る行動につながるのではないかと、そのための学習なのではないかと思うと、ビジュアルでこういうものがあるのだなということを知っていることが非常に大切かなと思うので、その点では日本文教出版の写真の選び方はいいかなと思いました。

知識を広げたり、得意な子の能力を伸ばすためには、コラムなど発展的な内容が書いてある部分が充実しているといいかなと思うのですが、東京書籍は「ひろげる」、日本文教出版は「未来につなげる」という、全学年においてSDGsを非常に意識した一貫性のあるものが多くありました。教育出版は「もっと知りたい」という非常に充実した見応えのある記事が多いように思いました。

一つ思ったのは、日本文教出版は磯田道史先生からの手紙ということで、災害と感染症についての大きなコラムがありましたけれども、歴史というのは結局繰り返すもので、過去を知ることで今を理解して未来を考える教科だと思えるのです。そうすると、災害や感染、例えば戦争がなぜ駄目なのかというのは、歴史を学ぶことで子どもたちが理解して、そういうことを防ぐというか、命を守ることに繋がる教科なのではないかと思うのです。これが、なぜ歴史を学ぶ必要があるかというふうに問われたときの答えなのではないかと思うのですが、そういう点ではコラムが結構充実しているのですが、調査研究報告書には表れていないのですが日本文教出版が高学年ではいいかなと思いました。中学年・低学年は東京書籍がいいし、高学年は日本文教出版がいいなというのが私の結論です。

野口教育長

先ほど選定委員長も言いましたが、トータルで選ばなければいけないので、その点でまたお考えいただければと思います。

丸山委員

東京書籍の学習の流れで、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」「ひろげる」というのがありますが、その展開が分かりやすく、はっきりしていて、今何をしているかということも学習者も分かるのではないかと思います。

教育出版も一応その流れはあるのですが、見出しのような形になっていて、どこが調べる部分なのか、まとめる部分なのか、つなげる部分なのかが分かりにくい部分もあって、そういった点では東京書籍の学習の流れがはっきりしていていいと思いました。

野口教育長

いわゆる金沢型学習スタイルを意識したときに、東京書籍の学びがいいのではないかということですね。

長澤委員

前回の櫻吉委員のご指摘の中で、車いすの子たちが描かれているかどうかというのが私にとってはとても印象的で、それからは教科書を見ると必ずそこを見るようになったのですが、教育出版はそのあたりを非常に意識的に織り込んでいるという印象を持ちました。6年生の12ページで大きく、山崎選手のお話を展開しているところがありました。

一方、東京書籍に関してはあまり積極的には載せていなかったと思います。6年生の政治・国際編の91ページで、東京パラリンピックの車いすテニスの試合が掲載されているぐらいで、特別なものというふうに捉えられてしまったら残念だなと思います。

一方で、東京書籍は子どもたちが分かりやすく社会を学ぶナビゲーションがよくできているという印象を持っています。6年生の政治・国際編の4～5ページは、最初に選定委員長からのご指摘がありましたが、5年生で学んだことが左のページ、6年生で学ぶことが右のページにあって、全体的に鳥瞰できるようになっているので、たくさんの情報が入ってくる時に、子どもたちが情報の波に飲み込まれずに、自分が今どこにいて、何をしようとしているのかということが分かるのがとてもいいなと思いました。

そういった意味では、日本文教出版はとても充実したテキストではあるのですが、教科書という形で、自分が今どこで何を学んでいるのか、何をしようとしているのかというナビゲーションがちょっと薄いかなという印象を持ちました。

最後に、東京書籍と教育出版との比較の中で注目していたのが戦争に関する項目になります。東京書籍は戦争に関して、歴史編で128ページから展開しています。教育出版は6年生で204ページ以降にあります。どちらの書籍も丁寧に戦争関係のものを記載していますが、最後のまとめのところで、東京書籍の方が優れているかなというのが私の印象です。

東京書籍は140ページに「まとめる」のページがあり、教育出版は218ページに「まとめる」のページがあります。どちらもキーワードや視点を色で囲って、子どもたちがいろいろな視点から考えられるようにできてはいるのですが、東京書籍ではカードが広げられていて、それがいろいろな視点と結び付いていて、最終的に真ん中のところに、自分は何を感じたかということを集約できるようになっています。

歴史はかつては知識重視だったのですが、今お話がありましたように、過去の出来事に関してそのときの人間の考え方や行動を調べ、学び、そして歴史は繰り返されるのでこれからの人生にどのように活かしていったらいいのかという気付きを得ていくのが社会科の目的の一つと考えるならば、東京書籍の「まとめる」というのを活用して子どもたちに学びを深めていてもらいたいなと思いました。

木村委員

私も3者を見て、まず東京書籍の4年生の「金沢市の水道について」というのは、子どもたちは身近に感じると思いますし、水源にまでさかのぼっているのを読むと、毎日使っているものにいろいろ思いを浮かべるのではないかとこのように思いました。それと、政治・国際のところ、6年生の92ページの「まとめる」には、問題の下に「アドバイス」という言葉が書いてあって、これを使ってまとめようというアドバイスが子どもたちにとっては非常に助かるのではないかと思いました。

教育出版は各ページの隅に「つかむ」「調べる」「まとめる」というのがあって、このページは「つかむ」ページとか、このページは「まとめる」ページというふうに、それに関しては分かりやすいのではないかと思います。自分が使ったことがないので分からないのですが、「調べる」「つかむ」などが色別になっているので、これが教育出版の特徴というか、他者にはない特徴ではないかと思いました。それと、「学びの手引き」が6年生の129ページにあったのですが、これも考えるポイントとして、「学びの手引き」でそれぞれ意見交換をするとか、みんなで考えるのは金沢型学習スタイルにつながっていくと思いました。

日本文教出版は伝統と文化の紹介が非常に丁寧だとは思いましたがけれども、やはり東京書籍が教育出版がいいのではないかと思います。

大島委員

先ほど選定委員長からもあったように、最後は現場が教えやすい教科書が一番いいということを考えたときに、金沢型学習スタイルに基づいて考えると東京書籍が教育出版かなと思いました。

その2者の中で東京書籍の特徴としては、見方・考え方が明確に示されています。こういう考え方をしっかり押さえることによって、子どもたちが自ら主体的に考えて行動できるようになるのではないかと思います。先ほど特徴の中で軽量化という話も出ていましたし、特に現行からの大きな課題はなかったのではないかという感じもしましたので、私としては東京書籍がいいのではないかと思います。

田邊委員

3者の比較になりますけれども、さまざまご指摘がありましたように、一番大事だと思うのは、子どもの思考に沿って進めていくことであり、小学生にとって社会科はいろいろな情報が満載の教科でもありますので、何をどういうふうに変換して考えを進めていけばいいのかというのが非常に大事な教科の一つだと思います。その点を加味して、子どもたちがどういうふうに変換を進めていくのだろうということを想定しつつ組み立てられていることが一番大事なのではないかと思います。

といっても、いろいろな情報を整理していくために、子どもたち同士で話し合いを進めていったりすることも一方で組み込まれておりますので、どんなふうに変換して自分たちの考えに沿うようなまとめ方をしていけばいいのだろうかということについて3者それぞれ工夫されておりますけれども、特に東京書籍の場合、例えばプレゼンテーションの資料をどうやって作るのかということに関して、5年生の106ページにヒントが丁寧に書かれています。

端末を使ったりしていろいろ調べていくことになると思うのですが、課題についてどんなふうに変換してまとめていけばいいのかということに関するヒントといえますか、学び方のポイントが提示されていたり、さらにまとめ方として5年生の下62ページにフローチャートを使ってまとめていこうという提案があります。こういう手法もありますよと提示したりして、みんなで話し合いながらどのように情報を整理してまとめていっていいのだろうか、それを説明できるようにするにはどんな手法が効果的なのだろうかという、社会科の学習もそういう広がり方をしているのだなということを改めて考えさせられました。

そういうことを多分にヒントとして提示しながら推奨しているつくりは、他の2者にはあまり強調されていなかったところですので、その点からも東京書籍がいいと思います。ページ数が少ないのはちょっと気になっていましたが、学習内容に影響がないのだということを聞いて安心できます。分量的にも精選しながら組み立てられている良さも一方にあるということを考えれば、東京書籍を選択するのがよいのではないかと思います。

野口教育長

6名の教育委員の皆さまのご意見を伺いました。櫻吉委員は表明はまだで

すけれども、大体東京書籍の方に傾いてきたのかなと思います。

櫻吉委員

私も東京書籍でいいと思います。

野口教育長

ありがとうございます。3者を比べると、やはり1時間の学びの充実を考え、さらに金沢型学習スタイルとどう合っているのかと考えたときに、やはり東京書籍の教科書は分かりやすいというのがあります。

それから一番よく見たのが、どの学年もまとめ方です。学習のまとめ方と、最後の6年生のゴールがどうなっているかというのを見ていたのですが、そういう点では東京書籍は中学校の学びを意識しながら小学校の学びをつくり上げてきているということが非常に分かりやすいです。端的なのが先ほど出たまとめ方です。小学校や中学校の学習指導要領の中に、多面的・多角的なものの見方・考え方があって、まとめを一つの手法ではなくて様々な手法で、どの子にも分かりやすく「こうやったらいいよ」というふうに出ている点で、東京書籍は手堅くまとまっているなと思いました。

金沢の水道のことが紹介されているのも大きいと思います。子どもたちにとっては金沢がこうやって全国に注目されて大事にされていることが分かるということも思いました。

それから、細かいなと思ったのが、東京書籍の6年生の17ページなのです。日本国憲法の国民の権利と義務について出ているのですが、他の教科書も同じように出ているのですけれども、東京書籍だけ第何条にそこが触れられているかということがしっかりと示されているのです。憲法や法律は中学校でも学びますけれども、何条にこれが出てくるかということもこうやって細かく書いていただくとてもうれしいと思いました。

歴史に戻りますけれども、例えば『解体新書』は杉田玄白と前野良沢が書いたと昔からいわれていますけれども、決して彼らだけの力で成り立っているわけではなくて、いわゆる穢多・非人といわれた方々が、亡くなった人を葬る際に大切な仕事をしたことによって成り立っているのだということも細かく示しているのが東京書籍と日本文教出版でした。

ただし日本文教出版は、先ほど質問で触れましたけれども、それでいいのかなという記載もありましたので、トータル的に見ると自分は東京書籍がいいのではないかと思います。3年から6年までをトータルで子どもたちにどう学んでもらうかということがとても大事だと思いますので、私は東京書籍でいいのではないかと考えております。

ということで、東京書籍でよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

野口教育長

それでは、社会は東京書籍に決定させていただきます。

#### ○種目「地図」

[地図：説明の概要（選定委員長）]

地図は2者である。

東京書籍は項目2に関して、73ページで統計資料1の「おもな工業地帯の工業生産」のグラフ資料と関連した資料地図が豊富に提示されている。生産額の大きな地域の資料地図、日本の工業の分布、さらには自動車工場や製鉄所の分布を確認できる。これらの資料を併せて、海岸沿いに大きな工業地帯が自動車工場や製鉄所の分布と重なることが分かる。また、主な高速道路や空港、港の地図が載っており、交通網の広がりや輸送も地図上で確認できる。このように複数の資料を比較関連させて学習を深め、問題解決ができる。項目6に関しては、4ページにわたって世界史的な視点で日本の歴史を捉えるページが特設されている。わが国の歴史を学ぶ際に同時代の世界の様子を地図とともに捉えることができ、主体的に学びが深められる。世界史的視点を盛り込んだ歴史地図となっており、中学・高校の学習にもつなげることができる。

帝国書院は項目1に関して、学習指導要領の特に3年生の使い始めにおいては、「地図上の内容構成

を理解できるようにする」という学習指導要領の内容に対応して、3年生の学習ページとして地図の成り立ちや方位、地図記号など、地図の基本、「地図のやくそく」が写真やイラストを用いて解説されている。スモールステップで絵地図から地図の世界をつなげてあり、発達段階に応じた学習ができる。地図帳の使い方も丁寧に扱われ、どの学年の児童が見ても地図を使う基礎・基本が身に付けられます。項目5に関しては、自然災害を知り、主体的に防災意識を高められるように、日本の自然災害を地図上に位置付け、世界の地震の分布が示してある。自然災害の備えや取り組みを示し、防災マップの具体的な作り方を掲載し、自分の身を守るために何ができるか、防災を自分ごととして考えることができる。

その後、「社会科以外の教科に関わってくる内容はどうなっているか」という質問があった。国名に関しては両者とも英語記載がされていること、東京書籍の「日本の食文化」では、郷土料理のページで家庭科と関連があり、帝国書院にも同じようなページがあるという回答だった。

「色合いや文字などは子どもにとってどちらが見やすいのか」という質問に対しては、「金沢市はずっと帝国書院の地図を使っており、色合い的には帝国書院の少し淡い色のものが個人的には見やすい」ということだった。それから、「東京書籍は色合いが非常に鮮明で、それが見やすいお子さんもいれば、バックの色が濃く、その上の文字が少し読み取りにくい子もいるのではないかと思った」ということだった。また両者とも初めの方のページに世界地図があるが、東京書籍は全ての国の色を変えて国名が記載されている。一方、帝国書院は国ごとに色は変えてあるけれども、国名は全ての国を記載しているわけではなく、情報量を抑えることで地図上の使い始めの3年生でも使いやすくなっている。最後のページには帝国書院にも詳しい世界地図はあるとのことだった。

また、「東京書籍は北陸三県の扱いがあるが、帝国書院はページの区切りのところに北陸三県がちょっとかかっている」という質問があった。帝国書院は初めの方に3年生向けに広く見渡す地図があり、情報量は3年生でも使えるように減らしてあるが、例えば空港が幾つあるとか、北陸新幹線はここを通っているとか、社会科で大切なことがこの地図でも確認でき、細かい地図と併せて東京書籍と変わらない学習はできるということだった。

「高低差が色分けによって意識しやすい、使いやすいのはどちらか」という質問に対しては、両者各ページに土地の高さの表記があり、色の濃淡はあるけれども、どちらでも土地の高低はつかむことが可能ということだった。

それから、「地図とGoogleマップのようなものとの併用はあるのか」という質問があった。社会科ではGoogleマップを提示することが多いということと、帝国書院は二次元コードで地図帳の地図と都道府県ごとに地形や土地利用などテーマを絞った地図が各種用意されている。多様な活用を意図的に選択し、調べることができる。例えば石川県を見ると、地図帳と同じ地図が出て、その下に高低差があり、市町村にすると全ての市町村名が出て、充実している。東京書籍の方は、各県の地図は用意されていないが、都道府県ごとの白地図が用意されて、学習テーマに沿った活用はできる。

金沢市と関連する記述がどれだけあるかということについては、帝国書院には加賀藩の参勤交代が何日かかってどこまで行ったか、どんなルートを歩いたかが示されている。それ以外はどちらの者も金沢に関係するものは見つからないのだが、統計資料では、帝国書院は主な伝統工芸として金沢の加賀友禅、東京書籍は加賀友禅と金沢仏壇、金沢箔の記載がある。

その後の審議は、ほぼ感想になるが、これまでの教員は帝国書院を使っていて、使いやすさ、見やすさがあるので、情報量が多くて地図そのものも良い帝国書院の方が良いというご意見があった。

帝国書院では「地図マスターへの道」という枠が下の方にあり、東京書籍では「マップでジャンプ」というのがあるが、一人で地図帳に親しむのに有効であり、帝国書院の方が地図の知識が身に付く項目が少し多いように感じたという委員の感想があった。

「帝国書院で、3年生の最初に使うシンプルな地図は導入で非常にいいのではないかと。最近ではネットの情報が多過ぎて、かえって何が大事なかが分からないので、導入のシンプルな地図は良いのではないかと」という意見もあった。

#### [地図：質疑応答]

櫻吉委員

1点目に、ボリュームがかなり違いますよね。東京書籍は102ページ、帝国書院は132ページで、当然厚みも違います。これは必要最低限のものでいいのか、やはりたくさんの情報が入っている方がいいのか。もう一つは、社会の教科書との相性です。例えば東京書籍の地図と他者の教科書の相性や、帝国書院の教科書はないにしても、そういう相性のようなものは考える必要はありますか。

松原選定委員長

ページ数に関しては、帝国書院の方は2～3年生あたりで簡単な地図が入っているのが結構大きいかなというご意見もありました。

地図調査委員

今ほど選定委員長がおっしゃいましたとおり、帝国書院の方がボリュームが多いです。3年生向けに「広く見わたす地図」を用意してあること、そして最初に地図の説明をかなり丁寧に付けていることでこのような形になったのではないかと思います。厚ければいい、薄ければいいというものでもないとおもっております。

社会の教科書との相性については、これまでも地図帳と社会科の教科書は異なる教科書会社を採用していたと思います。使っていて何か不都合があるということもなかったため、社会科の教科書は教科書、地図帳は地図帳という見方をすればよろしいかと思います。

野口教育長

選定委員長からも詳しく説明がありましたので、その他にご質問はありませんでしょうか。それでは、うなずいている方が多くいらっしゃいますので、ありがとうございます。一度ご退席ください。

(選定委員、調査委員 退室)

[地図：審議]

野口教育長

2者しかありませんので、率直なご意見を頂ければと思います。いかがでしょうか。

櫻吉委員

先ほどもご説明がありましたように、帝国書院の方が低学年の導入が非常に丁寧で、4年間使えて、マクロからミクロに行って、場合によってはマクロに戻るような使い方ができることを考えると帝国書院がいいと思います。

長澤委員

私も帝国書院がいいと思います。「楽しく学ぶ」と書いてあるのですが、地図というものに最初に触れて楽しく見ていけるように、単なる情報が詰まっているのではなく、ここからいろいろなものを楽しみ取っていけるのだということをしつづつ教えてくれるものとして、とても魅力的な素材だと思います。

あと、いいなと思ったのは、「日本の自然災害と防災」というページが99～102ページに展開されています。さまざまな災害がとても多く起きることがよく分かりますし、それに向けてどうしていけばいいのかという課題解決にもつながっています。それがとても見やすく分かりやすい地図とともに示されていて、まさに楽しく学べるなどと思います。

丸山委員

私も帝国書院の方がいいと思います。やはり発達段階に応じて学習できるように配慮されていますし、最初からたくさんの中身が入った地図だとやはり抵抗がある児童もいると思いますので、最初の3年生の段階では易しい地図から入って、そこに親しんで発達段階に応じて内容の濃い地図に移行していく形がいいと思います。

木村委員

私も両方を拝見して、やはり帝国書院の方が優れていると思いました。地図帳の使い方が大変詳しく書いてありますし、長澤委員もおっしゃいましたが、自然災害について地図上に位置付けて防災について考えるように工夫されているのは、やはり災害の多い日本にとって非常に参考になると思います。それと、歴史との関連を図るページがあって、参勤交代などが載っているのも学びを深める面ではいいのではないかと思いますので、帝国書院の方がいいと思います。それと、実際に使っている先生方の評価も帝国書院の方がいいというご意見が多いので、帝国書院の方がいいと私は思いま

す。

大島委員

私もほぼ皆さんのご意見と同じで、帝国書院がいいと思います。

田邊委員

東京書籍の帝国書院にない良さも一方であると思っています。というのは、歴史的な世界地図の変移が示されている点は非常に良かったのではないかと思います。ただ、それを使うのかとなると、歴史の学習の中でどの程度生かせるのかという別個のことでもあるので、それが大事だということではないと思うのですが、地図では今の姿が描かれますが、どういうふうに変化してきたのかという観点を持てると、歴史の流れ、時代の流れが読み取れるということも期待したいなと思っています。

また、総じて色刷りについては帝国書院の方が見やすい気がしますし、多分これまで使い慣れてこられた先生方にとってはより一層そうかなという気がします。

それから、ページ数が多いのはいろいろな事柄を盛り込まれているからで、例えばアメリカ合衆国を特別に2ページにわたって記載しています。アメリカとのつながりは子どもたちも関心があると思うし、情報量も多いと思うので、そんなところを意識されているのだろうし、いろいろな世界の国について、世界の子どもたちの様子がそれぞれの大陸を紹介するところで取り上げられていたり、SDGsがどうなのかといった豆知識というのか、そんなことも触れています。

一方で東京書籍も、世界にはいろいろな料理があるという紹介などがあって、料理は関係ないのではないかなと思わないでもないのですが、そのようにそれぞれ工夫はされていますが、総じて帝国書院の方が使いやすいのではないかな、導入についての工夫も踏まえながら地図への親しみを促す点ではいいのではないかなと思っています。

野口教育長

6人の教育委員全員が帝国書院ということで、私も全く異存はございません。恐らく4年間、子どもたちはこの地図だったら楽しいだろうなと思います。いろいろなページにある「地図マスターへの道」は、挑戦してみたいくなりますよね。自分でも幾つかやってみましたが、面白かったです。6年生になっても歴史との関連が随分あるので、今の地図と昔の地図を見比べながら、例えば帝国書院の69ページを見ると、昔の江戸の地図が入っていて、その前のページには現代の東京の地図が載っていて、随分変わったのだなということも分かってくれると思うし、東大の赤門などもきちんと示してくれています。7ページからスタートする「地図の世界へようこそ」も本当に充実しているのではないかなと思います。

最後の索引を見ても、帝国書院は115ページ、東京書籍は87ページなのですが、索引の見方が丁寧にまとめられていて、これさえあればいろいろと見てすぐに分かるのだろうと思いますので、帝国書院でいいかなと思います。残念ながら両者とも、市はいいのですが「町」は「ちょう」という読み方をするとところもあるので、「ちょう」か「まち」かの表示があったらうれしいと思いました。地図は帝国書院でよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

野口教育長

それでは、地図は帝国書院に決定したいと思います。

○種目「理科」

[理科：説明の概要（選定委員長）]

理科は5者である。

東京書籍は項目8に関して、児童の主体的な問題解決学習を実現できる構成で、学習の流れが見える化され、見通しを持って学習ができる。項目6に関しては、6年生の導入の写真が見開きで、課題



が見つけれやすい工夫がされていて、「思い出そう」で前の学年や他教科との関連を示し、既習事項が分かるようになっている。項目3に関しては、4年生の教科書の「広げよう！ 理科の発想」では広げた事象を紹介し、興味を持って自発的に調べ、説明したくなるような工夫がされている。

大日本図書は項目3に関して、児童の興味・関心を生かした発展的な学習の扱いが充実している。6年生の「深めよう」では、他の実験方法が手順とともに示され、自発的に調べ説明したくなるような工夫がされている。項目4については、例えば5年生の「理科のたまてばこ」に「伝統」というアイコンがあり、学習内容と伝統文化を関係づけて考えられるようになっている。

学校図書は項目5に関して、現代的な諸課題への対応として、5年生で災害に関する内容が別項目で設定され、「もっと知りたい」では災害への対処など防災教育が充実している。項目7に関しては、3年生では字や挿絵がはっきりした色合いで見やすく、実験手順を写真と対応させて確認し、実験を正確に行える工夫がされている。

教育出版は項目2に関して、6年生の「結果から考えよう」で、常に予想に立ち返る視点を持って考察し、思考力・判断力・表現力などが育まれるようになっている。項目5に関しては、5年生の現代的な諸課題への対応として、災害に関する内容が別項目で設定され、自然災害の資料が多く掲載され、災害の幅広い備えについて学習ができる。

啓林館は項目1に関して、基礎・基本の定着、学習内容を確実に身に付けられるような記述が充実している。6年生の単元末の演習問題で確実に定着できるようにして、用語入りの手書き風のまとめノートの良い点がある。項目6に関しては、4年生で学習のつながりが意識されており、例えば前年の振り返りや既習内容が分かるようになっている。

次に、金沢のプログラミング教育について質問があり、事務局から答えていただいた。その回答を踏まえて、「プログラミングに関して使いやすい教科書はどの教科書か」という質問があった。回答としては、プログラミングの目的意識という点では、東京書籍、啓林館、学校図書が優れているということだった。「どの教科書もセンサーブロックを使っていたが、東京書籍や啓林館では課題設定が、電気を効率的に使うための工夫や電気を無駄なく使うプログラムを作るといった目的を大切にしている。他者は体験してみようという感じが強い」ということだった。

「項目5に関して、現代的な諸課題は、災害や防災教育の視点で評価しているが、環境教育や生物多様性の視点ではどうか」という質問があった。学校図書と教育出版は自然災害などに着目して、「流れる水の働き」ではなく別項目として扱っていたのが際立っていた。日常生活や現在の諸課題はどの発行者もたくさん見受けられた。

また、同じく項目5で、「理科の内容を職業としての関連やSTEAM教育の観点で評価したか」ということについては、例えば学校図書は「仕事とくらし」で、地震と建築士の仕事であるとか、「人や他の動物の体」について獣医の仕事などを通して具体的に示しているところが多かった。どの教科書でも、仕事や暮らしという形で示されているということだった。

教科書の大きさについて、東京書籍と大日本図書の2者のサイズが大きいという質問に対しては、「実験するときは教科書を閉じて机の中に入れるので関係ない。大きい場合は実験手順が縦に示されて見やすく説明しやすい」ということだった。

また、項目9の金沢型学習スタイルで、大日本図書の優れている点について質問があった。回答としては、「『考えよう』のところで、結果から分かることを文やグラフを基にして話し合う様子がたくさん掲載されていて、協働的な学びという点でクローズアップされていた」ということだった。

次に、「あまり理科が得意でない先生にとって使いやすい教科書は」という質問については、「教育出版は『結果から考えよう』で常に予想に立ち返って視点を持って考察したり、思考力・判断力・表現力等が育まれるようにしてある点では、理科の専科の先生でなくても問題解決の過程が分かりやすい」という回答だった。

その後、審議に入った。意見や感想として、「現代的な諸課題は災害だけではなく、環境問題や生物多様性も加えた方がよいのではないか」ということで、例えば東京書籍には宇宙飛行士の山崎直子さんの「SDGsの目標をみんなで共有し、力を合わせれば地球の課題を解決できる」というメッセージがあるのだが、そういうものであったり、学校図書には課題を見つけて持続可能な社会の実現に向けてどのような取組がされているかが入っているおり、その内容や評価の高さが伝わるよう、文言を修正し、そういうご意見があったということを反映させていただいた。

プログラミングに関しては、啓林館と教育出版は6ページぐらいプログラミングの要素が入っていて良いというご意見や、学校図書は、日常生活の文脈があってプログラムに入っていけるという点では良いというご意見があった。

以上の議論を経て、最終的には5者の中で特に評価が高かったのは、東京書籍、大日本図書、教育

出版である。

[理科：審議]  
櫻吉委員

「問題」「予想」「実験」「考察」という展開の仕方が各者ほとんど同じで、その優劣はないように思ったのですが、理科は結局問題をいかに解決するかということ学ぶ教科なのだと思います。その中で実験が一番重要になってくると思ったときに、学校訪問で見ていると、先生方は教科書よりも実際に先生がやるのを注目させている授業が多かったように思うのです。そういう中で、実験と教科書の使いどころというか、使いやすさのような優劣はありますか。

理科調査委員

おっしゃるとおり、理科の場合、各者とも「問題」「予想」「実験」「結果」、そして「考察」「まとめ」という問題解決の過程で大体構成されています。それでも、「実験」「観察」という部分では、どの発行者も工夫はされているのですが、例えば6年生の「動物の体の働き」という単元では、唾液がでんぷんを変化させる実験があります。安全面だけでなく安心面でいうと、東京書籍と啓林館だけは唾液を容器に入れるのではなくて、綿棒を口にくわえるといった、唾液を含ませる配慮をしていて、児童が安心して実験できるスマートな方法を提示していたのが印象的でした。

さらに東京書籍は、漫画と写真を提示してストーリーを考えながら問題を自分で発見していくような、金沢型学習スタイルの「つかむ」「考える」「まとめる」という3段階に一番近く、若い先生も扱いやすいのではないかと思います。話し合いが調査委員ではありました。

長澤委員

項目4の「伝統と文化を尊重する態度、道徳性などを養うための内容や話題。題材の充実が図られていること」に関連して、それぞれの発行者についてもう少しご説明いただけますか。

理科調査委員

道徳性に関しては、理科では命のことを扱うところがあるので、そこで比べてみたところ、大日本図書では5年生の166ページ、「理科のたまてばこ」では、おなかの中で子どもを育てること、母親の胎児に対する実感の話などがあり、これはとても適切に扱っていると感じました。他にも、東京書籍では5年生の123ページ、「こんなところにも！理科の世界たんけん部」では、「元気な産声を聞いて安心します」という産婦人科医師の話があり、良いという話が調査委員会ではありました。

長澤委員

報告書では、どの発行者も暮らしとの関わりに触れられているのですが、これに関して、暮らしとのつながりについて特筆すべきところがあれば教えてください。

理科調査委員

先ほどのSTEAM教育にも関連してくるのですが、例えば東京書籍4年生の49ページ、「こんなところにも！理科の世界たんけん探検部」では、電気でモーターを回して走る電気自動車について、ガソリン自動車と比較して期待されている今日的なことが紹介されています。それから大日本図書では4年生の39ページ、「理科のたまてばこ」で、青色に光る発光ダイオードの発明、ノーベル物理学賞についても紹介されており、生活との関連がよく示されていると感じました。

田邊委員

理科の場合、観察や実験の進め方に関しては各発行者に共通しているというご説明があったのですが、中でも教育出版は「結果から考えよう」という他者にはないものが盛り込まれています。この良さというのでしょうか。これがあるのとないのとでは、観察にしても実験にしても取り扱い方にとっても大きな違いがあるのでしょうか。そのあたりのことをもう少し説明していた

だけたらと思います。

理科調査委員

教育出版は「結果から考えよう」で、常に予想に立ち返り視点を持って考察する、授業者と子どもが課題意識を共有してしっかりと思考力・判断力・表現力等が育むように工夫されていると思います。専科の教員だけでなく、理科がそんなに得意でない先生も学習の流れを意識しやすくなっていると思います。6年生の34ページの「人や他の動物の体」では、吹き出しなどを入れることによって、特にそういう意識をしっかりと持たせているなという話が調査委員会ではありました。

田邊委員

こうした予想を立てたものを踏まえて実験などをした成果が、それぞれ感想として吹き出しで書いてあるのはとても意味があるというふうに理解してもよろしいのでしょうか。

理科調査委員

やはり「対話的な」ということで、グループ学習、ペア学習などでしっかりと問題を共有して、やりとりしながら問題解決していくことが理科においてはとても大切なところだと思います。

長澤委員

授業の進め方として、実験のときに教科書はしまっているのですか。それとも横に置きながら実験をすることもあるのでしょうか。

理科調査委員

教科書の大きさのことにも関連してくるのですが、実験をするときは教科書を開いたままとなると、小さい方が置きやすいことにはなりますが、実際は安全面から机の中にしまっただけで授業を進めています。実験の手順を確認するとき教科書をしっかりと見て、安全確認などに配慮することを理解します。

長澤委員

教科書を見ながら実験をするということは基本的にはないと理解していいのですか。

理科調査委員

はい。

丸山委員

各発行者、各単元の終わりに「たしかめよう」という振り返り問題のようなどころがありますが、これについてはどのような違いがありますか。

理科調査委員

先ほどの選定委員長からのお話にもあったように、東京書籍では、単元末で練習問題や図入りの振り返りで基礎的な知識を確認し、学習内容をしっかりと整理し、確実に定着するように配慮されています。啓林館でも、単元末で練習問題や用語入りの手書き風の「まとめノート」で基礎的な知識・技能を確認し、学習内容を整理し、しっかりとまとめようという子どもの意欲を喚起することにもつながっていると思います。

野口教育長

それでは、もしよろしければいったんご退室いただいて、審議の中で必要があったらもう一度入っていただくということでもよろしいでしょうか。

(選定委員、調査委員 退室)

[理科：審議]

野口教育長

今ほど選定委員会からは、東京書籍、大日本図書、教育出版の評価が高かったとのことでした。別にこれにこだわる必要はないと思います。どの発行者も問題解決学習的な構成になっていますし、それぞれ自由にご意見を頂戴できればと思います。

櫻吉委員

理科は社会と同じで、いろいろな興味・関心を引くような、授業以外の発展

的な内容を盛り込んだ教科書がいいと思っています。その観点で見たときに、東京書籍と大日本図書が内容的に一番良かったと思います。ボリュームでは大日本図書が一番大きいように感じたのですが、東京書籍の3年生の53ページに、テオ・ヤンセンさんの「ストランドビースト」が出ています。これを動画などで見ると本当にびっくりすると思うのです。理科の「あつ」と思うような題材であり、そういう質の高いコラムを東京書籍は結構採用しているなと思いました。若手の先生にも指導しやすいというお話もありましたので、私は東京書籍がいいと思います。

大島委員

5者で比較して、やはり問題解決型学習を進める上で見やすいというか、教職員の方々も説明しやすいという点でいえば、東京書籍か大日本図書の2者がいいと思っています。実験なども含めたサブ的に使う二次元コードの内容などを見ても、東京書籍は理科に限らず二次元コードの使い方が非常にうまいと思いますし、そのあたりで非常に充実しているのが東京書籍かなと思っています。どちらかといえば東京書籍かなと思います。

木村委員

理科という科目は子どもたちの興味をそそるといえるのか、実験などで興味を持ってくれる科目だと思うことと、安全に配慮が必要な科目だと思っています。

5者を拝見して、東京書籍か大日本図書か教育出版の三つかなと思ったのですが、東京書籍はやはり見やすく、問題解決がしやすい構成の工夫が非常にあるように思いました。それと写真が非常にきれいなのと、自然災害や環境問題、台風や地震に対する問題が非常に充実していると思いました。

大日本図書は「理科のたまてばこ」の内容がやはり良く、SDGsや他の科目との関連性が表記されている工夫があると思います。例えば5年のまとめの後に6年の見通しが記されていたりする点もいいと思いました。

教育出版には「メッセージ」というコーナーが最後の方にあって、教頭先生の言葉などが子どもたちの興味をそそるのではないかと思ったのと、教育出版は振り返りが非常にしっかりしていると感じました。

この三つの中で1者を選べと言われたら、やはり東京書籍かなと思います。

長澤委員

東京書籍と大日本図書で悩んでいる状況です。顕微鏡の使い方は子どもたちにとってなかなか難しいものなのですが、大日本図書では動画がきちんと挙げられていました。65ページでは、二次元コードを読み込んで動画で見るというものでした。一方、東京書籍は188ページに「顕微鏡の使い方」があるのですが、動画での説明がなかったのが残念だと思いました。

東京書籍は文字が大きくてとてもすっきりしているので見やすいです。最初は横に置きながら実験することもあるのかなと思って質問してみたのですが、しまつて行くということなので、字の大きさが特段重要というわけではないのかなと思うのですが、最初に手順を確認して頭の中に入れて作業するという点では、このように整理されて読みやすいものの方が扱いやすいと思いました。

一方で、どの発行者にもある、6年生の物を燃やす単元を比べたところ、大日本図書は最初に暮らしの中の燃えるものを見て、これについていろいろ気付きを持った上で学習に入っていき導入になっています。東京書籍はどちらかという、「物が燃え続けるためには何が必要か」という教材として始まっているので、大日本図書の方が魅力的だなと思いました。

東京書籍のいいところは、物を燃やす単元の中で、きちんと問題を切り分けてそれぞれについて問題提起をし、実験を展開して結論を出すということがなされています。東京書籍は11ページから始まるのですが、まずは物が燃え続けるためには何が必要かという問題提起について「燃え続けるためには常に空気が入れ替わる必要がある」というのが14ページでまとめられて、その次に「燃える前と燃えた後で空気がどんなふうに変化するのか」という課題に入っ

ていく形で、18ページ以降でまた新たに問題提起がされ、「実験」「まとめ」というふうになっています。

大日本図書はそのあたりがしっかりと分けられていません。全体的に取り扱っているテーマは一緒なのですが、問題を切り分ける形ではなく、全体的に展開させています。その点で、先生が教え、子どもたちが知識として最終的に入れていく上では、東京書籍の方が分かりやすいという気がしています。

このように一長一短で、2者で揺れております。他の委員の先生方のご意見をお聞きしながら私なりに考えたいと思います。

野口教育長

なかなか難しいですね。

丸山委員

主体的に問題解決学習をするという点で、教科書中の問いかけや展開を見ると、東京書籍が一番それを反映できるのではないかと思います。教科書の大きさが少し気になったのですが、実験のときは片付けるということで、見やすさからしても東京書籍か大日本図書かなと思います。大きさが邪魔にならないということなら見やすい方がいいので、この2者かなと思っています。東京書籍は先ほど質問した「たしかめよう」の内容が優れていたものでトータル的には東京書籍がいいと思います。

田邊委員

いずれの発行者も写真を使って非常に魅力的に、各単元に沿った実験の作り方を工夫して掲載しているので、魅力的なつくりになっているということを感じました。

他の教科にない特徴としては、かなり余白が多いつくりになっていて、大きなポイントだったり、内容によっては小さいポイントになっていて、かなり軽重をつけて作られているのが理科の教科書の特徴だと思ったところですし、また、実験をするときに一番大事なものは何なのかというのを一目瞭然で把握できるようにするためにそういう配慮があるのは理科の教科書の工夫なのかなと思いました。

実験の進め方やどういうメリハリで進めていくのかということに関しては、総じてそれぞれ工夫はされていますが、東京書籍が一番魅力的な取り上げ方をされていると思ったので、東京書籍を一番に挙げたいと思います。例えば各単元でそれぞれの発行者なりの良さがあると思うのですが、台風に関する5年生の単元を見ると、ちょっと特徴的な違いがあります。例えば東京書籍は64ページ以降で、台風の備えとして必要なことがかなりページ数を割いて紹介されているのですが、大日本図書は目に映る写真がどんと大きいのですが、内容がコンパクト過ぎるぐらいにコンパクトなのです。

それぞれの取り上げ方を見てみると、それぞれ押さえるべきことはこれだということで作られているので、それぞれの長所だと思うのですが、インパクトのある視覚的な訴えということを考えると、東京書籍の方が分析や捉え方に少し秀でているのかなと思います。一例ではありますが、台風の単元で見比べると、東京書籍の処理や分析の仕方が大日本図書と比べて分かりやすいという感想を持ちました。

それから、理科ではそれぞれ実験したり観察したりしていろいろな気付きをしていくのですが、一方で自由に研究をするということも重要であり、この点について、東京書籍は「私の研究」で、各学年に合わせてこういうテーマで研究することもありだよというヒントを与えるようなページがあるので、自分で研究をしていく上でこういうヒントを手がかりにして、こういうテーマでという発展的な取り組みを推奨しようとする点での目配りがありますので、東京書籍を選ぶのが妥当かなと思いました。

野口教育長

私は教員の時、小学校の理科の研究を30年間していましたが、もし自分が理科の専門的な教員として選ぶとしたら間違いなく教育出版を選びます。子どもの思考が非常に整っていて、きちんと流れています。恐らく子どもはついて

こられると思います。ただし、かなり高度です。ですので、前回の中学校の採択で「本当に教育出版はまともだと思ってくれるけれども、今の金沢の子どもたちには高度過ぎるのではないかという思いを持ちますので、東京書籍にします」という話をしました。同じことが言えると思っています。

全体をざっと眺めたときに、まず自分がいいと思ったのが東京書籍、大日本図書、教育出版だったのです。ただ、理科は社会と同じで3年から6年まででやらなければならない教科書なのです。何を考えたかという、まず理科の授業は、教科書での思考の流れだけでなく、その前に実験の準備があります。そして、教科書に書いてある内容に取り組み、最後に後始末があるのです。それらが全部できて45分なのです。だから、そのことを想定していかないと理科の授業は成り立ちませんから、そういう視点が必要だということがまず一つです。

もう一つは、理科ですから、やはり実験・観察が命です。キーワードは「早く」実験・観察ができること、「安全に」実験・観察ができること、「確実に」実験・観察ができることです。そうした観点でもう一度見ますと、トータルとしては東京書籍がいいのかなという感じを受けました。

それから、東京書籍は細部に配慮されていると思うのです。例えば5年生に「物のとけ方」があります。これは大日本図書もあるのですが、扱う素材が食塩とミョウバンなのです。食塩とミョウバンと一緒に扱っている発行者もあります。でも東京書籍は、食塩を扱った後にミョウバンを扱う形になっていて、同時にはできないことをちゃんと想定しながら教科書を構成しています。通常は4人の実験グループなのですが、3人でグループを編成しないとできない学校では、素材の扱い方を考えていかないといけないだろうといろいろ考えています。

それからもう一つは、先ほどの安全面に関係しますが、6年生で水溶液の性質の単元があります。そうした単元も全部見たのですが、そういうところも含めると、東京書籍がトータル的にはいいのではないかと自分なりに感じましたので、東京書籍にしたいと思います。

ということで、長澤委員、どうでしょうか。

長澤委員

東京書籍でよろしく願います。

野口教育長

それでは、理科は東京書籍でよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

野口教育長

では、理科は東京書籍にさせていただきます。

## ○種目「生活」

[生活：説明の概要（選定委員長）]

生活科は6者である。

東京書籍は、育成すべき資質・能力が吹き出しやワークシートで具体化している。学習内容と教師の発問例が示され、指導計画や学習評価にも役立つ。「学びをふかめる」コーナーで児童が見方・考え方を生かして協働的な学びができ、学びの見通しが持てる。項目6に関しては、スタートカリキュラムを生活科の学習活動の中心に編成し、保護者向けのメッセージや育ってほしい姿を具体化している。項目1に関しては、「かつどうべんりちょう」で安全に関する約束や生活習慣、学び方など、基礎・基本を確実に習得できるようになっている。

大日本図書は項目7に関して、児童目線でのダイナミックな写真が豊富に掲載され、児童の興味・関心を刺激し、実際の活動への意欲や期待感を引き出すよう配慮されている。項目9に関しては、「せいかつことば」が載っており、児童の語彙力、言語能力向上を図っている。このような言語活動の充実が図られ、児童の思考力・判断力・表現力の育成や深い学びにつながるようになっている。

学校図書は、児童につけたい力が明確に示されている。項目1に関しては「まなびかたずかん」で、学び方を「みる」「はなす」「きく」「かながえる」など九つの視点で整理し、写真や絵図などを分かり

やすく示している。項目3に関しては「もっとつづきたいな」のコーナーで、これまでの学習を通して得た知識や技能を基に児童のさらなる興味・関心が広がるようにしてある。

教育出版は、学びの連続性を大切にしながら児童の自発的な学習が展開されている。項目3に関しては「わくわくスケッチ」を設け、児童の経験や意欲を喚起し、主体的な活動の動機付けができている。キャラクターが気付きを促して、その気付きの質を高め、「はっけんロード」のゴールでは「ぐんぐんはしご」で自己評価を促し、自発的な学習を展開し、自己の変容が可視化できるようになっている。

光村図書は、児童自身が主人公となる個性的で自分らしい学びの実現ができるようになっている。項目7に関しては、絵本作家のヨシタケシンスケ氏のイラストが随所に掲載されている。一人一人が自分らしい学びを進めていくことができるメッセージがイラストと言葉で表現されている。項目1に関しては、「ひろがるせいかつじてん」が別冊となっており、安全やマナー、生活習慣、学び方など生活に関わるさまざまな知識・技能を個人の興味・関心に応じて参照できる。項目8に関しては、「保護者の皆さまへ」で家庭と学校をつないで学習活動を進め、繰り返し読みたくなるようになっている。

啓林館は、幼児期に育まれた資質・能力を発揮しながら楽しく安心して学校生活を始めることができるスタートカリキュラムが充実している。項目6に関しては、「ステップブック」「みらいにむかって」で、培った資質・能力を自覚し、3年生以降の学習への期待感を高め、自信と意欲を持って進級することができるよう工夫されている。項目2に関しては、「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3段階構成で単元の流れが分かりやすく示され、学びのプロセスの充実につながっている。

その後、質疑応答があり、金沢の子どもたちにも合った活動の教科書はどの教科書なのかという質問があった。どの教科書も活動はしやすくなっているけれども、多様な活動を認める点では光村図書の「こんなこともあるかもね」のコーナーが、子どもたちの活動やつづやきを想起でき、豊かな活動につながるという回答があった。

また、「ふりかえりカード」に教師がコメントをする点での違いや評価について質問があった。東京書籍は、児童が見方・考え方を生かしている姿を吹き出しやワークシートで掲載し、育成した質問力を子どもの言葉で表されているとのことである。一方、光村図書は、求められる資質・能力を最初のページで14種類に整理し、振り返りの観点として子どもの思いや気付きを促す視点が明記されているという特徴があるとのことだった。

次に、項目6に関して、同じ1年生で他教科との横のつながりはどうなっているかという質問に対しては、まとめて教科とのつながりを示している教科書もあったが、どの発行者も他教科との関連は意識されているということだった。

項目5の現代的な諸課題への対応と視点についての質問に対しては、生物の多様性、人間の多様性はどの発行者にも視点としてあったとのことだった。例えば、車椅子の子どもが登場したり、お年寄りとの関わりがあったり、リサイクルやリユースといった視点もどの発行者にもあるとのことだった。

細かい質問だが、光村図書に関して、「花の育ちがまちまち」という話はどの項目で評価したかという質問があった。「花の育ちがまちまち」というのは多様性にも関係していて、SDGsの考え方にも関わるので、どの項目で評価するかという位置付けが難しかったという回答だった。

光村図書の別冊についてどのように評価したかという質問については、いろいろな道具の使い方や植物、生物の育ちについて分かりやすくまとめられていて、観察・飼育の視点として設けやすいような資料が豊富であるとのことだった。別冊にすると困難なことはあるかという質問に対しては、なくす危険性はあるが、別冊を持って観察に行けるし、コンパクトな荷物で探検に行けるとのことだった。

その後の議論では、主に意見・感想なのだが、「光村図書はずば抜けてひかれる。いいポイントや工夫が随所に見られる。特にデザインがしっかりしていて、興味を持って開けそうだという点をもっと評価するとよい」という意見があったので、そうした点を高く評価して文言を付け加えた。

また光村図書には「楽しい毎日につなげよう」とあるが、いわゆる職業ではないキャリア教育として、毎日を楽しく過ごすとか、希望を持って過ごすというのは評価できる。こんなこともあるね、うまくいかないことがあるねという視点は他者にはあまりなく、全てがうまくいくことばかりではないので、こういう視点も低学年のうちから持つという点では大変優れているという意見があった。写真なども含めてそういう部分が優れているということは、この委員会でも口頭で報告するということになり、報告させていただいている。

以上の議論を経て、最終的には6者のうち特に評価が高かったのは東京書籍、教育出版、光村図書である。

[生活：質疑応答]

櫻吉委員	基本的なことをお聞きしたいのですが、生活科はどういう位置付けの教科なのでしょう。目に見える成果を求められる教科でないように思うのですが、生活科を通してどういことを学ばせようとしているのでしょうか。
生活調査委員	生活科は、具体的な活動や体験を通して身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し、生活を豊かにしていくことが目標になっています。
櫻吉委員	具体的に成果を何か求められるものではないのですか。
生活調査委員	生活科が誕生してから30年ぐらいたちますけれども、活動があって学びがないということが、生活科を通して育ってきた子どもたちや授業を見る中でよくいわれてきました。それを改善するために学習指導要領では、子どもたちが活動を通して得た気付きの質を高めながら、子どもたちの資質・能力を育てていくことにしました。今回はその具体的な資質・能力の何が子どもたちに育てたい力なのかということが具現化され、教科書の中にも表れていました。 例えば光村図書では、子どもたちに育てたい資質・能力を14の力でまとめられています。ここでは「みつけた」「ためした」「あいてにあわせる」「ちょうせんした」「つづけた」「もっとやりたい」といった、子どもたちが具体的に思うような、子どもたちと共有できるような資質・能力に分けて示されています。
長澤委員	大日本図書では「きもちマーク」が各ページにちりばめられているのですが、これはどのように使うことが想定されているのでしょうか。
生活調査委員	活動を通して子どもたちがどのような気持ちになったかということをも具体的に振り返られるような表現の部分の力になると思いますし、活動に対する思いを表すような形になっています。
大島委員	光村図書は項目8に関して、「学習を進めるに当たり、保護者に知ってほしい学習のねらいが示されている」とのことでした。見ますと、「保護者の皆さまへ」や「お知らせ 先生へ」などいろいろ書いてはあるのですが、具体的にこういうものを使って保護者とコミュニケーションを取る機会はあるのでしょうか。
生活調査委員	活動するときには保護者の協力が欠かせません。いろいろな栽培活動についても、いろいろなものを作るにしても、保護者に用意していただいたり、保護者にインタビューしたりということも活動の中には多くあります。そういった趣旨を保護者に理解していただくという意味では、大変効果的なメッセージかなと考えております。
木村委員	教育出版の上63ページに「もしものコーナー」というのがありますが、考える力が非常に養われる工夫があると思うのです。これは答えが一つではないのですよね。その子その子の思いでよろしいのでしょうか。
生活調査委員	はい。こういったことを考えるのは子どもたちにとっても非常に楽しみであり、多様な考えが出てくるので、お互いに学び合える良い機会になるのではないかと考えます。
木村委員	その子が何を考えているかということは、児童の評価には関係しないということですか。
生活調査委員	活動の中から考えや言葉が生まれてくると思いますので、活動の中の評価でもあったり、生活の中にどう生かしていくのかという評価にも関わってくると



思います。

田邊委員

生活科が何をねらいにしているのかという質問が最初にありましたけれども、それを示しているのは、ざっと見る限り、教育出版では最初の目次のところに「保護者の皆さまへ」ということで、生活科はこういう力を育てるのだということがうたわれていますけれども、他の発行者はあまりないような気がします。生活科はなかなか漠然とした内容なので、何をねらいにしているのかということを示すことはとても重要だと思うのですが、教育出版以外の発行者でも、こんな力を育てるということはどううたわれているのでしょうか。

生活調査委員

他の発行者も、保護者へのメッセージは最初の方に書かれているもののがかなりあります。といいますのも、スタートカリキュラムが生活科にはありますので、スタートカリキュラムをこれからの学校生活にどうつなげていくかということで、「保護者の皆さまへ」というページはあります。

田邊委員

全部書いてあるのですね。

生活調査委員

書いてあります。

長澤委員

二次元コードは授業の中でどのように使っていくのかということをお聞かせください。それから、光村図書は二次元コードが極端に少ないように感じるのですが、このあたりはいかがでしょうか。

生活調査委員

二次元コードについてはどの教科書も非常に充実していると感じました。特に東京書籍は「デジタルいきものずかん」という資料が650点以上も用意されていて、非常に見応えがあり、子どもたちが学ぶ上で非常に有効な資料になると感じました。光村図書も二次元コードが少ないように思いますが、動画などが豊富に掲載されていて、子どもたちが何かを作ったり、活動したりする際に注意することが示されており、大変分かりやすいという点も評価が高かったです。

長澤委員

ご指摘くださった動画は具体的にどのページから見ればよろしいのでしょうか。

生活調査委員

下の教科書の3ページにもあるように、動画が随所に盛り込まれています。

野口教育長

これでご質問はよろしいでしょうか。先生、どうもありがとうございます。審議に入らせていただきます。

(選定委員、調査委員 退室)

[生活：審議]

野口教育長

木村委員がお時間の都合があるため、もしよろしければご意見を表明していただいて、ご退室いただいても結構かなと思います。

木村委員

6者の中で、東京書籍は学校を好きになるような身近な問題から、自然などに着眼し、疑問を持ってそれを追求している点と、子どもたちの表情がとても明るくて、「かつどうべんりてちょう」が載っている点、他教科のつながりがはっきり明記されている点では、東京書籍がいいと思いました。教育出版は、先ほども申しましたけれども、考える力が養われる工夫が随所にあると思いました。

ですが、最終的には光村図書が一番いいかなと思いました。別冊に「ひろがるせいかつじてん」があったり、家庭とのつながりが非常に工夫されている

る点、子どもたちの多様な行動を認めている点、それから一番いいと思った点としては、「こんなこともあるかもね」「こんなことあったかな」というのが、学習を深めていく上で非常に助かるのではないかと、若い先生方も助かるのではないかと思います。

野口教育長

では、光村図書ということでよろしいでしょうか。どうもありがとうございました。それでは他の委員、どうでしょうか。

櫻吉委員

どの教科書も写真・イラストが多くて、低学年に配慮されていて、その点はどの者も遜色ないと思いました。ただ、光村図書は表紙をぱっと見たときに、ヨシタケさんの絵本がなぜ教科書にあるのだろうと思うぐらい、目を引かれました。中を見ると本当にイラスト・文章がふんだんに使われていて、「こんなものもいいかもよ」とか「こんなこともあるかもね」というのがあって、ヨシタケさんの「うまくいかなくてもしよんぼりする必要はないんだよ」という一貫したメッセージが伝わってくる、非常にいい教科書だと思います。

上の10～11ページを見ると、11ページには写真があります。他の教科書もそうですけれども、いわゆる教科書的なお手本が写真として出ていますよね。ところが10ページを見ると、いろいろな子がいるわけです。ぼーっとしている子も、寝ている子もいます。本来、教室とはこんな形であり、いろいろな子がいるというメッセージも本当に伝わってくる教科書だと思います。そうしたことから私は光村図書がいいと思います。

長澤委員

光村図書の「保護者の皆さまへ」というメッセージがとても具体的で、一緒に活動していくという視点がとても明確になっていると思います。東京書籍の「保護者へのメッセージ」とは質が異なり、より具体的に「子どもと一緒に活動に取り組んでください」というメッセージが盛り込まれていると思います。生活の評価に関しては分かりづらいと思いますので、保護者の方々にとってもこれが学校生活で子どもたちにとってどんな意味があるのかということと一緒に学べるような仕組みになっているのがとても魅力的だと思います。

大島委員

私も同様で、東京書籍か光村図書という感じを受けていたのですが、先ほども質問した保護者との関係について、最初の小学校の入り口ですので、保護者も大変不安な気持ちになっているでしょうから、こういったものがあって、なおかつ学校とコミュニケーションが取れる場もあるということであるならば、特に光村図書の内容が非常に合致していると思いました。

丸山委員

最初、東京書籍と光村図書の二つで悩んでいて、光村図書のイラストがどうなのかなとは思ったのですが、入学したばかりの低学年の子どもたちにとって非常に親しみやすいというか、現実に起こり得るいろいろな問題や学校生活のさまざまなシーンがイラストで表されており、非常に親しみがあったいいのではないかと思います。それから、後ろの方に載っている別冊を外に行くときにも持って行けるという話もありましたので、そういう意味で結構活用できると思います。中身を比べても、光村図書の内容が非常に深くいいのではないかと思います。

田邊委員

1・2年生で使う教科書なので、学校への親しみを感じられることをねらいにしていると思うのですが、そういうねらいも光村図書はかなり細かく書かれています。上の5ページは、14の力を育むのだということはかなりきめ細やかに想定しながら作られているので、どんな力を付けるのかということが見通しやすいと思います。

他の発行者も意識はされているのです。東京書籍でも「保護者の皆さま

へ」というところで、巻末に保護者向けの表現でかなりいろいろ挙げられているのですが、教科書ですから、保護者への言葉と同時に子ども向けのメッセージがあってほしいなという気がします。そういう意味では光村図書のメッセージは非常に子どもにも届くメッセージだと思います。

イラストが満載されていて、教科書としては異色のつくりなのですが、それは1・2年生にとっては親しみやすいことでもあるし、哲学的なことも表現の中になんか織り込まれていますので、学校生活に親しみ、そこでどんな力を育てるのかということを中心にかなり分かりやすく提示して作られているということで、光村図書が秀でているように思います。

野口教育長

全く私も同じ意見です。東京書籍と光村図書を想定はしてはいましたけれども、かつて金沢では、光村図書の生活科の教科書が採択されていて、東京書籍になったときに何が合ったかということ、光村図書の教科書は写真が多過ぎて、当時は若い先生がどんどん入ってきていたので、その先生方が授業しづらいだろうということで、当時は東京書籍が丁寧だったことから、そこで替わりました。

ところが今回、2者を見比べてみると、東京書籍は写真が多過ぎて、若い先生方はどうかな、授業をしやすいのかなと考えていました。その観点だけでなく、皆さんがおっしゃったとおり、保護者の皆さんの安心感とか、保護者が何をしたらいいのかとか、これを使う子どもたち自身が非常に分かりやすいだろうということで、私も光村図書がいいと思いますし、「せいかつじてん」も非常に充実していると思います。

例えば、1年生では学校探検で図書館に行くのですが、それを基にしながら今度は2年生で地域の図書館へ出かけていくことで広がりを持たせていたり、光村図書の特長としては2年生の最後に、3年生以降のいろいろな教科につながっていくのだということを示してあたりりました。櫻吉委員も触れられましたが、「こんなこともあるかもね」など様々なところで、子どもたちが不安感を持たないで生活科の授業に取り組めるのはとてもいいと思っていますので、私も今回は光村図書がいいのではないかと思います。生活科は光村図書でよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

野口教育長

それでは、生活科は光村図書に決定したいと思います。

今日予定しておりました5種目の審議が終了しました。確認させていただきます。図画工作は日本文教出版、社会は東京書籍、地図は帝国書院、理科は東京書籍、そして生活は光村図書を採択することに決めたいと思います。これでもよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

野口教育長

ありがとうございました。次回は8月22日、定例教育委員会議が終わった後、隣の2202会議室に移動して、16時30分から残りの保健、算数、道徳について審議を行いたいと思います。以上をもちまして本日の審議を終了します。

以 上

## 令和5年 教育委員会第3回臨時会 会議録

1 日 時 令和5年8月22日(火)  
開会 16時40分  
閉会 19時10分

2 会 場 金沢市役所 第二本庁舎 2階 2201会議室

3 出席委員(7名)

教育委員長	野 口 弘
教育委員	田 邊 俊 治
〃	大 島 淳 光
〃	木 村 陽 子
〃	丸 山 章 子
〃	長 澤 裕 子
〃	櫻 吉 啓 介

4 欠席委員(なし)

事務局	教育次長	上 寺 武 志
	担当次長(兼)学校指導課長	貞 廣 賢 了
	学校指導課担当課長(兼)課長補佐	小 川 隆 庸
	学校指導課主席指導主事	古 川 雄 次

金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会	
委員長	松 原 道 男

教科用図書調査委員

5 案 件

非 臨時議案第4号 令和6年度使用小学校教科用図書の採択について (学校指導課)

6 議事の経過等 以下のとおり

臨時議案第4号について非公開で審議に入り、小学校教科用図書のうち、保健、算数、道徳、について採択を行った。

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

○ 臨時議案第4号 令和6年度使用小学校教科用図書の採択について(学校指導課)

○ 種目「保健」

[保健：説明の概要(選定委員長)]

保健は6者である。

東京書籍は、1時間の学習の流れが四つのステップで構成されている。項目7に関して、まずステップ1の「気づく・見つける」では生活を想起させる大きな写真、ステップ2「調べる・解決する」とステップ3「深める・伝える」では多彩なイラストで、生活や経験と関連付けて思考を促し話し合いができるようになっている。項目1に関しては、重要語句が太字で示され、ステップ4の「まとめる・生かす」にワークシートがある。生活に役立つスキームが写真やイラストで紹介され、知識・技能の習得ができる。

大日本図書は項目6に関して、言葉を詳しく説明するマークや役立つ知識のマーク、他学年の保健の学習や中学校の保健体育の関連を示すマークがある。学年相互間および小中学校での学習の関連を指導者が意識して系統的に教えることができる。

大修館書店は項目8に関して、身近な用具で行える運動遊びや友達と行う運動遊びの例がイラストで紹介されている。肘や腰の痛みなどのスポーツ障害の説明があり、安全な運動から体力の増進が図られ、中学校の部活にも関連している。高学年の「体育の窓」で、運動と骨や筋肉の成長の関係、運動の経験と心の発達の関係、運動による生活習慣病の予防など、運動と保健を関連付けて学習できる。

文教社は項目3に関して、全ての単元の最後に「私の健康宣言」や「私のスッキリ宣言」などが設けられ、自分の宣言とその理由、友達のメッセージを書くことができる。学習したことを生かして取り組みたいことや頑張りたいことを言葉にし、健康の保持・増進や体力の向上を目指した生活の意識を高めることができる。

光文書院は項目6に関して、ページ下の「まめちしき」に、学習内容を補足し、生活に役立つ情報が掲載されており、より詳しく学んだり、生活に生かしたりできる。また「ほけん」というマークで、他学年で学習する内容との関連が示されている。

学研は項目2に関して、1時間の学習を振り返る、話し合いを整理する、学びを生かすの三つの活動で展開され、各活動に記述欄があり、選んだ理由や考えたこと、友達と話し合ったことなどを書くことができる。項目1に関しては、確実な知識の習得のために「ことば」というマークを使って難しい言葉の解説がある。

その後、選定委員会から調査委員長に質問があった。例えば、自己の課題を見つける力については各者どのようになっているかという質問に対しては、各者工夫されているけれども、東京書籍は大きな写真で日常生活の課題が見つけれ、学習の進め方が書かれており、優れているとのことだった。

感染症などの対策や対応について違いがあるかという質問に対しては、各者とも書かれており、特に新型コロナウイルス感染症を取り上げるというより、大修館書店は新型コロナウイルス感染症の経験から学ぶというのが特徴的で、正しい情報を得ることの大切さや、不安を煽るような記事や噂に惑わされずにきちんと情報を得ることなどが書かれているという特徴がある。

教科書のメモ欄の差、ノートに書くこととの違いについて質問があった。これについては、どの教科書も記述欄があり、学研は各活動に記述欄があるのが特徴的とのことだった。ただし、記述欄が多い分、資料や文章の部分がやや弱いという意見があったとのことだった。

次に、性の多様性に関して言及されているのは光文書院で、答申にもそのことが書いてあるが、他の者はどうかという質問があった。回答としては、ジェンダーに関する問題は全者で取り上げる度合いが違うとのことだった。大日本図書は同性愛がLGBTという言葉で、光文書院は性の不一致や同性愛についても述べられている。文教社は1ページを使って「その人らしさを大切に」というテーマでジェンダーについて書いてあり、ランドセルの色が昔と今で異なるなど、その人らしさについて書かれているとのことだった。

いじめや自殺のホットラインの連絡先は東京書籍だけ記載されているけれども、見方によっては表現が強いのではないかという質問があった。その回答としては、先生や家の人に相談しづらいという子どももいるので、電話番号が実際に載っているのは子どもの助けになるとのことだった。他者にも相談窓口は載っているけれども、東京書籍は相談窓口と併せて車いすテニスプレーヤーの国枝慎吾さんの記事も載っており、パラリンピアンの記事も交えて相談について書かれている点で東京書籍は優れているという回答だった。

その後、選定委員会の審議では、主に意見と感想として、東京書籍と大修館書店が適当ではないかということだった。特に金沢型学習スタイルを踏まえた学習展開に関しては、東京書籍がやや優れている、大修館書店も同じようにベーシックカリキュラム等を踏まえているという意見があった。

自分自身の将来の健康については自分で課題に気付いて改善することが大切である。項目9に関して東京書籍は「気づく・見つける」で思考を促す工夫があり、主体的・対話的で深い学びが展開できる。また大修館書店も課題を見つけるという観点から優れているのではないかという意見があった。

東京書籍の教科書の表紙は多様性をイラストで表現しており、自分の体や性差などいろいろなものを学んでいくに当たってふさわしい表現になっているのではないかという意見もあった。

また、東京書籍はキャラクターに人種的な多様性があったり、車椅子に乗っている子がいたりしてきちんと考えられている。大修館書店は金子みすゞさんの詩を使いながら、多様でいいのだと書いているところが良いという意見もあった。光文書院は感染症に関する部分が非常に詳しく、感染症の文脈で差別は良くないと言っている点も社会的な特徴を押さえていて良いという意見だった。

感想としては、評価の中にもう少し性の多様性についての評価があったらいいのではないかという感想半分意見半分のコメントがあった。

以上の議論を経て、最終的には6者のうち特に評価が高かったのは東京書籍、大修館書店、光文書院の3者である。

[保健：質疑応答]

櫻吉委員

先ほども少し説明があったのですが、教科書によって、書き込みをする箇所がたくさんある教科書とほとんどない教科書がありますよね。現場で使うときはどちらの方が使いやすいのですか。

保健調査委員長

保健のノートを書くことはあまりないことなのです。書き込み欄がある方が確かに使いやすいのですが、前回も少しお話ししたように、学研のようにあまりに書き込み欄が多過ぎるとその活動ばかりに時間を取られてしまうので、バランス良く、書き込み欄もあって、きちんと説明やイラストや写真もあるというのが、現場の先生からすると一番使いやすいと思います。

櫻吉委員

東京書籍と大修館と光文書院の中でも書き込みの量はかなり違うと思ったのですが、どのくらいのバランスが一番よろしいのですか。

保健調査委員長

書く量だけではなくて、全体のイラストの量や文章の量などとの全体のバランスが非常に取れているのは東京書籍です。

使いやすさの話をしていいですか。東京書籍は、実は他の教科書と大きく違う点が1点あります。他の5者は見開き2ページもしくは見開き4ページで1時間の構成になっているのですが、東京書籍だけは金沢型学習スタイルのいわゆる「つかむ」の部分が右ページにあります。見開きではないのです。ここで今日の学習をつかませるためにわざと1ページを右に持ってきています。そして1ページ開くと、左上に必ず今日の学習課題がある構成になっているのです。他者は見開きになっているので最初から学習課題が見える形になっています。

授業をすることを考えると、子どもたちにはぜひ課題を考えてほしいと私たちは思っています。東京書籍のように右に大きな写真やイラストを使って、そこから子ども自身が課題を見つけるような学習が金沢型学習スタイルの中でも重要視されておりますので、そういった面の使いやすさも東京書籍は優れていると感じています。

野口教育長

金沢市は健康教育推進プランを掲げて健康教育を推進しています。その観点から教科書を見たときに、どの教科書を選んでもいいのか、それとも特筆してこの教科書がいいのではないかという考えがあれば教えていただけますでしょうか。

保健調査委員長

七つの重点的健康課題について、教科書によって扱っている量の違いは多少ありますが、どの教科書も七つの健康課題については触れていますので、どの教科書を使っても金沢市の健康教育推進プランで十分対応できると思います。例えば、東京書籍の5・6年生の8ページは心の健康に関する部分なのですが、人とどのように関わったらいいかということが載っています。他の教科書でもコミュニケーションの取り方や相手との距離感といったことを取り上げているものもあり、多くの教科書で七つの課題を取り上げていますので、この教科書を使うと教育推進プランと離れてしまうということはなく、どの教科書を使っても大丈夫だと思います。

ただし1点、他のところで少し特色があると感じたのは大修館です。先ほど選定委員長からもお話があったように、運動との関連を多く取り上げています。金沢市健康教育推進プランにある「子供を取り巻く環境及び子供の健康の現状と課題」の中に「体力、運動能力の二極化」という問題があるのですが、大修館は「体育の窓」というコラムを何カ所かに載せています。その中で、運動と心の発達の関係や、運動による生活習慣病の予防、あるいは運動と骨や筋肉の成長の関係など、体育で学んだ運動の内容を保健と結び付けられている点が大修館は少し特色があると思いますが、どの教科書を選んでも健康教育推進

プランに十分対応できると考えています。

野口教育長

再確認のためにもう1点。1年間で保健を学ぶ授業時数は少ないです。それぞれの教科書を見ているとボリュームが違うのですが、ちょうど適当だと思われるボリューム感の教科書はありましたか。

保健調査委員長

総ページ数で言えば、一番少ないのが文教社で37ページ、最も多いのは大修館と学研の49ページです。5・6年生で一番少ないのが光文書院の65ページ、最も多いのが学研の89ページになります。5・6年生は時数も多いので教科書のボリュームは多少多くなると思いますが、特にこの教科書だけ内容が弱いとか、内容が多過ぎて学びにくいということはないと思います。ただし、先ほどの話のように記述欄が多過ぎるために説明の文章が少なかったり、イラストや写真が少なかったりすることがあると使いにくいという印象はあります。

野口教育長

分かりました。記述欄があるとどうしてもそのことについて思考して書かなければいけないので時間がかかるということですね。他にいかがでしょうか。

田邊委員

保健の授業は限られた時間数で実施されますので、他教科との関連を各発行者、かなり工夫して示していたり、提示するだけだったりの違いがあるようですが、他教科との関連が押さえられている方が保健の授業を行う上でやりやすいのでしょうか。

保健調査委員長

他学年の社会科や家庭科と結び付くところを取り上げている発行者もありますが、それがあってからといって保健の授業が非常にやりやすいというほどのことはないのではないかと考えています。

野口教育長

それでは、また審議の中で必要になりましたら入っていただくという形でご退室いただいてよろしいでしょうか。もし質問がありましたらもう一度入っていただきます。ありがとうございます。

(選定委員、調査委員 退室)

[保健：審議]

野口教育長

選定委員会では東京書籍、大修館、光文書院の評価が高かったのですが、これまでと同じように、ここに入らなかった教科書も含めて、各委員からご意見をお伺いしたいと思います。

櫻吉委員

今の推薦の三つにはなかったのですが、大日本図書の5・6年生の7ページを見ると、夢や目標をかなえるために保健の学習が必要なのだというメッセージが最初に書かれています。3・4年生にも、健康からつながる夢ということで、こういうことが大切で、そのために保健を学ぶのだという姿勢が表れていていいなと思ったのですが、中身としては今言われた3者が優れていると思っています。

その中でも、私は命を守る項目が充実している教科書がいいと思っています、一つには感染症ですね。コロナ禍は今少し落ち着きましたけれども、こういうことが将来的にまた必ず起こるはずで、そのときに、小学校のときに学んだことによって対応できることがあるのではないかとこの観点では、感染症の部分は大修館と光文書院がより詳しく、資料が非常に見やすく充実していると思いました。

また、例えばAEDの使い方や熱中症の予防に関しても、大修館の資料が非常に見やすく内容が充実していると感じました。東京書籍は書き込みが非常に多く、書くことを重視すれば東京書籍かなと思うのですが、授業時間

が短いので、内容を読み込むこと、知識を得ることに集中するとすれば、大修館が一番いいと思いました。

木村委員

保健という種目はやはり命に関わる種目だと思いますし、日常生活に最も近い種目の一つなので、私は6者の中で東京書籍か大修館が最も優れていると感じました。

東京書籍は健康であるための生活について非常に詳しく調べてあるし、解決方法がはっきりと書いてあり、大切なことは太字で書いてあって子どもたちに分かりやすいことと、先ほども申し上げましたが、国枝さんの「悩んでいるあなたに健康のありがたさを」という言葉も子どもたちに影響があるのではないかと思います。

また、私は、日常生活に最も近い種目という点で、インターネットによる犯罪のページを6者それぞれ調べてみました。東京書籍は3分の2ページ、大修館は1ページ、光文書院は1ページあって、あとは3分の1ページとか2分の1ページでした。

そして大修館は、さらに学びを深めるための資料が非常に詳しくなっている点がいいと思ったのと、コロナウイルスに関する記述や体力増進に関する記述が充実していると思いましたので、東京書籍か大修館書店の2者がいいと思いました。

大島委員

私もこの6者の中では東京書籍か大修館が良いと思いました。委員長からのお話にもあったように、非常に見やすいイラストや写真を散りばめながら、適度な書き込みのボリューム、それからイラストでも車椅子の方や外国人の方など多様な方を描いていらっしゃる点も含めて、この2者がいいのではないかと思います。

丸山委員

私もどちらかというところ東京書籍か大修館なのですが、東京書籍のいいところは、右のページから始まって「気づく・見つける」が展開されていくという、金沢型学習スタイルに則した形で構成されている点で、大修館がいいと思ったところは、「体育の窓」で体育との関連を入れている点がいいと思います。

新型コロナウイルス感染症についてどのように記載されているか、全者比較したところ、それほど大差はなくて、感染症についてはどの教科書も非常に分かりやすく説明していると思いました。学研だけが少し物足りないかなと感じました。

ただ、先ほどの説明で、使いやすさの点では東京書籍ということだったので、現場の先生が使いやすいという点では東京書籍がいいのではないかと考えています。

田邊委員

皆様のご意見と同意するところが多分にあります。冒頭の説明にもあったように、ノートを活用する場面はあまり多くはなく、教科書に書き込めると使い勝手がいいという先生方のご意見がありましたが、自分で考えることもさることながら、友達とグループで話し合っただけでそれを記述することにも使われていきます。書き込みはバランス良くという意見もありましたけれども、話し合いをしながらそれを書き留めるような使い勝手のよさが保健の学習をするときに非常に効果的になるようなつくりになっていけばいいと思います。

そうした場合に、東京書籍、大修館、それぞれに良さがあると思うのですが、話し合いながら書き留めるという活用の仕方においては、東京書籍の教科書がつくりとして望ましいように思います。それほど差はないような気はしますが、一つに絞るとすれば、東京書籍の書き込みがグループワークをするときに活用しやすいのではないかと思います。



長澤委員

私も東京書籍か大修館のどちらかだと見ておりました。皆さんの意見もお聞きしながら、私の意見としては東京書籍を採択するのがいいと感じております。熱中症に関して今後ますます充実した指導が必要だと思っていて、東京書籍は5・6年の42ページで、二次元コードを付けながら充実した指導ができるようになってきていると思います。また東京書籍に関しては、コールちゃんとクールちゃんがちょこちょこ出てきて、子どもたちが自分で考える助けになるような、非常にシンプルな問いかけをしています。子どもたちが自分で問題を発見してそれを解決していくのをうまくナビゲートできるように作られていると感じています。

野口教育長

自分も東京書籍か大修館と思っていたのです。先ほど質問で、1時間の教科書の中身のボリュームという話があったと思うのですが、大修館の教科書は1時間で2ページ見開きを使っている部分もあれば3ページ使っているところもあれば4ページ使っているところもあって、1時間の授業を構成するときに、なかなかいい教科書なのだけれども難しいと思うのです。東京書籍の方は4ページを原則として教科書を構成しているので、使う先生方は同じボリュームの中で1時間を構成することを考えると、東京書籍の方が使いやすいと感じました。ほとんど差はないのですが、どちらかと言われたら自分は東京書籍を選びます。でも、どちらも捨て難い部分はたくさんありました。非常に簡潔明瞭な学習課題の設定になっているので、大修館もいいかなと思います。

東京書籍が残念だなと思ったのは、学習課題が二つあったり、一つの学習課題の中に二つの問いがあって、どちらがメインなのだろう、二つを求めているのだろうかというところがあったので非常に悩んだのですが、先生方の1時間の構成を考えると、いつも同じようなボリュームの授業があった方がいいという感じは受けました。従って僅差ですが、自分は東京書籍がいいと思います。

それでは、大体、東京書籍か大修館という形になりましたので、他の者は置いてこの2者に絞ってよろしいでしょうか。それではもう一度ご覧になっていただいて、少しまたご意見を頂戴できればと思います。

櫻吉委員

私は大修館を一番に推しているのですが、東京書籍も同じように良いと思いますので、現場の先生方も使いやすいというお話でしたし、皆さんのご意見を聞きますと東京書籍でいいかなと思います。

木村委員

私も東京書籍か大修館のどちらかがいいと言っておりましたがけれども、やはり先生方が授業を進めやすい方がいいと思いますので、東京書籍の方が授業が進めやすいのではないかなという感じがします。

野口教育長

お二人とも、僅差であるけれども東京書籍の方が先生方が使いやすいということを考え、そして構成なども見た結果、東京書籍でもないのではないかというお話でした。

このあたりは、大変申し訳ないのですが、丸山委員はご専門の教科になると思います。いかがなものでしょうか。

丸山委員

トータルで見ると構成の仕方、使いやすさという点で、確かに東京書籍は書き込む部分が多いのはどうかなと思ったのですが、バランスがいいという話だったので、そのあたりは現場の先生が使いやすいという点では気にならないと思いました。それから、感染症のところばかり見ていたのですが、その中でコールちゃんとクールちゃんというキャラクターが「感染した人を責めるのではなく、その人の立場に立って考え、思いやりの気持ちを持つことが大切です」というメッセージを発しているのは非常にいいと思いました。保健なのですが、そういう道徳的な言葉を入れている点もとてもいいなと思

いました。私はどちらかというところから最初から東京書籍推しなのですが、他の教科書も見ながらトータルとして東京書籍がいいのではないかと思います。

野口教育長

今のお三方については、東京書籍でいかがでしょうかという意見だったと思います。

大島委員

私も東京書籍が大修館で迷っておりましたが、皆様のご意見、そして先ほど委員長から実用的な評価が高いとか、現場で使いやすいという話を聞いて、東京書籍でいいのではないかと思います。

野口教育長

ここまで東京書籍でどうかというご意見ですが、田邊委員、どうでしょうか。

田邊委員

甲乙つけ難いところもあるのは否めないのですが、例えば説明にもあったように、相談や悩みはどう対応するのか、相談窓口はどこかといったことが、そこだけを比較して判断するわけではないにしても、強調して示してあるのは、悩みを抱え込みがちな思春期の子どもたちにとっては適切な情報提供だと思いますし、自分で探すよりはこうやって教科書に掲載することは大事な提示だと思います。東京書籍は子ども目線でいろいろなつくりをしている点で一歩秀でていていると思いますので、東京書籍でよいと思います。

野口教育長

教科書を見ていて東京書籍はさすがだなと思うのが、どの教科もそうなのですが、見開きで左側に学習課題が来ますよね。学習課題をつかんでから、ステップ1、ステップ2と学習が進んできたところで、大事なところを文章としてまとめ上げながら、大事なところが太字で書いてあるのです。さらに「深める・伝える」で少し考えさせた上で次のページに行き、「まとめる・生かす」と来るのです。文章の中の大事なところをもう一度子どもたちに書かせて、しっかりと意識をさせていく手法はやはり上手だなと思いますし、なかなか使いやすい教科書だなと感じました。

ですので、そういった点の工夫が大修館はまだもう少しかなと感じています。もちろん大修館も最後の方に課題があって、文章の大事なところは太字になっているのですが、「まとめよう」では自分たちで文章を書いてまとめないといけないので、なかなか難しいかなという子どももいるかもしれません。そう考えると、学びのスタートあたりではこういう東京書籍のようなやり方があっていいのではないかと感じています。

長澤委員

委員長のお話をお伺いして、そうだなと思っておりました。感染症予防の関係が東京書籍は49ページから、大修館は48ページからあるのですが、すごく学びたいと思っている子どもにとっては大修館に記載されているものはとても魅力的で、例えば52ページの資料など、もっと学びを深めるためのページが分かりやすく、「はってん」に関してもさまざまな専門家のインタビューが入っていたりします。収められている情報としては大修館はとても素晴らしいと思いますし、それが難し過ぎず丁寧にまとめられている点でも優れていると思います。一方、東京書籍はまさに小学生が保健を学んでいくに当たって、キーワードをうまくコントロールしながら、子どもたちが振り返りまとめる作業をするのを手助けしているのも、等しく子どもたちに適切な知識を与えていく点では東京書籍のテキストが優れていると思っています。

野口教育長

それでは、教育委員の皆さんからご意見を頂戴したところ、甲乙つけ難いけれども、東京書籍の方が学びやすいのではないかとご意見でしたので、東京書籍に決定してよろしいでしょうか。

委員一同	異議なし。
野口教育長	はい、それでは東京書籍に決定します。

○種目「算数」

[算数：説明の概要（選定委員長）]

算数は6者である。

東京書籍は項目9に関して、「問題をつかもう」が金沢型学習スタイルの「学習のめあてをつかみま

す」に当たり、本文中の「？」マークが学習課題に対応するなど、金沢型学習スタイルの展開になっ

ている。自分の考えと他者の考えの共通点や相違点を見だし、図や式で説明を促す発問も用いられ、

協働的な学びへの工夫が見られる。虫眼鏡マークで算数の見方・考え方も明記し、「使ってみよう」は

適用問題となっているという特徴がある。

大日本図書は項目5に関して、全学年に「プログラミングにちょうせん！」の特設ページが充実し

ている。1年生では、命令カードを使ってゴールを目指す活動を行い、プログラミング的思考に触れ

る構成になっている。また、二次元コードでScratchを使ったプログラミングができ、身の回りで使わ

れているプログラミング的思考も取り上げている。4年生ではアルゴリズムが紹介され、系統的にプ

ログラミング思考を育むことができるようになっている。

学校図書は項目9に関して、「考え方モンスターでふりかえろう！」というコーナーに特色がある。

例えば2年生では、「10のまとまりとばらに分けて考えると、1年生のときに学んだ足し算・引き算

と同じように計算することができました」とあり、1年生を振り返りながら単元の学習内容も振り返

ることができる。また項目8に関しては、4年生以上の計算で数直線と4マス関係表を活用している。

教育出版は項目2に関して、「学んだことを使おう」に特色があり、3年生では日常生活の中から算

数を見つける活動を行う。項目3に関しては、日常の問題を算数を使って解決する活動がある。数学

的な見方・考え方を働かせ、日常の場面をつなげて使う特色がある。

啓林館は項目5に関して、全学年においてプログラミング思考を育む特徴がある。1年生で位置の

表し方について学び、「上に進む」「右に進む」の2種類の命令でロボットを動かし、プログラミング

的思考も育む。また全学年でScratchとオリジナルのコンテンツが用意され、いろいろな考えを何度

も創造的に取り組むことができ、系統的にプログラミング的思考を育む工夫がある。

日本文教出版は項目8に関して、「よみとろうあらわそう」というコーナーで、演算決定の基となる

数直線図の書き方について明示している。例えば4年生では、掛け算と割り算の場合が並べられてお

り、掛け算と割り算では図に表すとどのような相違点があるのかを考えさせている。問題場面と数直

線図をつなげて考えることができ、金沢ベーシックカリキュラムにおける数直線を大切にしたい指導に

つながっている。

その後、数直線に関する各者の取り扱いについて質問があり、その説明を受けてさらに質問があっ

た。各者の数直線の扱いの評価の差として、特に学校図書は4マス関係表が優れているということな

のか、それとも大日本図書だと巻末に整理されて良いということなのかという質問に対しては、大日

本図書は巻末に整理されて見やすくなっているし、学校図書の4マス関係表と数直線図にはキャラ

クターや吹き出しがあり、数直線図が苦手な子も4マス関係表を示して、どちらも使えるという選択の

流れになっていることが優れているとのことだった。

4マス関係表は数量の関係の情報量が少ない分、捉えやすいが、大小関係が見にくいのではないか

という質問に対しては、「数直線図は割合の関係がある演算決定に使うだけでなく、量感覚が捉えやす

い。4マス計算は量感覚がなくてもできる。金沢市の指導では量感を大切に学習を進めていくの

で、数直線図で指導している」とのことだった。啓林館の関係図はブラックボックス的で使いにくい

とのことだった。

項目5に関連して、他教科との関連についての質問があった。調査委員との協議では意見は出てい

ないが、それほど差はないのではないかとのことだった。

プログラミングについて1年生から扱うものと4年生以上から扱うものがあるが、金沢の状況を踏

まえてどう評価したかという質問に対しては、「東京書籍は4年生以上で算数においてプログラミング

を扱っており、他者とは随分違っている。全学年であれば系統的に積み上げられるが、金沢ではI C

Tサポーターに来校いただきながら、1年生からプログラミングを年間数時間体験しており、特に算

数だけで学ぶものではない」とのことだった。

具体的な絵と数の関連から見ると、東京書籍が他者に比べて評価が高いが、その特徴は何かという

質問があった。その回答として、東京書籍は絵や図表を演算の中や問題場面を把握する場でも多く扱

っており、絵と付録、文とノートの扱いについても示されていて分かりやすいとのことだった。

その後の審議では、大日本図書のプログラミングはカードを使ったり、実践的アルゴリズムの条件分岐の実践例を説明したりして、プログラミング的思考を年齢に合った教材で学べる点を評価したらいいのではないかという意見があった。

東京書籍はプログラミングが4年生以上だが、金沢市は月3回ICTサポーターが来校しており、プログラミングでロボットを動かす学習を1年生からできていたので、1年生のときから算数ではなく他の活動でカバーできているのではないかという意見があった。

学校図書の6年生には「デジタル・シティズンシップ」というキーワードがあり、金沢市PTA協議会でも力を入れて取り組んでいるとのことなので、その点は注目していたという意見があった。

東京書籍は、絵とブロックとノートが、つなげて書いてあって大変丁寧であるという意見があった。また東京書籍の習熟問題は、この問題ができればその時間の基礎的な力がついていることが測ることができ、問題が色分けされているので授業者として使いやすいのではないかという意見があった。

以上の議論を経て、最終的には6者のうち特に評価が高かったのは東京書籍、大日本図書、学校図書の3者であった。

[算数：質疑応答]

大島委員

内容の前に、各者かなりのボリュームがあり、サイズ感、学年の上下、別冊などかなりさまざまなのですが、これについて何かご意見はありますか。

松原選定委員長

選定委員会では特になかったのですが、他教科も含めて考えるとサイズもやや異なるので、持ち帰るときの重さについては気にされる選定委員もおられました。学校に置いていたり、学校ごとにやり方が違う部分は多少あると思いますが、実際については調査委員長からご説明いただけますか。

算数調査委員

1年生で大判になっているのは、ノートの代わりになるという面でもとても使いやすいからです。左のページと右側の1、2、3、4がつながっていることから中身的に良いですし、子どもたちが書く量が多く、ノートの代わりの使い方ができるということで好評でした。

また、学校図書は6年生が別冊になっています。6年生の教科書はどの教科書も最終的に中学校の学習へつなげるために復習をたくさん取り入れています。学校図書は別冊になっているという点で特にそのことを意識していると感じました。

櫻吉委員

演習問題がたくさん出ているのですが、子どもたちがこれを解いたときに、すぐに答え合わせをしようと思っても答えが教科書に出ていません。東京書籍は二次元コードを読み取ると全て答えが出ているように思ったのですが、他の教科書では答えをすぐに参照できますか。

算数調査委員

どの教科書も二次元コードで読み取る練習問題については、自分で答え合わせができるようになっていました。ただし、全ての問題に二次元コードがついているわけではありません。

櫻吉委員

東京書籍は、私が見た感じでは小さい問題もほとんど確認できると思ったのですが、間違いはないですか。

算数調査委員

今回の教科書は、現在使っている教科書よりも二次元コードがぐっと増えました。東京書籍の場合、二次元コードが左ページは左の角、右ページは右の角にあります。内容については上の本文のところで「シミュレーション」「動画」「ムービー」などと書かれているので、どのような中身が見られるかというのは分かりやすくなっていると思います。

櫻吉委員

もう1点お願いします。現場の先生方の意見の中で、幾つかの教科書でわくわくする問題、魅力的な問題が少ないというご指摘があるのです。実際どの問

題か分かりませんが、この3者の中に、これが魅力的な問題なのだ、わくわくする問題なのだというものがあつたら教えてください。高校や大学の入試でも、最近では難しい計算ではなく、生活に即しているいろいろな考えなければならない問題が増えているので、それを見越してのことなのかなど思ったりもしたのですが、実際に現場の先生はどれを魅力的な問題と捉えているのか、もし分かるようでしたら教えてください。

算数調査委員

調査委員会では調査項目3に関して、東京書籍では3年生に「いかしてみよう」とか「おもしろ問題にチャレンジ!」というコーナーがあり、子どもたちが興味を持って算数の学習ができるのではないかという意見が出ていました。また大日本図書には「おうちで算数」や「なるほど算数教室」というコーナーがあり、算数の不思議が紹介されています。学校図書の4年生では「はてなを発見」というコーナーがあり、子どもたちの興味の湧く問題が出題されています。

櫻吉委員

この3者で問題の質に大きな差はありませんか。

算数調査委員

質については、調査委員会では、強いて言えば、大日本図書の「おうちで算数」「なるほど算数教室」が良いのではないかという話がありました。

長澤委員

算数では同じクラスの中でも子どもたちを少人数に分けて指導することがあると思うのですが、分けて指導するに当たって使いやすさや使いにくさといった違いはありますか。

算数調査委員

本校でも少人数算数を取り入れており、少人数算数の教室では「ゆっくりコース」や「発展コース」などがあるのですが、教科書の中身によって授業がやりやすかったりというのはあまり感じられません。ただ、教科書の進め方に沿って、それぞれの教室でゆっくりしたペースで進めたり、発展問題に取り組んだりというふうに進めています。発展問題は教科書の巻末などに出ていますので、そうしたところをよく利用する形で使っています。

丸山委員

算数に関しては、1年生の最初の導入がとても大切だと思っていて、そこでつまづいて算数が嫌いになる子もいると思います。1年生の最初の教科書が結構違いがあって、先ほど話があったように大判のものがあったり、他の学年と同じ厚さのものがあったりということだったのですが、導入という観点からはいかがでしょうか。

算数調査委員

先ほどとも重なる部分はあるのですが、東京書籍の大判のものがノートとして使える点は、授業をする教員としても使いやすいですし、子どもたちも大判の方がはっきり見やすいです。

左ページには問題と問題に合わせた図、ブロックが示され、右ページにはノートの書き方が示されています。絵で動物たちの様子が抽象的に描かれ、それがブロックにつながり、ノートに書く数字にもつながっているという点で、これはとても見やすく分かりやすいという意見が調査委員会でありました。

田邊委員

資料Bの調査研究報告書の先生方のご意見を集約していただいたものを見ると、習熟問題に関して東京書籍が圧倒的に適切だという評価が高いのですが、例えばどこが適切なのかという例を示していただけるといいなと思います。習熟問題が適切であることは算数においてとても大事な鍵になることだと思うのですが、いかがでしょうか。

算数調査委員

東京書籍は補充の問題と発展の問題に分かれて巻末にまとめられている点が、習熟問題として適しているという評価につながったのではないかと思います。

	ます。
田邊委員	他者にもそれなりにあるような気がするのですが、内容的には東京書籍が充実しているという評価なのですね。
算数調査委員	はい。
松原選定委員長	選定委員会でも同じような話題があり、東京書籍の習熟問題は、この問題ができればその時間の基礎的な力が付いているということが測れるように色分けがされているという意見がありました。
算数調査委員	例えば、分数の問題でも、1番と3番に色が付いております。時間がなかった場合は4問あるうち、色の付いている1番と3番を解くというふうに教科書を使っていくことができます。
木村委員	巻末の補充の問題は、授業の中では使うのでしょうか、個人で解くのでしょうか。
算数調査委員	本校での例ですが、授業の終わりに問題を解く場面で、児童間で差が見られる場合には、早くできた子には「補充問題を取り組んでもいいですよ」というふうに伝えたり、宿題にして使う場合もあります。
木村委員	そうすると、授業で取り組まない子たちは宿題になるということでしょうか。
算数調査委員	補充問題を必ず宿題にするということはありません。教科書の本文の問題は、全員で確実に行うようにしております。
木村委員	授業中にできた子はやはり次に進んでいくのではないかと思うのですが、そういう差はあまり気になりませんか。
算数調査委員	授業の中ではまず、今日のめあてをみんなが分かった上で、分かったことを使って問題を解いていきます。問題はみんな必ず解くようにしていますが、もっとやりたいという子には補充の問題に取り組ませたりしております。
野口教育長	1時間の授業をするときには学習課題がありますね。どの教科書を見ても学習課題に活動型の課題が設定されているのです。そして、まとめはあるのだけれども、活動型の学習課題の最後のまとめ方がなかなか難しいという気があります。その中で1者だけ、学校図書が「めあて」として比較的問題解決的な課題設定をしているのです。残念ながら、まとめとの整合性がやや弱いのが欠点かなと思っているのですが。 お聞きしたいのは、活動型の学習課題が出てきたとしても、現場の先生が授業をするときには決してその課題ではなく、同じ内容なのだけれども違う表現で問題解決の課題を設定して授業をしているのか、どのような感じでやっているのでしょうか。
算数調査委員	確かに東京書籍は「〇〇について考えよう」「〇〇について調べよう」という書き方のめあてが多いですし、学校図書は「どういう表し方でできるのかな」というふうに、授業の中で課題にしていく文言がよく出ていると思います。質問があったとおり、授業の中では子どもたちと一緒に取り組むわけですが、その場合は教科書にある言葉を、そのままではなくて、「どうやったら〇〇の計算ができるかな」というふうに、「〇〇しよう」という言葉よりも「どうやってするのか」という課題に書き換えて取り組んでおります。

野口教育長

学校の先生方は年代がばらばらで、ベテランの先生方は今おっしゃったことがかなりやりやすいと思うのですが、若い先生方が授業を行うときにそういった切り替えがうまくできるだろうかと若干心配しているのですが、どうですか。

算数調査委員

その点は学校の中での研究としてよく話し合うところですので、活動型の課題にならないように研究しているところです。

野口教育長

ノートの書き方や教科書の使い方など、どの教科書も似ているなという思いがあるので、学校の先生方の声も基にしながらこれから少し審議させていただければと思います。教育委員の皆さん、そのほかに質問はありませんでしょうか。大丈夫ですか。それでは、いったんご退出いただいて、また審議の中で必要がありましたら入っていただきたいと思います。

(選定委員、調査委員 退室)

[算数：審議]

野口教育長

選定委員会からは東京書籍、大日本図書、学校図書の評価が高いというお話がありましたが、教育出版、啓林館、日本文教出版それぞれにもいいところはありますので、そうしたところも踏まえながらご意見を頂戴できればと思います。

長澤委員

学校図書は、全ての学年がA B判で、開いたときにとっても見やすいです。図形なども見やすいですし、「考え方モンスター」という子たちが出てきて、子どもたちになじみやすい工夫がされている点で優れていると思っています。

一方で、内容としていいなと思っているのは東京書籍です。というのも、データを読み取る能力を培う項目のところを他者といろいろ比較していたのですが、その扱いに関して東京書籍は優れていると思っています。

6年生の100ページから「データの特ちょうを調べて判断しよう」という単元があるのですが、大会で1組が優勝できそうかどうかという一つの課題を設定し、それについてさまざまなデータを抽出する方法を学ぶ中で比べる方法を学習していきます。最終的には114ページで今までやってきたことを振り返るのですが、優れているのは113ページで、データの良いところを自分なりに見つけて賞を作ろうという活動が挙げられています。

他の発行者は「これとこれを比べてそれについて判断しましょう」という設定の中でさまざまな表やグラフを学ぶ流れなのですが、東京書籍のいいところは、教科書が設定した目標以外にも、自分たちが出したデータから自分たちで新たな視点を見つけ出し、それに賞という形のもので設定することで、データを自分なりの新たな視点で読み取るまで誘導している点が非常に特徴的でしたし、優れていると思っています。

一方、大日本図書は、6年生の66ページから「調べてみたいことは何か」ということで、データの処理、データの特徴を調べるという単元があるのですが、これについてはあくまでも図書の量を比較するところまでになっています。また学校図書では6年生の86ページにあるように、「体力が落ちているかどうか」ということで過去のデータとの比較になっていて、あくまでもデータを読み取る学問のために教科書が設定したテーマに基づいて学ぶことになっているので、東京書籍は一步進んでいるなと思います。データを読み取ってさまざまな課題を見つけ、それを解決するという点では、東京書籍は生きた学問につなげることを非常に意識して作られていると感じます。

野口教育長

従って、東京書籍がいいのではないかというご意見でよろしいですね。ありがとうございます。

木村委員

算数に関しては6者とも本当に優れています。最初からずっと学びを深めていて、最後のまとめもそれぞれ「ふりかえり」とか「もっと算数」とか「ステップアップ算数」という形で要所が押さえられていて本当に優れていると思いました。

私は中でも東京書籍と、大日本図書の「なるほど算数教室」がとてもいいと思ったのですが、大日本図書は重さが気になりました。それから啓林館も捨て難いと思いました。復習するまでの段階を経て学習する内容やSDGsにちなんだ問題、いろいろな考え方が可能であるということも書いてあったりするので捨て難いと思いました。

櫻吉委員

先ほども質問したのですが、問題を解いたらすぐに答え合わせをしたり、授業中に答えを教してもらってノートに書いたとしても、計算は一回やってもできるようにならないので本来は繰り返してやらないとなかなか身に付かないと思います。そうしたときに、教科書の問題は答えをすぐに参照できる方がいいと思うのです。

確認したのですが、ちょっとした演習問題でもほとんど全てに答えが出ているのは東京書籍ではないかと思います。他者を確認してもそういうところがないように思いました。端末を使って答えを全部確認できれば、家で宿題のような感じでできます。算数は、解いた後にすぐに答えが分かって、合っているかどうか分からないとあまり意味がないと思うので、そうした演習問題の点からすると東京書籍がいいと思います。

それから、私はいつもコラムにこだわるのですが、例えば東京書籍の6年生の116～117ページには、算数や数学に関連した日常生活の問題が出ています。これが、なぜ算数を学ぶ必要があるかということにつながると思うのです。単なる計算ではなくて、こういうふうに生活に役立っているのだというものが東京書籍は幾つか出ているのですが、他者はその点が少し弱いと思いました。そうしたところから東京書籍がいいかなと思います。

野口教育長

働き方改革が叫ばれている中で、「最近保護者が丸付けをしないといけない」という声を聞くことがあります。つまり、答えがないと保護者は丸付けができないですね。ですので、櫻吉委員がおっしゃったこともひょっとしたら大事なポイントになってくるのではないかと思います。

丸山委員

各者、算数を楽しく学ばせる工夫が非常にされていて、どれもすごく優れていると思ったのですが、先ほどから長澤委員、櫻吉委員がおっしゃっているように、東京書籍は算数が日常にどのように必要かとか、将来にどう役立っていくかということが非常に反映された内容になっています。6年生でも野口聡一さんの文章が書いてあるのですが、宇宙飛行士になっても算数が必要だということであったり、日常生活でもこのように算数が生かされているという内容がかなりたくさん入っています。

算数がだんだん難しくなってくると、この勉強がなぜ必要なのかということに悩む時期が出てくると思うのですが、こういうふうに日常生活でも、また将来にも生かされるのだということを入れながら学ぶと、モチベーションがより上がるのではないかと思います。

1年生の導入でも東京書籍がすごく分かりやすく丁寧で、ノート代わりになるという点でとても入り込みやすく、トータルで算数を好きになっていくような構成になっているのは東京書籍かなと思います。

田邊委員

各者とも算数をいかに学ぶかということで工夫が凝らされていました。幾つかのポイントがあると思いますが、まずはスタートブックの大切さがあると思うのです。大判で作られているのが2者ありますが、先ほどご説明があったように、ノート代わりに使いやすいスタートブックのつくりになって



いる東京書籍は一つ工夫があると思いました。

それから算数ですので、計算力を付けるためにいろいろな計算を各学年で取り組んでいくのですが、練習問題でさらに磨きをかけることはどの学年でも必要です。練習問題のつくりとして、たくさん計算をこなすことができれば望ましいと思うのですが、その中でも基本的な質と量についてきちんと取り組むつくりになっているのが東京書籍です。色刷りをして、時間や得意不得意に応じて取り組めるつくりになっているところも、さらに工夫が加えられていると思います。

それから、学んだことをさらにどう深めるのかということに関しても、ノートの書き方もさることながら、深い学びへ展開していくつくりについて工夫を凝らしているのが東京書籍ですので、そういう面でもさらに考えたつくりになっていると思います。

算数は、自分でこつこつ取り組むことも一つの方法だと思うのですが、友達がどんな考え方をしているのか、相談してさらに一步深めるような関わりが今はかなり求められているのではないかと教科書を見て改めて思いました。一つの道筋で答えにたどり着くのではなく、いろいろなたどり着き方があるということで各者それぞれ工夫を凝らしており、いずれの発行者もその点には配慮されていると思います。

また、陥りがちな考え方や計算の誤りについて表示して注意を促す工夫が東京書籍では随所に見られ、その点でも工夫が凝らされたつくりになっていると思いますので、総合的には東京書籍が授業で使いやすいと思います。できる子どもは少なくともここまで、発展的に取り組める子はさらにここまでというふうに、一つの教科書の中でもメリハリのあるつくりになっていますので、総合的に東京書籍が使いやすいのではないかと思います。

野口教育長

やはり授業ですから、学習するときの例題があつて、例題を基にしながら学習課題が出来上がって、例題を解いて学習課題に迫っていきますが、それで学びは終わりではないので、次のステップがその1時間の中にならなければいけないと思っています。東京書籍を見ると、4年生上の50ページで「 $74 \div 2$ を暗算でしましょう」という問題があつて、その方法を考えさせるのですが、ある程度答えが見えてきたら、途中で「 $740 \div 2$ の暗算の仕方を説明しなさい」ということで、深まりのあるような構成が教科書の随所にされているのです。このようなつくりはとても大事だと思っていて、1時間の授業を考えたときの構成も若い先生方には分かりやすいと思うので、この点は好感を持ちました。

初めは正直言って学校図書を採用したらいいなと思っていました。一番こだわったのは学習課題だったのですが、どうも見ていくと学習課題とまとめが整合しないのです。整合しないのはまずいと思いました。私がいつも先生方に言っているのは、「学習課題が出来上がったら、その日の授業のゴールを考えて」ということです。どうなったらいいのかを先生も子どもも共有して、まとめが課題と一致していなかったら授業に問題があるのです。

その点では、先ほど調査委員長にお伺いしましたけれども、学習課題が活動型になっていても、学校で子どもたちの考えも組み込んで問題解決型に一度落として授業をするということであれば、東京書籍の教科書が一番分かりやすいのではないかと自分なりに感じていました。

他の教科書もいいところはたくさんあります。恐らく採択が終わったら、各発行者の方々は他者の教科書を見るのだと思います。そこで次の教科書作りに入っていくのだらうと思いますけれども、今の段階では東京書籍が少し上に行っているという感じは受けるので、私は東京書籍がいいと思っています。

皆さん、いかがでしょうか。

大島委員

私も皆さんのご意見と同じで、東京書籍が一番いいと思っています。理由

は皆さんもおっしゃっていたとおり、深い学びへのヒントのようなものが本当に分かりやすく展開されていますし、金沢型学習スタイルに一番合致していること、それから最初の導入のしやすさ等を踏まえると、東京書籍がいいと思います。

野口教育長

大体皆さんのご意見を頂戴して、ほぼ東京書籍という方向で来ていると思うのですが、他の教科書がいいという方はいらっしゃいますでしょうか。もしご異存がなければ東京書籍でよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

野口教育長

それでは、算数は東京書籍に決めさせていただきます。

#### ○種目「道徳」

[道徳：説明の概要（選定委員長）]

道徳は6者になる。

東京書籍は項目6に関して、教材一覧表に関連するテーマや他教科との関連について明記があり、日常生活とつなげたり、考えを広げたりすることができ、指導者は指導のつながりや広がり意識することができる。この教材一覧表やマークは全学年にあるという特徴がある。

教育出版は項目2に関して、何を考えるかということがキャラクターの吹き出しに書かれており、導入が工夫されている。「どうとくではこんなまなびかたをするよ」というページで、学び方について分かりやすく示されている。このページは全学年にあり、何についてどのように学んでいけばよいか児童に分かりやすく、「たいけんマーク」がある教材では体験が配慮されている。

光村図書は項目7に関して、表紙の絵や挿絵が優しい印象を受ける色使いやタッチで、児童にとって親しみやすくなっている。写真についても、教材の文章を読んでいく中で知りたいと感じる。例えば、チングルマという高山植物の年輪の写真は、他者にもあるが、年輪の様子が鮮明に分かる。「プランコ乗りとピエロ」の教材などでは児童に考えさせたい場面で挿絵が使われていて、児童の思考の流れに合っている。

日本文教出版は項目1に関連して、目次に握りこぶしのグーのマークが示されている項目は、友達と話し合ったり役を演じたりして考えを深める教材であり、グーのマークの色の違いはテーマの違いによるもので、全学年いろいろなテーマについて議論をしたり体験的な活動をしたりできる。項目3に関しては、「見つめよう・生かそう」でこれからの生き方に生かしたいことを問う質問があり、付属のノートで自己の変容を振り返ることができる。ノートで本人や担任、保護者も変容や成長を実感できる。

光文書院は項目4に関して、どの教材でSDGsについて学習するかが目次で分かるようになっている。例えば6年生には「現代的な課題」の欄があり、現代的な課題との教材等のつながりが分かるようになっている。同じく重点主題教材として命・いじめ・共生に関してもマークを使って教材とのつながりが分かりやすくなっている。

学研は、「いじめ防止」「情報モラル」「地球」など11のテーマに分けてある。全学年同じテーマで、発達段階に合わせた教材で学ぶことができる。児童にとってなじみのある藤井聡太さん、池江璃花子さん、内村航平さん、牧野富太郎さんらが取り上げられ、興味を持って学習できるようになっています。

その後、質問があり、日本教育出版に道徳のノートとして付属していたものが良い評価となっている理由について尋ねた。他者にも学習の振り返りのマークや1行の形で記入する欄はあるが、日本文教出版は別冊としてノートがあり、評価をしたり集めて見たりするのに便利とのことだった。また別冊で持ち帰りやすく、保護者にも見てもらうことができ、懇談の際にも使えるという利点もあるとのことだった。

「日本文教出版は今使っているノートよりもあっさりした内容になっている」という質問に対しては、「前回のノートよりも発問の記載が少なくなっている分、授業者が授業の実態に応じた発問を多くでき、子どもが自分の考えを書きやすくなっている」とのことだった。

項目3で、子どもたちそれぞれの生き方について問う発問が掲載されていることが書かれているが、質的な差はどうかという質問に対しては、「発問についてはどの発行者も工夫されていた。その中で日本文教出版は細かい発問が少なく、児童の実態に応じて発問を考えることができるので、授業として

は組み立てやすい」とのことだった。

「先生の力量に大きく影響されるのではないかと。道徳は学級担任によって差が出るのではないかと」という質問に対しては、「若手の先生もベテランも同じように授業を進める必要があるという意見が出たが、学年等で教材を読んで研究していく中で統一した発問に練り上げていくことができ、現在使っている教材もたくさんある」という回答があった。

「日本文教出版の道徳のノートは使い勝手がいいだろうと思うが、先生がフィードバックする負担があるのではないかと」という質問に対しては、「評価をする上でノートが役立つツールとなっている。教師は子どもたちの変容を見取ることはいとわないので、評価に役立つ点でこのノートは良い」という回答があった。

その後、意見と感想としては、「資料Bでは各発行者の評価にあまり差は感じられないが、資料Aでは日本文教出版が秀でているように見える。逆に課題がはっきりしないのは心配であり、学校現場で若い先生方が単級を持つ場合には難しいのではないかと」という声があった。また、資料Bを見ると光村図書の評価が非常に高いので、そこも少し勘案した方がいいのではないかとという意見もあった。

それから、「資料Bでは光村図書が項目3において日本文教出版よりも評価が高く、光村図書が群を抜いている。日本文教出版は付属のノートの良さがあるということだけれども、光村図書は他者とは違う振り返りの視点の良さがあるのではないかと」という意見があった。

他にも、評価項目に関する意見なので教科書に対する意見ではないのだが、「キャリア教育など分かりやすい評価項目を今後入れてもいいのではないかと」という意見もあった。

以上の議論を経て、最終的に6者のうち特に評価が高かったのは、教育出版、光村図書、日本文教出版の3者である。

[道徳：質疑応答]

櫻吉委員

ぜひ読んでもらいたい心揺さぶられる文章がとても多く、ボリュームが非常にあると思います。国語の教科書以上に読まなければならないような気がしたのですが、そもそも道徳の授業時間数はどのくらいなのですか。

道徳調査委員

どの学年も1週間に1時間設定されており、年間では34～35時間になります。

櫻吉委員

そうなる、40もの話が選ばれている教科書もあって多過ぎる感じがするのですが、その点は問題ないのですか。

道徳調査委員

発行者によっては追加の教材が付いています。編修趣意書には、使ってもいいし、使わなくてもいいと示されており、全部の教材を扱わなければならないということにはなっていません。ただ、学ばなければならない内容の項目については35週の中できちんと学べるような工夫がされています。

櫻吉委員

一つの話も結構長くて、これを深く読むとすごく時間がかかると思います。例えばノートを時間内に仕上げられるのかというのちょっと心配になるのですが、その点はどうでしょうか。

道徳調査委員

現在も別冊のノートを使っていますが、45分の授業の中でノートに振り返りを書くところまでみんな進めることができます。導入や教材提示の工夫をICT等を活用して行うことで45分に収めることができます。

木村委員

ノートは1者だけにしか付いていないのですが、ノートは教科書の評価には関係しないということですか。付いていた方がいいとか、なくてもいいということに関して教えていただけたらと思います。

道徳調査委員

ノートに関しては、結論としてあった方がいいというのが現場の声です。先ほどお話があったように、評価する際にノートが非常に大切な手がかりになります。授業中の子どもの発言等もちろん見取っていきませんが、授業が終わった後でノートを読み返すと、子どもの授業の初めと終わりで変容を感じることに

ができます。他の発行者も学びの記録として一言感想を書いたり、学期に二つずつ書くというものもありますが、やはり評価を考えると、毎時間ごとに書くことができ、薄いので持ち帰りしやすいという点から、別冊のノートが付いているといいというのが現場の声です。

木村委員

1年生のところはアドバイスが付いていたり、だんだんと文章を書く力を養っていきけるようなノートになっているので、私も非常にいいと思いました。「かぼちやのつる」という教材が各発行者に載っているのですが、一般の方のご意見で「教材として疑問を持つ」という声がありました。この点は委員会では問題にならなかったのですか。

道徳調査委員

調査委員会では「かぼちやのつる」に関する話はありませんでした。ただ、これは以前からずっと使われている教材でもあり、問題はないと私自身は考えております。

長澤委員

項目6番の「いじめ防止を重点的に取り上げている」という評価の中で、「二つの教材をユニット化することで効果を上げている」という点についてももう少し補足していただけますか。

道徳調査委員

ユニット化というのは、一つのテーマの下、内容項目が異なる二つの教材を連続して学ぶことができるように掲載されていることを指します。教科書会社によっては学んだことをさらに深めるためのコラムを掲載して、教材とコラムでユニット化してあるものもあります。

長澤委員

どれでもいいので具体例を教えてくださいませんか。

道徳調査委員

日本文教出版の1年生の6ページをご覧ください。「人とのかかわり」というピンク色の吹き出しがあります。これがユニット化されている部分です。友達との関わりについてこの教材で学び、その後の「心のベンチ」という教材では体験的な学習を通して学ぶことになっており、教材と体験的な学習の二つをセットで取り扱うことになっています。

大島委員

道徳というとなかなか答えがないというか、生き方や人生という深い内容になってくると思うのですが、そうしたことを子どもたちに伝えるとなると、やはり教職員の力量や経験に左右されるような気がしています。そうした観点で言うと、この6者の中で、そうした差を少しでも埋めやすいというものはありましたか。

道徳調査委員

日本文教出版が若手もベテランも教えやすいという声がたくさん上がっていました。日本文教出版の6年生の72ページをご覧ください。教科書の最初の部分に内容項目と、その時間で付けたい、学びたい力に迫るような文言が工夫されています。これは導入部分の発問としても使うことができるので、若手もベテランも導入の発問を共通して行うことができると思います。また、題名の隣にリード文があるのも日本文教出版のみでした。教材のあらすじのようなものがここにざっくりと書いてあることで、子どもたちが中身を捉えやすくするような工夫がありました。

77ページの「考えてみよう」では、深めの発問が提示されています。これもまた若手が悩むところではありますが、深めの発問例があることで若手もベテランも同じような授業を組み立てていくことができます。そして「見つめよう生かそう」で、道徳では非常に大事とされている「自分に返す」ことができるような工夫もされています。

また、導入の発問、それから深めの発問（中心発問）、そして自分に返す発問が、金沢型学習スタイルの「つかむ」「考える」「まとめる」というスタイル

にも非常に合っていて、どの教員も授業を組み立てやすいものになっているという意見が出ていました。

野口教育長

それでは、また何かご質問がありましたら入っていただく形でよろしくお願  
いします。

(選定委員、調査委員 退室)

[道徳：審議]

櫻吉委員

取り上げられている文章はかなりジャンルも似ているし、同じ話も取り上  
げられていますので、それ以外のところを見たときに、東京書籍は「つなが  
る」「ひろがる」というコラム的なものが間に挟まれていますし、日本文教出  
版は「心のベンチ」にいろいろな話が出ています。光村図書は、生活科で採  
用したヨシタケシンスケさんの絵本のようなお話が各学年にも出ていて、ど  
れもこれも工夫されていてあまり差が出ないと思いました。先ほども調査委  
員長からお話があったように、授業のやりやすさやノートの使いやすさから  
すると、日本文教出版が適切なのではないかと思います。

また、全発行者を見ると子どもの写真を採用しているのは日本文教出版だ  
けです。それぞれかわいらしいイラストが中にも入っているのですが、本文  
以外で子どもの写真を使っているのは日本文教出版だけだったので、低学年  
の子はイメージしやすいというか、取りかかりやすいと思いました。

野口教育長

従って日本文教出版ということですね。

櫻吉委員

そうです。

大島委員

私もこの6者の中では日本文教出版が一番良いと思います。前回の採択の  
ときにも同じような議論をした記憶があるのですが、最終的にノートの使い  
やすさの議論になりました。今回は他者がそういう形にしてこなかったのが  
ちょっと不思議だったのですが、そこが日本文教出版の特徴でもあるという  
ことや、資料Bの調査研究報告書を見ても道徳ノートの良さは圧倒的に評価  
として挙がっていたので、現場としても使いやすいのだろうということを考  
えると、日本文教出版がいいのではないかと私は思います。

丸山委員

私も結論から言うと日本文教出版の方がいいと思っています。まずノート  
に関しては、少しあっさりしていると私も最初は思っていました。四角い欄  
と線が入っている欄があって、これをどうやって使うのかなと思ったので  
すが、話し合いなどで自由に友達と話した内容を四角の欄などに書いて、そ  
の後で自分の意見を述べたり文章化したりするにはいいのではないかと  
思っています。それが現場でも使いやすいというお話だったので、ノートという点  
では評価が高いです。

それから、オリンピックなどスポーツのことが結構書かれていましたし、  
音楽のお話も入っていて、他教科との関連が非常に図られていると思いま  
した。

光村図書はイラストも非常に優しい気持ちになれるような感じでいいとは  
思ったのですが、日本文教出版は学習の展開が「気づく」「考える・深める」  
「見つめる・生かす」という形になっており、トータルで日本文教出版の方  
がいいかなと思っています。

木村委員

私も結論は日本文教出版がいいと思っています。他の発行者も、最後の方  
に「考えよう」「話し合おう」という言葉があり、授業が進めやすいよう  
にできているのですが、中でも日本文教出版が授業が進めやすいという先生  
方の言葉があったのが決定的だったのと、やはり道徳ノートで題材ごとに振り返

りができて非常にいいなと思いました。それから6年生に「いじめと法律」という文章があって、法律ではどこからがいじめなのかということが書いてあったり、『子ども六法』という本の紹介があったりして、非常に面白いと思いました。それぞれの発行者の良さもあるのですが、結論として日本文教出版がいいと思いました。

貞廣学校指導課長

道徳ノートの話があったと思うのですが、各発行者とも今回、二次元コードのところを読み取るとワークシートが入っているようになっていて、そのワークシートを活用するのだと思います。道徳のノートがなくなったのではなく、二次元コードの中にワークシートがあって、そこで子どもたちが書くということをもどの発行者も入れてありますので、なくなったわけではないということだけお伝えします。

野口教育長

授業の前に先生方がそこから引き出して準備をする手間はあるということですよ。

貞廣学校指導課長

そうです。そこはあります。

野口教育長

今までご発言いただいた方は、日本文教出版がいいのではないかというご意見です。

田邊委員

道徳の場合は評価の仕方が独特で、記述をもって評価するということがありますので、ノートの有無はかなり大事なことですけれども、実際こういう紙媒体やデータで各者工夫を凝らしているという気がします。こうして並べると、一番分量が多いのが日本文教出版なので、ノートがこういう形であるのもしかするとだんだん変わっていくのかなという気がしないではありません。

また、道徳で何を学ぶのかということに関しては、各者冒頭で、この学年ではこんな力を身に付けるために道徳を学んでいくということが示されています。特に明示してあると思ったのが光村図書で、1年生には特にないのですけれども、2年生では19の扉を開いて学んでいくという形になっていて、6年生になるともっと増えて22の項目に広がっていきます。このように道徳で何を目指していくのかということが各者表示されています。

その中でも日本文教出版の場合、何年生でも、そうした力が構造化されているのです。自分がある、徐々にそれが広がっていくという形で、道徳を学ぶことがどこにつながっているのかということも構造的に示しながら学びを積み重ねていくことが示されています。道徳はいろいろなことを考える場面が多いと思うのですが、それは何のためなのかという生きる力をつけるためです。そのことを表示する方法に関しては、日本文教出版の方が子どもたちに考えさせやすいのではないか、想定させやすいのではないかと思います。

それから、調査委員長のご説明にもありましたように、各題材の冒頭にリード文を提示したり、登場人物を示したりして、この題材がどんな話なのかがかみやすいように工夫されています。題材に関しては編集委員会で作られているものがかなり多いのですが、工夫を凝らして道徳題材が盛り込まれておりますので、それはそれで非常に考えがいがある内容になっていると思います。それをどうやって進めていくのかということに関して、他者と違うつくりになっている点が日本文教出版の特徴だと思います。ノートが分冊になっているのも先生方にとっては使いやすいというご発言がありましたので、これらの点を統合して考えれば日本文教出版が望ましいのではないかと思います。

長澤委員

今の田邊委員のご発言と関連するのですが、いじめ防止との関係で、各学

年に応じたいじめ防止、いじめはしてはいけないというメッセージの単元が用意されています。日本文教出版が優れているのは、まさに最初は自分から、次に周りの人、みんな、そして生命、自然という形の広がりの中で、学年ごとに適切な素材を選んでいるところだと思っています。

日本文教出版の2年生で、135ページの「心のベンチ」に「ふわふわちくちく」という文章があるのですが、「自分がこんな言葉を言われたら嫌だよな」とか「そういううれしい気持ちがあるかな」というふうに、自分ごととしてのいじめ問題に関して、まず自分の心に向き合うことを素材にしています。そして3年生の92ページの「心のベンチ」では、「心の声に耳をかたむけて」という文章で、周りの人にも目を向けるような形になっています。2年生のときは自分の内面を見る形になっていたのが、今度はクラスみんなに目を向けて、「こんなことがあったら誰がどんな気持ちになるかな」という形で自然といじめ問題に目を向けるようになっています。

そして、6年生の素材は142ページから「私じゃない」という表題で始まるのですが、傍観者としていじめを見たときにどんな気持ちになるかというふうに、自分が当事者でなかった場合にこの問題にどのように関わっていくべきなのかという視点、まさに「周りの人」から今度は「みんな」というふうに、さらに広がった視点でいじめ問題に自分の身を置いて考えるような素材になっています。年齢の発達度に応じてこの問題に継続的に向き合っていくという点ではとてもよくできた素材だと思いました。結論としては日本文教出版がよいと思っています。

野口教育長

ここまで皆さん日本文教出版ということで表明いただいたと思います。私も全く同じです。

自分が注目したのは、スタートアップの部分なのです。スタートアップを見ると、どの学年も全く同じ、単に漢字を使っているか、ひらがなを使っているかの違いだけで、こんなものが1年生から出てきたら道徳が嫌いになるだろうという教科書も幾つかありました。中にはそのあたりを配慮してあるところもあるのですが、日本文教出版の教科書は低学年の間はあまり文字を使わないで、絵や写真を見て道徳の学び方を少し考えさせて、学年が進むにしたがって言葉を入れながら学び方をしっかりとつくり上げていくところがよくできているのではないかと思います。

初めは光村図書もいいなと思っていたのですが、光村図書はどちらかというとお話が中心で、自分がこれを使ったら国語の授業をやってしまうかなと感じました。それは自分の授業の仕方が下手なのでしょうけれども、やはり東京書籍を見てみても、日本文教出版は優れているのではないかなと思いました。教育出版も評価されていましたが、中には日本の伝統文化や礼儀作法の部分など、これは市民の意見にも出ていましたが、こういったものが載っていたら押し付けではないかと捉えられるような内容も若干あるように感じました。

前と比べてノートが簡素化されて心配なところはあったのですが、先生も育ってきていますというお答えがありましたので、日本文教出版で結構だと思っています。では、日本文教出版でよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

野口教育長

では、道徳は日本文教出版に決定します。

[採択の確認と次回日程]

野口教育長

それでは、本日の分の3種目が終了しましたので、これまでの審議を踏まえて13種目について確認したいと思います。国語は光村図書、書写も同じく光村図書、社会は東京書籍、地図が帝国書院、算数が東京書籍、理科も東京書籍、今回の採択で唯一替わったのが生活科の光村図書、そして音楽が教

育芸術社、図工は日本文教出版、家庭科は開隆堂、保健は東京書籍、英語は東京書籍、そして道徳が日本文教出版、以上になりました。よろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

野口教育長

それでは、委員の皆さま、3日間大変熱心なご審議を本当にありがとうございました。議事録への発言者の記名については、協議を行う必要がありますけれども、本日は予定の午後7時も過ぎております。審議が長時間になりましたので、日を改めて協議したいと思いますが、いかがでしょうか。

異議なし。

委員一同

それでは、皆さまのご予定について確認させていただきたいと思います。

野口教育長

(日程調整)

それでは、次回は9月5日(火) 13時30分から行うことにしたいと思います。

長時間ありがとうございました。以上で臨時教育委員会議を終了します。

以 上



## 令和5年 教育委員会第3回臨時会 会議録

1 日 時 令和5年9月5日(火)  
開会 13時30分  
閉会 13時40分

2 会 場 金沢市役所 第二本庁舎 2階 2201会議室

3 出席委員(6名)

教育委員長	野口 弘
教育委員	田邊 俊治
〃	大島 淳光
〃	木村 陽子
〃	丸山 章子
〃	長澤 裕子

4 欠席委員(1名)

教育委員 櫻吉 啓介

事務局	教育次長	上寺 武志
	担当次長(兼)学校指導課長	貞廣 賢了
	学校指導課担当課長(兼)課長補佐	小川 隆庸

5 案 件

非 臨時議案第4号 令和6年度使用小学校教科用図書の採択について (学校指導課)

6 議事の経過等 以下のとおり

臨時議案第4号について非公開で審議に入り、議事録への発言者名の記載について協議した。

[案件の説明及び諸報告について]

教科書採択に関する案件の議事録への発言者名の記載について、条件付きで承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

○ 議事録への発言者名の記載について

野口教育長

8月10日から開始した審議を通して、小学校教科書の採択に関して様々なご発言を頂きました。これまではお名前を表記しない形で議事録を公表してまいりましたが、今回の3日間の審議を通してご発言いただいた内容を踏まえながら、改めて発言者のお名前の記載についてご意見を伺いたいと思っています。

どなたからでも結構ですので、ご意見などをお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

大島委員

より説明責任を果たす観点から、どの言葉に対しても責任を持つという意味で、発言者の名前は出してもいいのではないかと思います。ただし、

以前の私の経験では、私が教育委員になったばかりだったと思うのですが、最初の教科書採択のときに個別に意見を言われたことがありました。私も経営などいろいろな立場がありますので、個別に意見を述べられたり、会社に電話があったりすると、ちょっと厳しいなというところがあって、こういうことがないという条件付きであれば、名前を出してもいいのではないかというのが私の意見です。

木村委員

会議録を見せていただいて、例えば「2者で迷っています」といったことを結構言っていると思うのです。最終的に結論は出しているのですが、途中で変更した科目もあつたりしますので、より良い答えを出すための審議の過程だと思っただけであればいいですし、先ほど大島委員がおっしゃったように、説明責任は非常に大事だと思うのです。ただ、個人的に封書が来たりするといかがなものかと思っますので、そういうふうになったときはまた対応していただければと思っますが、あとは名前を載せてもかまわないという思っです。

長澤委員

会議体の意思決定過程が記されていれば、説明責任は一定果たされていると考えています。ただ、一層の説明責任を果たすという意味では、発言者の名前を出すことも一つのやり方だと思っしています。普段の定例会議の議事録には発言者の名前が出ていますし、今回の教科書採択においても、名前を出すことについては私は構わないと考えています。

丸山委員

私は発言者の名前を掲載することに特に問題はありません。起こり得るリスクが具体的にどういふことなのかはまだしっかりと把握できていないので、そのあたりの対処をしていただければ構いません。

田邊委員

公開の要望があるというのは昨今の動きとして承知しています。ただし、それが全国的な動きとなり得ているかどうかは見定め難いところがありますが、調査によれば一定の状況はつかめる一方で、公開されている状況によってどういふ問題が生じているかという点について不明であり、この点について十分に把握していく必要があると思っます。これまでの審議の取り扱い方について変更することになるので、すでに先行する自治体ではどんなメリットやデメリットがあるのかということについて把握する必要があると思っます。審議をして決めていく、そのプロセス自体は議事録を通して公開してきたところであり、記名して公開することはこれまでよりは一步踏み出すこととなりますが、そのことに異論はありません。

ですけれども、傍聴者を入れての公開は、今までの審議形式を大きく変更することとなりますので、先行自治体での調査を重ねた上で、慎重に審議する必要があると思っます。

今の段階では議事録で発言者を記名して公開する、いままでから一步踏み出す対応については差し支えないと考えます。

野口教育長

ありがとうございました。今日は櫻吉委員がお仕事で欠席されていますが、櫻吉委員から何かご意見を頂戴していますか。

小川学校指導課長  
補佐

櫻吉委員からは、「議事録に発言者名を記載していただいて構いません」といふご意見を頂いています。

野口教育長

ありがとうございました。今ほど櫻吉委員を含めて6名の委員の皆さまからご意見を頂戴しましたが、基本的には議事録に発言者名を記載する方向にあるように受け取りました。ただ、教育委員の皆さんにおかれましては、教育委員以外のお立場もお持ちですので、発言によって教育委員個人の活動や実生活に影響が出るのではないかという危惧もあるように感じ

取ることができました。

そこで、より一層の説明責任を果たすという観点から、議事録には発言者名を記載して公表することとしますが、このことによって教育委員個々の活動や実生活等に影響が出た場合には、議事録への発言者名の記載を改めて協議することという条件を付けることとかがでしょうか。

委員一同

異議なし。

野口教育長

なお、7月31日の定例教育委員会議で協議しました「教科書採択に関する教育委員会議を非公開とすること」についての協議と、本日の「議事録への発言者名の記載について」の協議は、教科書採択に関するものとして併せて発言者名を記載した議事録を公表したいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

野口教育長

それでは、教科書採択の議事録には、会議の非公開を決定した部分と、議事録に発言者名を記載することを決定した部分を含めて、発言者名を記載した議事録を公表させていただきます。ただし、このことによって教育委員個々の活動や実生活等に影響が出た場合には、議事録への発言者名の記載について改めて協議するという条件を付けることといたします。よろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

野口教育長

それでは、これをもちまして「臨時議案第4号 令和6年度使用小学校教科用図書の採択について」の審議を全て終了いたします。長時間ありがとうございました。

以 上